

此ノ如キ地ニ宿營スルト雖モ情況ニ依リテハ直接警戒ノ爲メ徒歩ノ外衛兵ヲ配置スルヲ要スル事アリ然ルトキハ其衛兵ノ馬匹ハ相合シテ宿セシメ、又道路ヲ閉塞スル等ノ處置ヲ必要トス。

舍營ニ於ケル馬匹ノ管理

宿營ニ於テハ人員ノ休憩、睡眠ノミヲ專一トシ馬匹ニ關スル注意ヲ缺如スヘカラス人ハ自ラ安キヲ求メ適良ナル方法ヲ發見シ得ヘキモ馬匹ニ於テハ繫畜セラレタル地點ニ在リテ飼養者ノ手ニ一命ヲ委スルノミナラス馬匹ノ疲勞ヲ恢復スルノ度ハ人ヨリ遲シ而シテ一度是等馬匹ヲ毀損センカ其困難豫想以上ニアリ故ニ厩舎及飼與ニ顧慮シ馬匹ノ状態ヲ善良ニ保持セシムル如ク監視スルハ各隊長ノ責任ナリトス。

第三章 露 營

一 配 宿

露營部隊ノ兵力ト地形ノ利用

露營ハ戰鬪準備容易ナリト雖モ休養上ハ有利ナルモノニアラス從テ露營スル場合ニ於テハ其戰術上許ス範圍ノ地域ニ於テ休養ニ最モ有利ナル地形ヲ撰擇スルヲ要ス、而シテ此ノ地形ノ撰擇ハ露營部隊小ナルニ從テ最モ容易ナルモノナリ之ヲ極論スレハ露營人員一人ナレハ一塊ノ堆土、一本ノ樹木モ亦以テ之ヲ有利ニ用ヒ得ヘシ一小隊ノ爲メニ有利ナル森林モ一中隊ニハ小ニ、一中隊ニ有利ナル乾燥地モ一大隊ニハ小ナリ、斯ノ如クシテ部隊大ナルニ從テ適良ナル地物、地區ヲ發見シ得ルコト益々困難トナルニ至ル若シ此ノ際有利ナル小地域ヲ悉ク利用セント欲セハ大部隊ヲ解散シテ小部隊毎ニ其地物、地區ヲ利用セサルヘカラス斯ノ如キハ指揮統御上許サ、ル所ナリ。

從テ大部隊ノ露營ニ於テハ地物、地形ノ利用ニ關シテハ到底戰術上ノ要求ト相容レサルヲ思ヒ休養上ニ就テハ其程度ヲ以テ満足スルカ或ハ是等ノ利益ヲ暫ク放棄シ他ノ重大ナル要求ニ從ハサルヘカラス從テ土地ノ適否、障蔽、風向等ヲ深ク顧

慮スルコトナク露營ノ設備ハ總テ陣中要務令ノ規定ニ從ヒ各隊ノ境界、又銃線、休
宿地、炊事場、廁圍等ノ位置ヲ決定スルヲ要ス。

一 地ニ露營スル兵員ノ大小ト戰鬪準備

トノ關係

凡ソ戰鬪準備ハ必スシモ衆多兵員ヲ一露營地ニ集合スルヲ以テ確實ナリト爲ス
ヘカラス何トナレハ不意ノ敵襲等ヲ受クルニ當リ混亂、喧騒等ヲ惹起スル虞レハ
部隊ノ大ナルニ從テ益々大ナレハナリ、而シテ是等ノ災禍ハ暗黒ナルニ從テ愈々
加フルニ至リ、部隊ノ整頓ハ頗ル困難トナルモノトス。
換言スレハ露營ニ在ル大部隊ハ其大部隊ヲ適時適良ニ使用シ得テコソ價値アル
モ徒ラニ混亂、紛糾シテ使用シ得サルカ若クハ使用スルニ至ル迄テ多大ノ時間ヲ
費シ時機ヲ失スル時ハ大部隊ノ集團ハ何等ノ意味ヲナサ、ルナリ。
此ノ故ニ眞ニ大部隊ヲ適時、適當ニ使用シ得ンカ爲メ即チ戰鬪準備ヲ良好ナラシ
メント欲セハ之ヲ一地ニ集ムル代リニ數部ニ區分シテ露營セシムルヲ可トス然

ルトキハ部隊ノ整頓容易ナルノミナラス地形ノ利用上亦便利ナリトス。

數部ニ區分スル露營法(露營ノ區分法)

前述ノ如ク大部隊ヲ一地ニ集合シテ露營スルコトハ一見有利ナルカ如クニシテ
之ニ伴フ害アルヲ以テ情況之ヲ許セハ數部ニ區分シテ露營スルヲ可トス、而シテ
之カ區分法ハ左ノ如シ。

- 一 警戒兵(前衛等)ハ其任務達成上兵力ヲ集結シ置ク必要アルニ依リ其方面ノ
要求ニ從テ露營ス。
- 二 警戒兵(前衛等)以外ノモノハ成ル可ク兵種毎ニ區分ス。
- 三 砲兵ハ自衛力薄弱ナルヲ以テ之ヲ孤立セシムルコトナク、他兵種ト連合セ
シム。

兵種毎ニ區分スルノ利益ハ一地ニ其露營スル兵力ヲ少ナラシムルノ利アル外、各
兵種獨立セルヲ以テ他兵種ト混同スル場合ニ比シ設置容易ニシテ勤務單簡ニ其
地形、地物ヲ適當ニ利用シ得ルノ利アリトス、左ニ一師團ニ於ケル區分ノ一例ヲ示

兵種	區分	法
步兵	旅團、聯隊等ニ分ツ而シテ是等ハ軍隊區分ニ從ヒ距離間隔ヲ大ニシ且ツ其軍隊區分内ニ於テ露營單位間ノ距離、間隔ヲ規定ノ如クス。	
騎兵	聯隊(大隊)一地ニ位置ス而シテ各中隊間ニ規定ノ間隔ヲ取ル。	
砲兵	聯隊一團トナリ又ハ大(中隊)及聯隊段列ニ分レテ他兵種(成ル可ク步兵)ノ傍ラニ位置ス而シテ是等ハ規定ノ間隔ヲ取ル。	
工兵	大隊一地ニ位置ス而シテ其兵力大ナラサレハ他兵種ト同地ニ在ラシメ得。	

以上ノ如クナルモ師團全部カ同一地ニ露營スルカ如キハ極メテ稀レナリトス蓋シ師團カ行軍スル場合或ハ戦闘スル場合ニ於テハ軍隊區分ノ關係多クハ之ヲ許サ、レハナリ、例ヘハ、

一 行軍スル場合。

騎兵ハ獨立騎兵トシテ前方ニ離レテ宿營スルカ或ハ後退シテ宿營シ前衛騎兵ハ前哨騎兵トシテ前哨部隊ノ近傍ニ宿營シ。

歩兵ハ其三分ノ一乃至六分ノ一ハ前衛トナリテ主力ノ前方ニ位置シ其他ハ本隊トナリテ後方ニ宿營ス若シ是レヨリ側衛ヲ分派シ在レハ其主力ハ益々減少スヘシ。

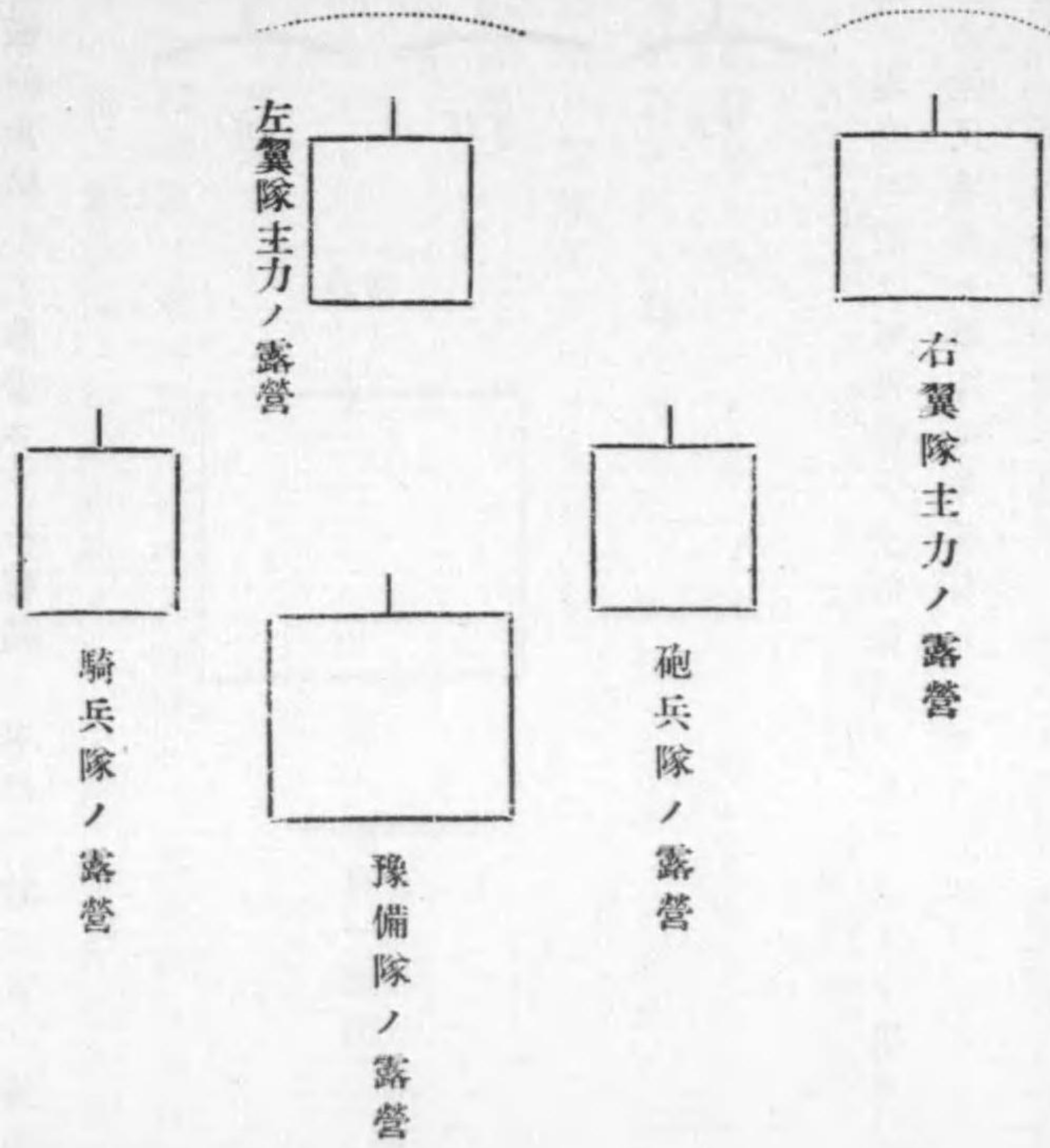
砲兵モ亦其一部ハ前衛ニ屬スルヲ以テ本隊ニハ完全ノ聯隊ヲ有スルコトナシ。

工兵ハ其主力前衛ニ在ルモ其一部ハ本隊ニ在リ從テ是等ハ前衛ト本隊トニ

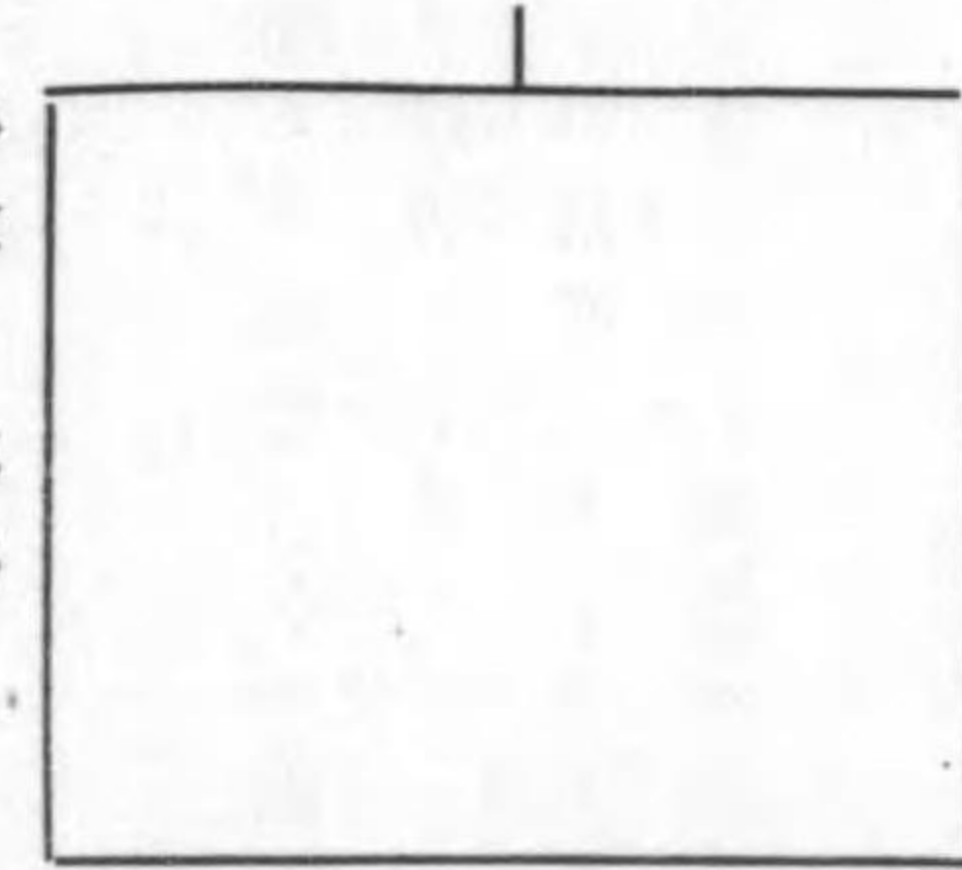
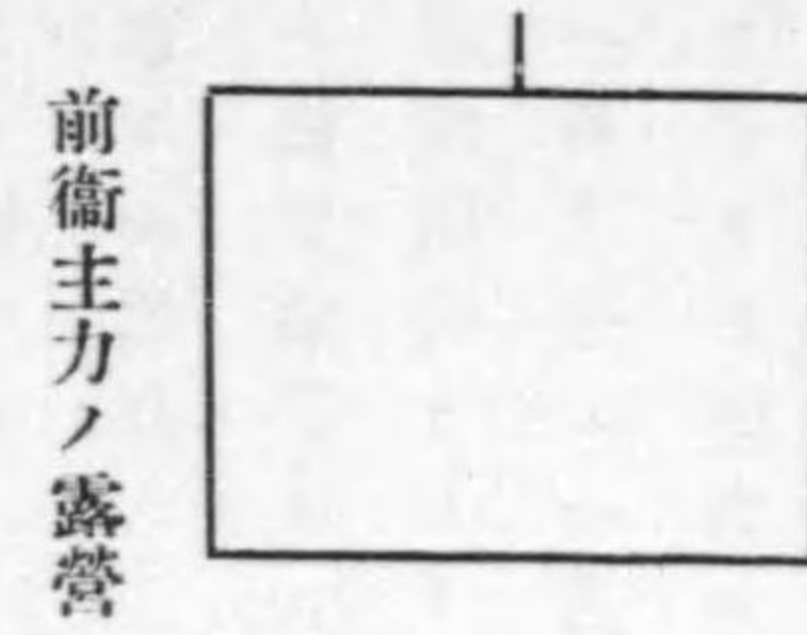
衛生隊

他兵種ト同所ニ一團トナリテ位置ス。

第六篇 宿營

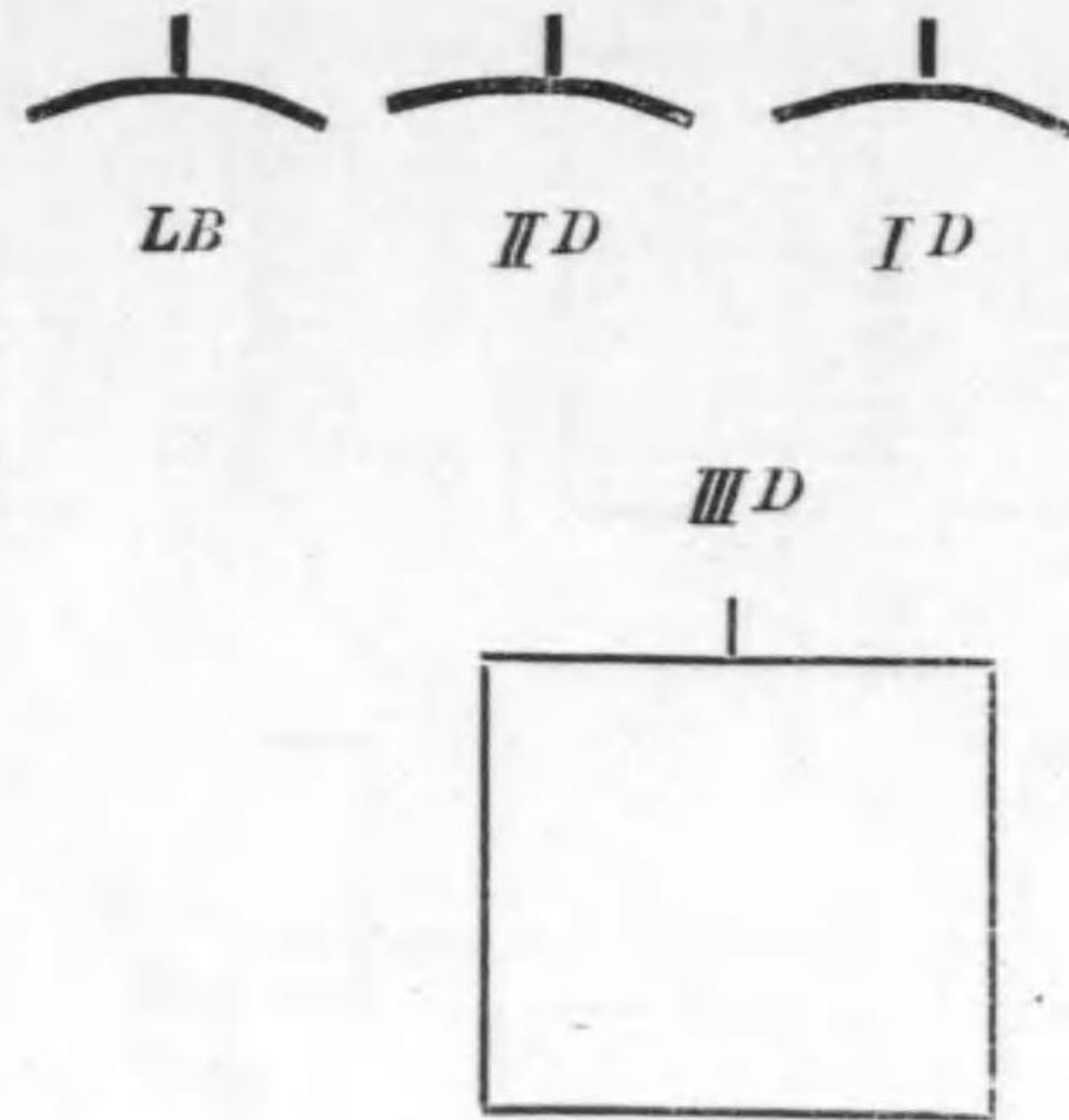


夫々必要ノ距離ヲ存シテ宿營スルヲ至當トスレハナリ。



二 戰鬪ノ場合ニ於テハ軍隊區分ニ依リテ夫々其位置ヲ占領シ此ノ位置ヲ多
 大ニ變換シ或ハ之ヲ廢棄シテ全部集合シテ露營スルヲ許サレハナリ。

師團全部比較的集結シテ露營スルハ戰鬪ノ場合ニ於テ軍ノ豫備隊タル場合ナリトス。



軍ノ豫備(一師團)

然レトモ此ノ場合ニ於テ軍豫備ノ全部露營ヲ爲サ、ルヲ得サルカ如キ急迫ノ場合若クハ全ク住民地ナキ場合モ亦稀有ナルモノトス。集中々ニ於テハ師團全部一地ニ集結シ在ルモ戰術上露營ヲ必要トスル事ナク又

改點舊令ノ要
米突ヲ以テ
ルテ新令ヲ
ハルモシタ
テハ歩ヲ以
タリ示サレ

全ク住民地ヲ利用シ得サルカ如キコト無キヲ以テ師團全部ノ露營ヲ起生スルニ至ラサルヘシ。

露營ニ於ケル部隊間ノ距離、間隔

大部隊ヲ一露營地ニ集ムルノ止ムヲ得サル時ハ土地ノ許ス限り各部隊間ニ十分ノ距離、間隔ヲ取り以テ集合及夜間ノ辨識ヲ容易ニシ混雜ヲ防キ大部隊ノ集合ヨリ生スル不利ノ影響ヲ少ナラシムヘシ。

歩兵大隊間 二十歩。

歩兵聯隊

砲兵中隊

各兵種ノ部隊間

三十歩。

以上ハ勿論距離、間隔ノ最少限ニシテ大部隊ヲ一露營地ニ集ムルヲ要スルコトヲ基礎トス若シ此ノ最少限ノ距離、間隔ヲ取ルヲ要セサル情況ニ於テハ是ヨリ大ナル距離、間隔ヲ取ラシメサルヘカラス。

厠園ハ之ヲ風上ニ設クルコトナキヲ要ス、從テ其時ノ風向ニ鑑ミ適宜露營地ノ左右ニ設クルモノトス。

露營ノ配置ヲ決定セハ其進入、進出路ヲ區分決定シ他隊ニ影響ヲ及ホス事ナク所要ノ行動ヲナシ得ルヲ要ス、從テ露營地ヲ撰定スルニ當リテハ道路交通網ノ關係ヲ顧慮シ其進入、進出ヲ容易ナラシメサルヘカラス其他ニ關シテハ偵察ノ部ヲ參照スヘシ。

露營地ノ偵察

露營地ノ偵察ハ其時ノ情況ニ從ヒ戰術上ノ要求ト休養上ノ便利トヲ併セ考ヘサルヘカラサルコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ此ノ故ニ戰術上苟クモ之ヲ容許スルトキハ常ニ其範圍ニ於テ休養ヲ十分ナラシムル事ヲ計ラサルヘカラス、今左ニ偵察ノ要件ヲ示サンニ。

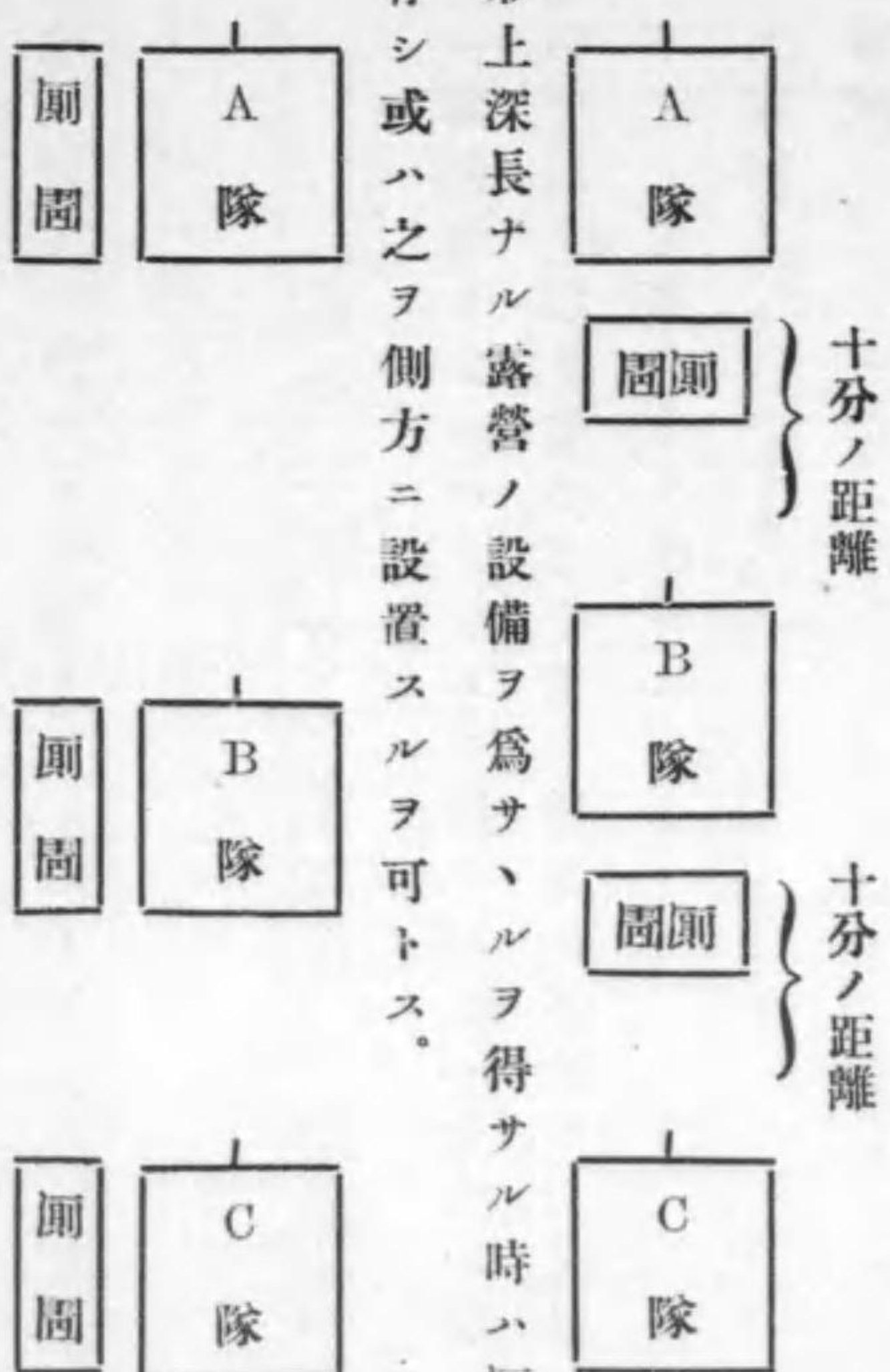
其一 戰術上ノ要件

要件 說

明

露營ノ配置法

凡テ露營ハ横ニ並列スルヲ努メ前後ニ重疊セサルヲ可トス、是レ後方ニ在ル部隊ハ前方ニ在ル部隊ノ炊煙、汚物及厠園ノ汚臭ノ爲メ甚シク煩ハサル事ナキカ爲メナリ(露營設備ニ於テ炊事場、行李及其人馬ノ厠園ハ最モ其後方ニアリ)。



若シ地形上深長ナル露營ノ設備ヲ爲サルヲ得サル時ハ厠園ニ注意シ十分ナル距離ヲ存シ或ハ之ヲ側方ニ設置スルヲ可トス。

掩護	幅員	位置
<p>露营地ハ我カ前哨ニ掩護セラレ敵ノ急襲ニ對シ安全ナルヲ要ス殊ニ敵眼ニ遮蔽スルヲ要ス。</p>	<p>幅員ハ兵力ニ適シ諸隊ヲシテ戰術上ノ使用、集合其他ニ困難ナラサラシムルヲ要ス。</p>	<p>事ニ臨ミ一地區ヲ守備スヘキ時ハ其地區ノ後方ニ露營ス然レトモ其相距ルコト近キニ過クヘカラス又敵ノ急襲ニ遇フモ機ニ後ル、コトナク之ヲ占領シ得ルヲ要ス。 進入、進出容易ナルコト從テ隘路ヲ通過シ或ハ單一條ノ進入、進出路ノミナルカ如キハ不利ナリ、行軍ノ際ニハ行進路ト著シク隔離セサルヲ要ス。 退軍ノ時ハ障碍物ノ後方ニ露營シ前進ノ時ニハ其前方ニ主力若クハ一部ヲ出シテ露營ス。</p>

其二 休養上ノ要件。

備考	交通	形状
<p>要スルニ其時ノ情況ニ從ヒ我軍ノ目的、兵力等ニ依リ就宿出發、使用等ニ適スル如クナルヲ要ス。</p>	<p>各露营地間ノ交通便ナルコト。 各露营地ノ進入、進出容易ナルコト。 其部隊ノ占領スヘキ位置間ノ交通便ナルコト。 要スレハ之カ爲メ交通路ヲ開設スルヲ要ス。 然レトモ交通路上ヲ避クルヲ要ス。</p>	<p>露营地ノ形状ハ戰鬪展開ニ便ニシテ又出發迅速ナル如ク決定スルヲ要ス。</p>

要件 說

明

睡眠	給養	衛生
睡眠ヲ容易ナラシムル爲メ喧騒紛亂ノ場所ニ遠キヲ要ス從テ	水量ヲ得ルコト十分ナルヲ要ス。 露營ノ軍需品(燃料、藁、乾草等)ヲ得ルコト十分且ツ容易ナルヲ要ス。	露營地ハ衛生上有害ナラサルヲ要ス、之カ爲メニハ左ノ要件ヲ具備スルヲ要ス。 一 土地乾燥セルコト、水分排泄良好ナル砂地高燥ニシテ濕氣ヲ含マサル耕地等ヲ可トス、草地ハ乾燥ノ氣候ニアリテモ之ヲ避クヘク、沼澤ニ沿ヒタル土地モ亦之ヲ避クヘシ。 二 風雨、露雪等ヲ障蔽スルヲ要ス、之カ爲メニハ森林内、山麓風向ニ反スル村落ノ側方等ヲ可トス。 三 地方病、風土病、流行病等無キ土地。

幅員	
幅員ハ適當ニシテ過度ニ狹縮ナルヘカラス、狹縮ナレハ戦闘準備上ニ不利ナルノミナラス衛生上ニモ亦不利ナリ、故ニ其幅員ハ露營ノ設備ニ示サレ在ルモノヲ以テ最小限トス。	交通瀕繁ナル街路ノ近傍ハ不利ナリ。

露營地積ノ標準

露營地積ノ標準ハ陣中要務令ノ各兵種ノ設備及部隊間ノ間隔ニ依ルコト勿論ナリト雖モ左ニ單位ノ地積標準ヲ示サントス。

種	類	正	面	縦	長
一	人	一	米	二	米
一	馬	一	米	三	米

一馬	二馬	四馬	六馬
輓車輛	輓車輛	輓車輛	輓車輛
六	八	八	八
米	米	米	米
十	十	十	十
米	米	米	米
二十	十六	二十	二十
米	米	米	米

各兵種露營隊形ノ範例

其一 步兵ノ露營

步兵ハ併立縦隊ノ縦隊横隊各中隊ノ間隔ヲ約半小隊面ニ十歩ヲ加ヘタルモノニ等シクスヲ以テ大隊毎ニ露營ス。
大隊露營地ニ到レハ右ノ隊形ヲ作り各小隊ノ間隔ヲ増シテ約二十歩ト爲シ而シテ又銃ヲ爲ス。
馬繋場ハ繋馬杭ト繋馬索トヲ以テ設備シ馬具ハ車輛及馬列ノ後方ニ置クヘシ。
步兵機關銃隊ノ露營ハ山砲兵ノ露營ニ關スル範例ノ要領ニ準シ設備スルモノト

步兵大隊ノ露營



(數字ハ歩數ヲ示ス)リテ下馬ス。

其二 騎兵ノ露營

騎兵ハ聯(中)隊縦隊ノ右側若クハ左側ニ面セル隊形ヲ以テ露營ス。
各小隊ノ列兵ハ左(右)翼下士ヲ基準トシテ右(左)方ニ間隔ヲ開キ小隊正面幅ヲ三倍ニ擴張シ第二列兵ハ第一列兵ノ左側ニ出テ各兵略同一ノ間隔ヲ取

兵卒ハ適宜ノ方法ヲ以テ馬匹ヲ繋留シ或ハ半小隊(分隊)毎ニ馬匹ヲ保持ス。
兵卒ハ又銃線ニ集合シテ又銃ヲ爲シ軍刀ヲ適宜ノ方法ニ依リ配置シ要スレハ之ニ彈藥盒ヲ懸ク。
兵卒ハ再ヒ馬列線ニ到リテ卸鞍シ之ヲ馬匹ノ後方ニ配置シ鞍下毛布ハ天候ニ依

騎兵隊ノ露營



(數字ハ歩數ヲ示ス)

リ鞍上若クハ鞍下ニ置キ或ハ馬匹ノ被覆ニ用フルコトヲ得。頭絡ハ之ヲ鞍上ニ置ク。騎兵機關銃隊ノ露營ハ山砲兵ノ露營ニ關スル範例ノ要領ニ準シ設備スルモノトス。

其三 騎兵圓陣露營ノ場合

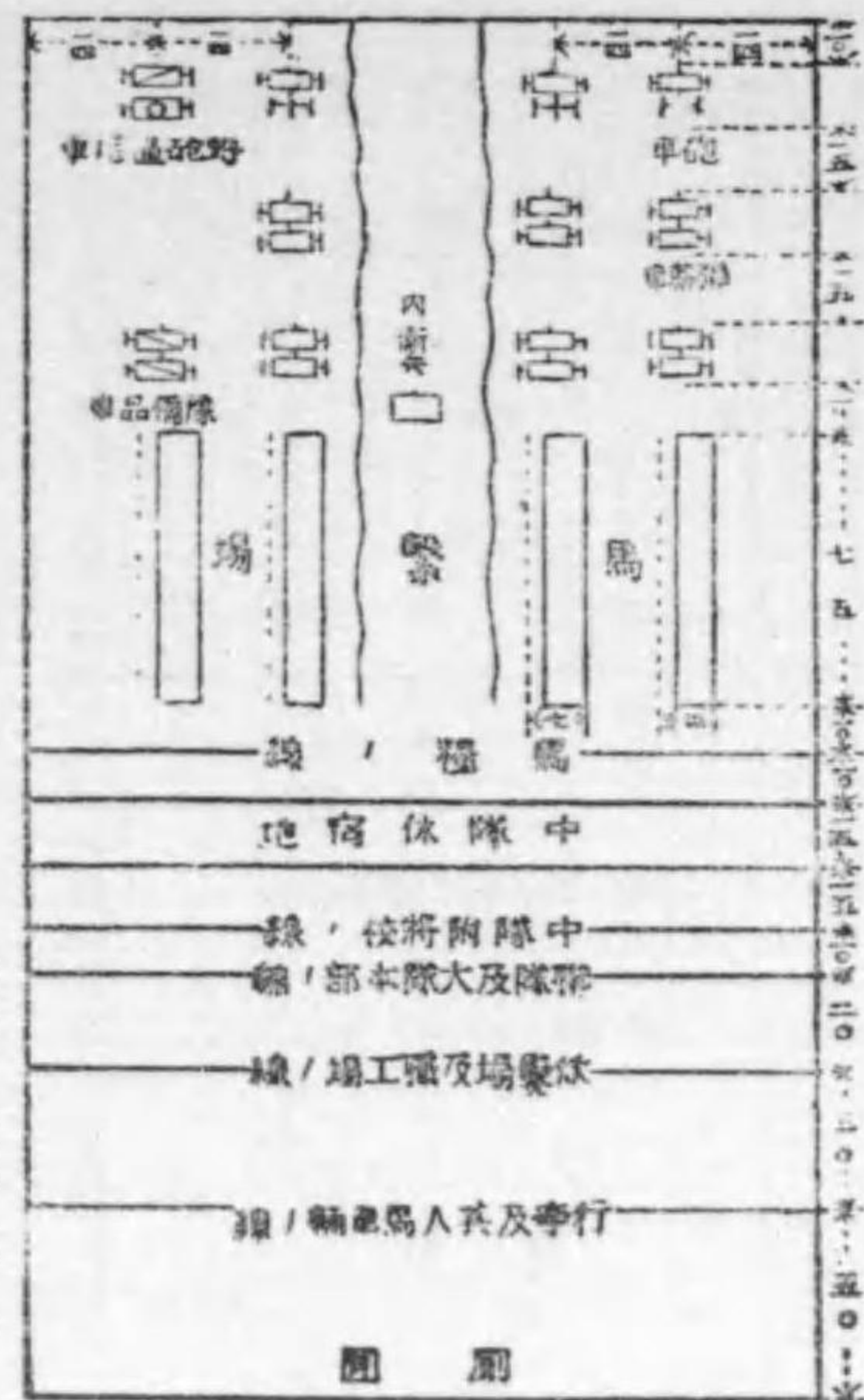
馬匹ヲ繫留若クハ保持スルハ騎兵ニ特別ナル携帶野繫索ヲ有セサル結果若シ馬繫杭ヲ作ルヘキ應用材料ヲ得ルコト能ハサルカ或ハ之ヲ得ルモ土地凍結ノ爲メ之ヲ植立スル能ハサル場合ニ於テハ兵卒ヲシテ馬匹ヲ保持スルニ便ナラシムル爲メ適宜ノ馬數ヲ合シテ圓陣ヲ作ルヲ有利トスレハナリ其馬數ハ小隊ノ伍數其他馬匹調教ノ程度等ニ應シ各小隊各列毎ニ二個トシ或ハ一個ト爲スモノトス又

此ノ圓陣法ハ戰鬪準備ノ嚴肅ヲ要シ馬裝ヲ脱スルコトナク露營スルカ如キ場合ニ於テ適用スルコトモ多カルヘシ。

其四 砲兵ノ露營

一 野砲兵ノ露營

野砲兵ハ中隊及聯隊段列毎ニ露營ス而シテ砲車ハ十四歩ノ間隔ヲ以テ第一線ヲ野砲兵中隊ノ露營

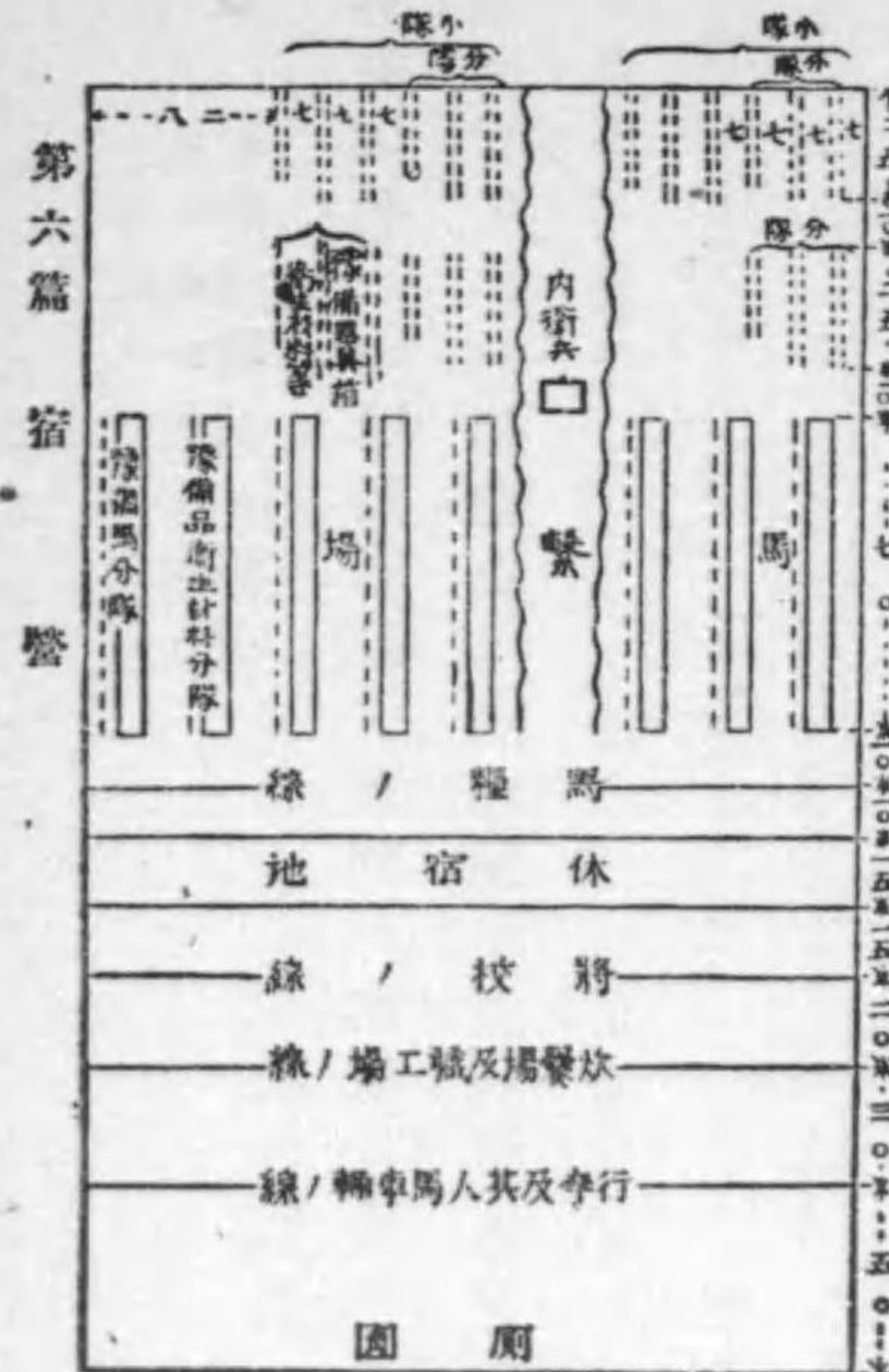


(數字ハ歩數ヲ示ス)

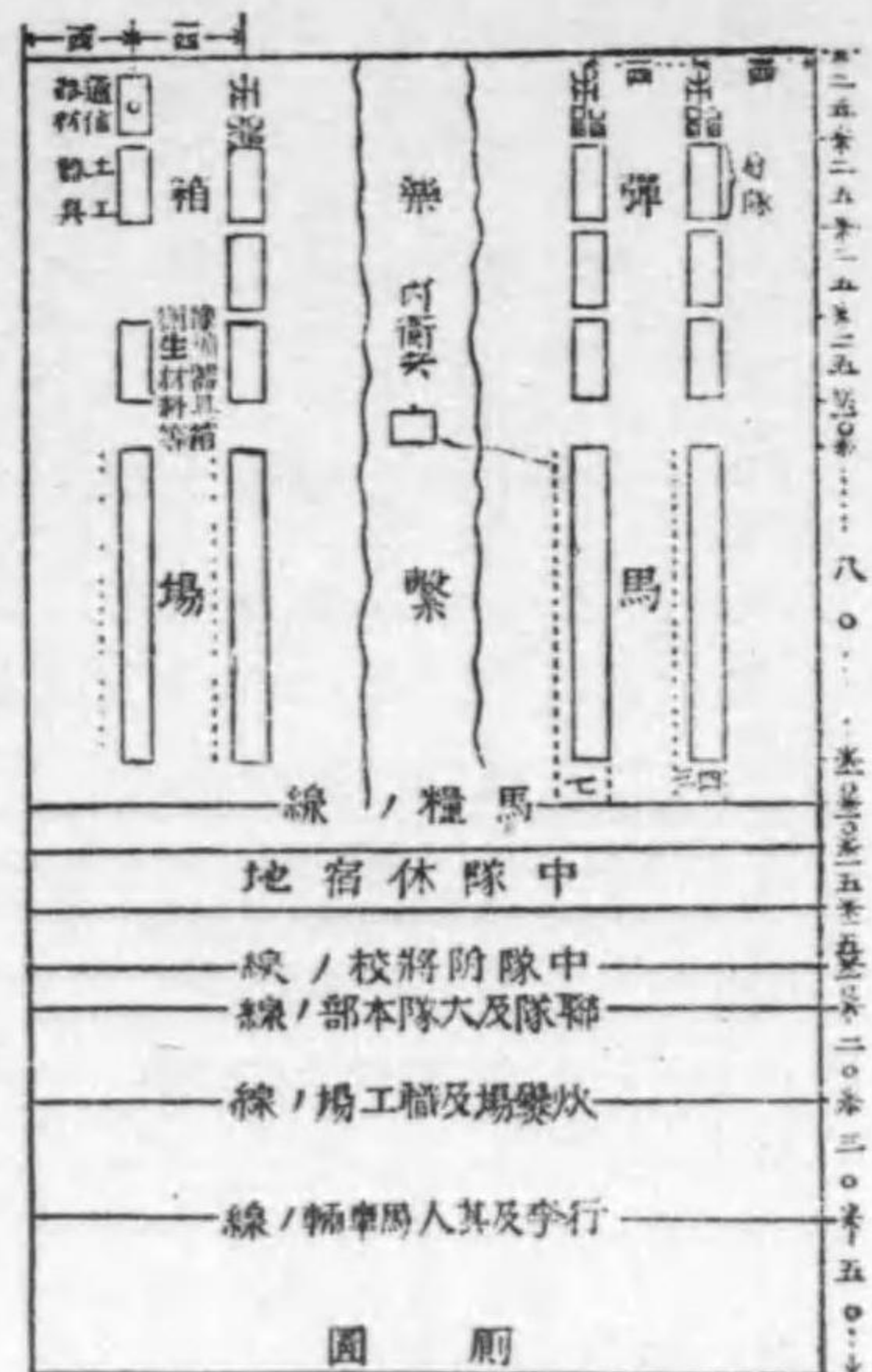
爲シ彈藥小隊ノ車輛ハ其後方ニシテ第二線ヲ爲シ中隊段列ノ車輛ハ第三線ヲ爲ス。馬列ノ方向ハ天候地形ニ依リ右或ハ左ニ向ハシム右(左)ニ向ハシムルトキハ車輛ノ右(左)側車輪ト一直線上ニ繫馬索ヲ張ルモノトス又別ニ利害ナキトキハ右ニ向ハシムルモ

營露ノ列段隊聯兵砲山

營露ノ隊中兵砲山



(ス示テ數歩ハ字數)

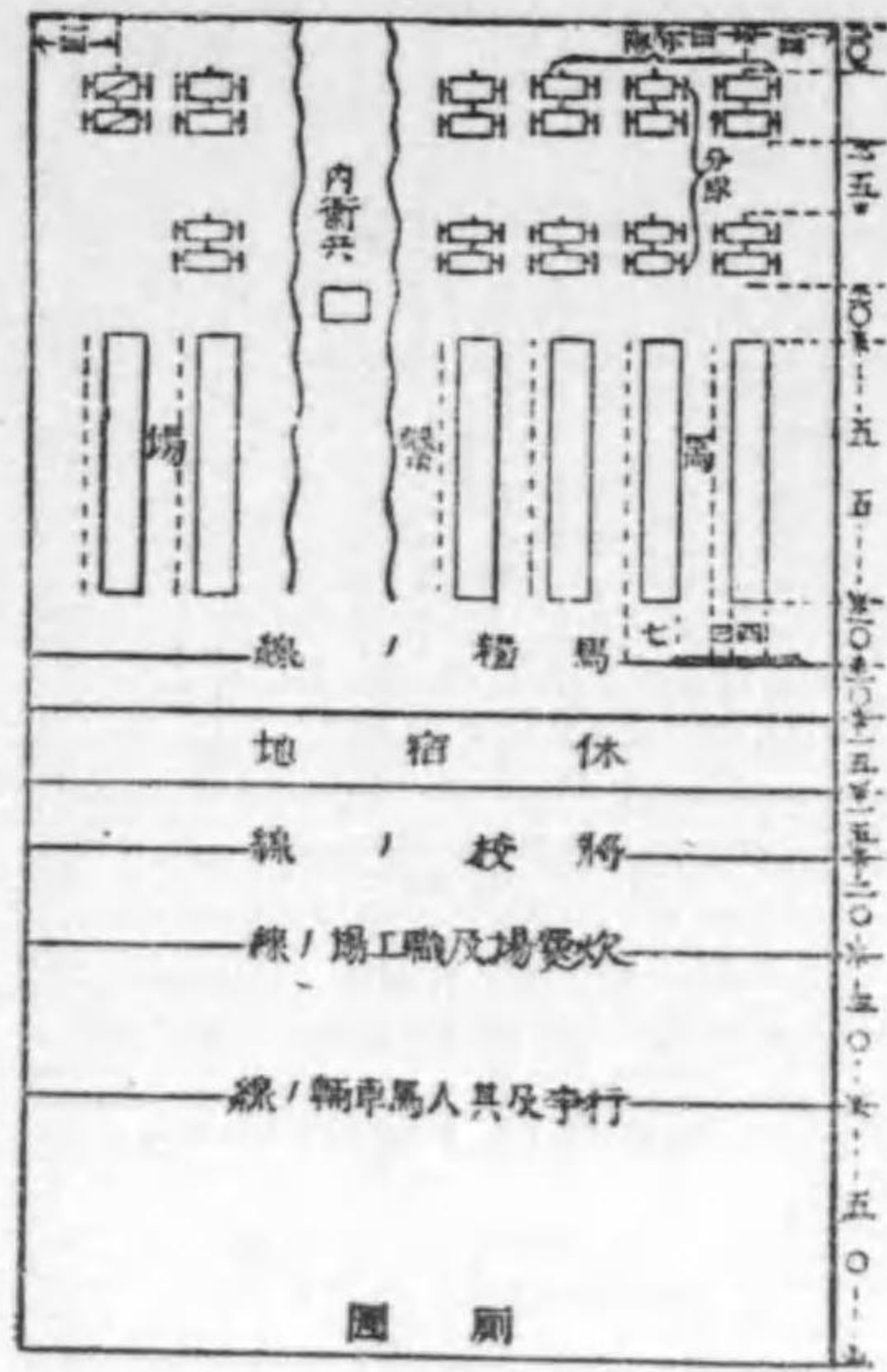


(ス示テ數歩ハ字數)

第六篇 宿 營

山砲兵ハ中隊及聯隊段列毎ニ
 露營ス而シテ砲車ハ十四歩ノ
 間隔ヲ以テ第一線ヲ爲シ彈藥
 小隊ノ彈藥箱ハ其後方ニシテ
 第二線ヲ爲シ中隊段列ノ彈藥
 箱ハ第三、第四線ヲ爲ス土工器
 具ハ第二線ノ左翼ニ豫備器具
 箱衛生材料等ハ第四線ノ左翼
 ニ置ク聯隊段列ノ設備ハ概シテ
 中隊ノモノニ準ス而シテ各材
 料ヲ二線ニ配列ス。
 一般ニ野砲兵中隊ニ就テ掲ク
 ル要領ハ之ヲ適用スヘシ。

野砲兵聯隊段列ノ露營



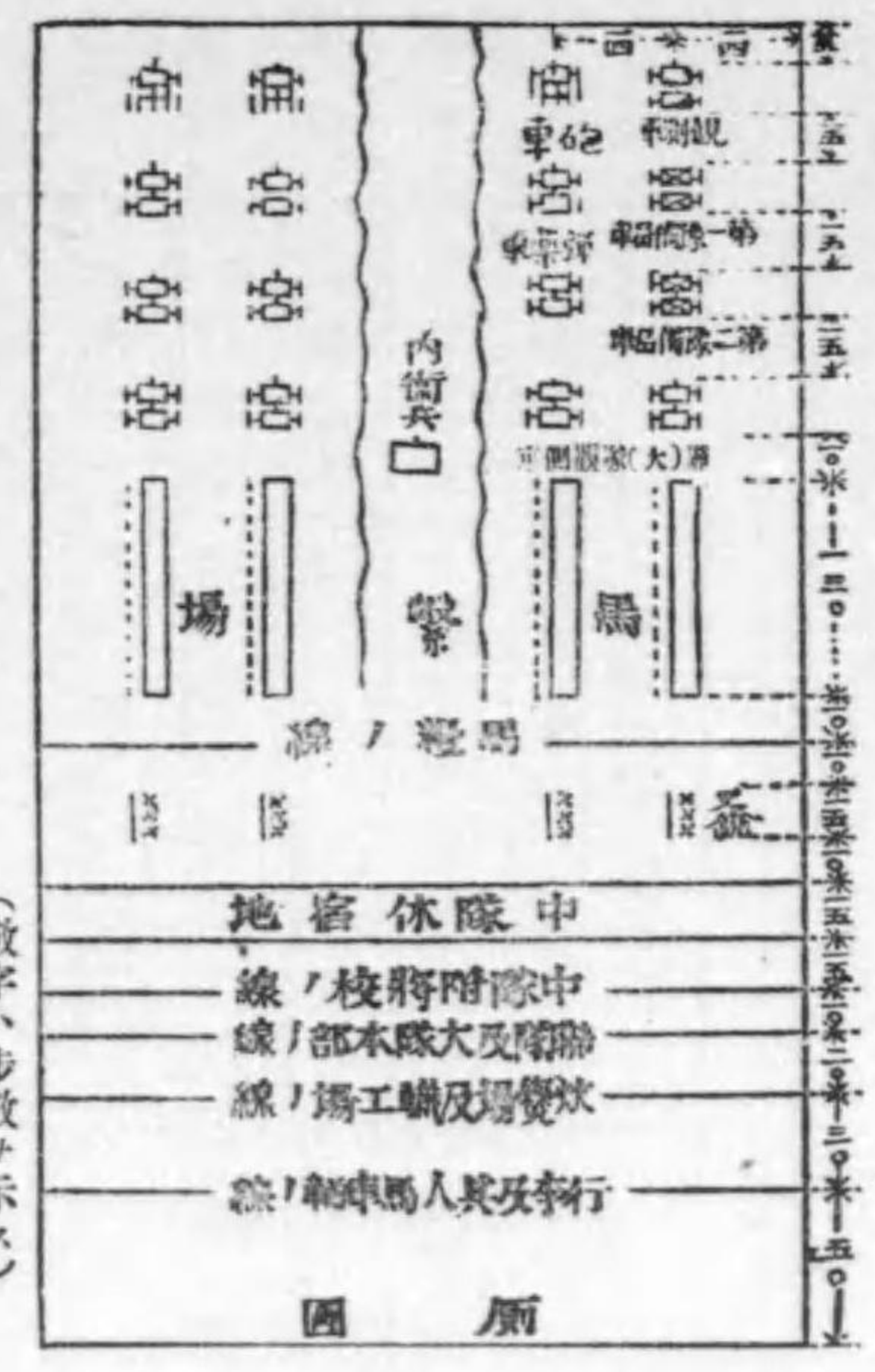
ノトス。
 聯隊段列ノ設備ハ概シテ中隊ノモノニ
 準ス而シテ各車輛ヲ二線ニ配列ス。
 聯隊及大隊本部、中隊ニ合シテ露營ス
 ルトキハ其本部及之ニ屬スル野砲通
 信車、職工場並行李及其人馬、車輛ハ圖
 上ニ示ス場所ニ位置セシム。
 馬具及輓具ヲ馬匹ノ後方三步ノ地ニ

置キ背囊及裝具ノ卸脱、馬裝ノ解脱等ハ各隊長ノ規定スル法ニ依ルヘシ。
 騎砲兵ハ中隊毎ニ露營ス而シテ其設備ハ概シテ野砲兵中隊ノモノニ準ス但シ馬繫
 場ノ長サヲ百二十歩トスルヲ異レリトス。
 ハ 山砲兵

其五 野戰重砲兵ノ露營

野戰重砲兵ハ中隊及聯隊段列毎ニ露營ス而シテ觀測車砲車ハ十四歩ノ間隔ヲ以テ第一線ヲ爲シ彈藥小隊ノ車輛ハ其後方ニテ第二線ヲ爲シ中隊段列ノ車輛ハ第三、第四線ヲ爲ス。

野戰重砲兵(甲)中隊ノ露營

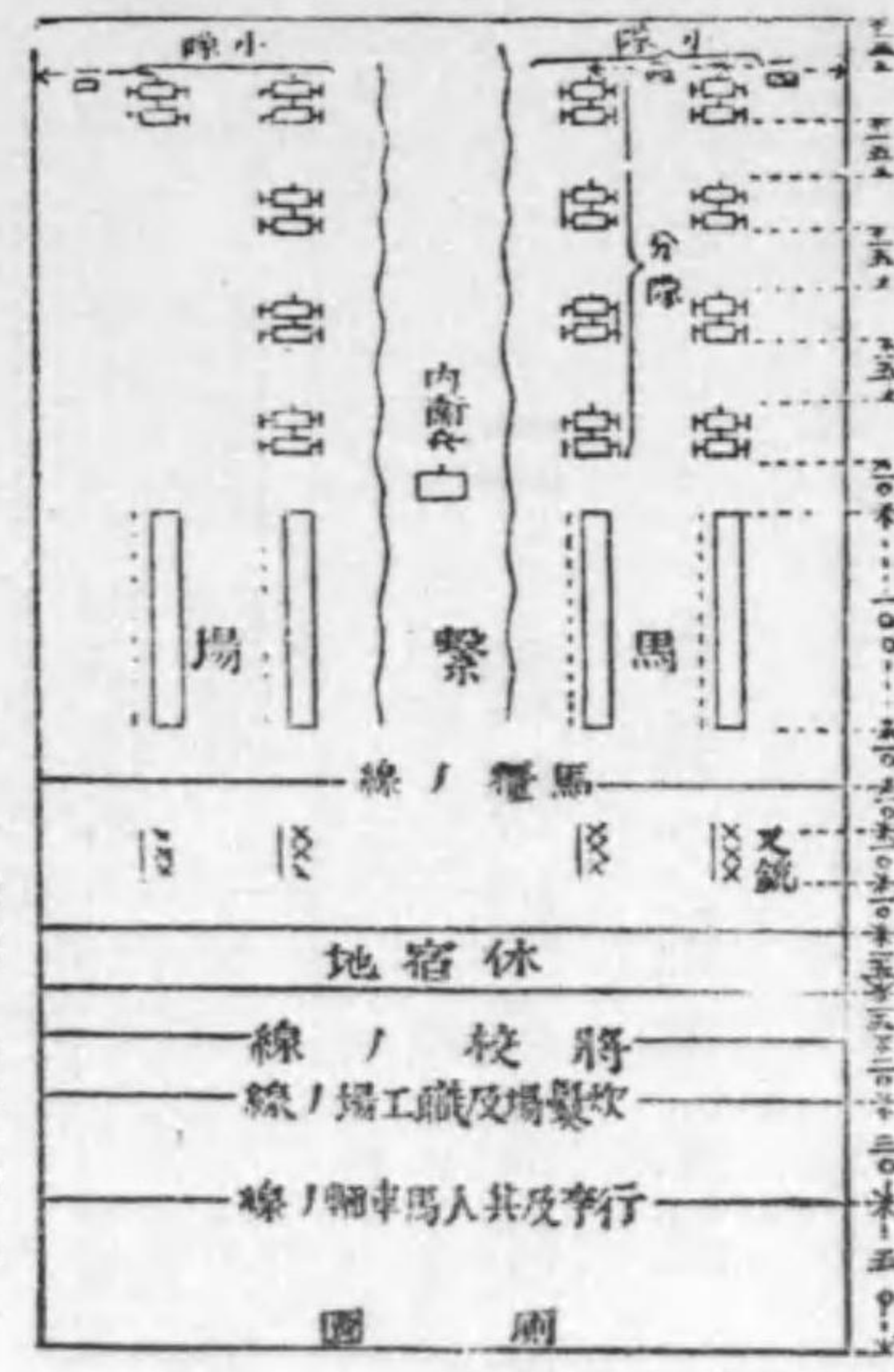


(數字ハ歩數ヲ示ス)

乙中隊ハ甲中隊ニ準シ設備スルモノトス。聯隊段列ノ設備ハ概ネ中隊ノモノニ準ス而シテ各車輛ヲ四線ニ配列ス。一般ニ野砲兵中隊ニ就テ掲クル要領ハ之ヲ適用スヘシ。

其六 工兵ノ露營

野戰重砲兵聯隊段列ノ露營



(數字ハ歩數ヲ示ス)

其七 工兵ノ露營

工兵ノ露營隊形ハ步兵ニ準ズ。其七 縱列。縱列ハ橫隊ノ各小隊ヲ重疊シ側方ニ旋回シタル隊形ヲ以テ露營ス各小隊ハ二列ノ橫隊ヲ作りテ脱駕シ各馬ハ右向ヲ爲シテ行進シ車廠ヲ離レタル後第一列ハ右方ニ、第二列ハ左方ニ正面シ各馬ノ占位ヲ四歩ト爲シテ其位置ヲ定ムルモノトス馬繫場ハ繫馬杭ト繫馬索トヲ以テ設備シ馬具ハ馬列ノ後方ニ、武器及裝具ハ休息地ノ前方ニ縱列長ノ規定スル方法ニ依リ配置スヘシ。行李ハ概ネ前述ノ要領ニ準シ圖ニ示セル位置ニ設備スルモノトス。

縦列ノ露營



(數字ハ歩數ヲ示ス)

馬廠ノ露營隊形及其設備ハ概ネ
縦列ノ要領ニ準ス。

ハ 衛生隊

衛生隊ノ露營ハ歩兵及縦列ノ露
營ニ關スル範例ノ要領ニ準シ設
備スルモノトス。

二 勤務員及其任務

露營ノ勤務系統

此ノ系統ニ於テ舍營ト異ナル所ハ内衛兵ノ部隊日直將校ニ屬スル事ニアリ此ノ
事ハ別ニ理由アルニアラスシテ部隊毎ニ歩兵ハ大隊、騎兵ハ聯(大隊、砲兵ハ中隊等

ニ内衛兵ヲ設クルヲ以テナリ。
露營勤務員ハ概ネ舍營ニ類スルヲ以テ左ニ單簡ニ之ヲ述ヘントス。

露營司令官



各露營地ニ於テ高級古參ノ將校ハ即チ露營司令官トス然レトモ情況ニ依リ將官

及聯隊長ハ次級ノ將校ヲ以テ露營司令官ト爲スヲ得、蓋シ露營司令官ノ業務ハ舍營司令官ニ比スレハ簡單ナルモ敵ニ近接シテ露營セル如キ情況ニ於テハ露營地ノ高級指揮官ハ作戰上ニ其思慮ノ全力ヲ傾注スルヲ要スルカ如キコト多キヲ以テ露營司令官ノ業務ハ寧ロ之ヲ下級者ニ委スルヲ利益ナリトスレハナリ而シテ露營司令官ハ最モ認識シ易キ地ニ宿營シ諸衛兵ニ其位置ヲ知ラシメ置クヘシ。

又露營司令官ハ外部ノ警戒及所要ニ從ヒ露營ノ閉塞法ヲ規定シ各隊ニ露營地ヲ配與シ及露營特別ノ規定(飲水及飲馬場ヲ、場所或ハ時間ニ依リテ各隊ニ配當スル等)ヲ爲スヘシ。

露營日直將校及巡察將校

露營司令官ヲ補佐セシムル爲メ舍營ニ規定セシト同一ノ要領ニ依リ露營日直將

校ヲ設クヘシ、大ナル露營地ニ在リテハ佐官ヲ以テ之ニ任シ又要スレハ巡察將校ヲ設クヘシ。

部隊日直將校、下士

舍營ニ於ケルト同要領ニ依リ部隊日直將校、下士ヲ設ク此ノ將校、下士ハ任命セラレ、ヤ直ニ露營日直將校ニ届告シ露營ノ内務及其警戒ニ關シ須要ナル命令ヲ受クヘシ。

部隊日直將校、下士ハ此ノ命令ヲ其隊長ニ申告シ而シテ隊長ノ補助トナリテ此ノ命令及其他隊長ノ規定セシ事件ヲ實施ス。

三 設 備

露營ノ設備(築營教範參照)

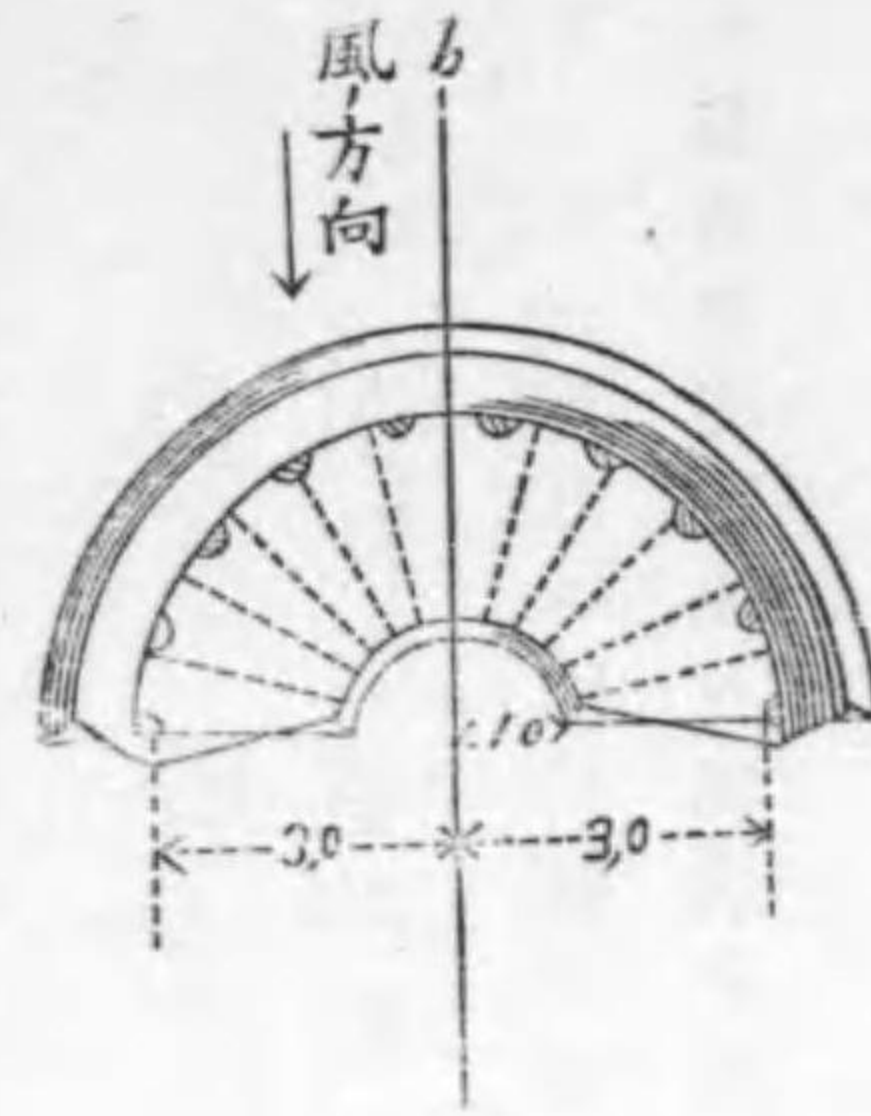
露營スル軍隊携帶天幕ヲ有スル時ハ之ヲ用ヒテ幕營ヲ構築スルヲ可トス、其設備ノ方法ハ後文幕營ノ條下ニ於テ之ヲ説述スヘシ。

携帶天幕無キ時ハ樹枝、編條、莖、茅及板等ノ類ヲ以テ單簡ナル掩蓋ヲ造リ天候ニ對スル應急防護ニ供スヘシ。

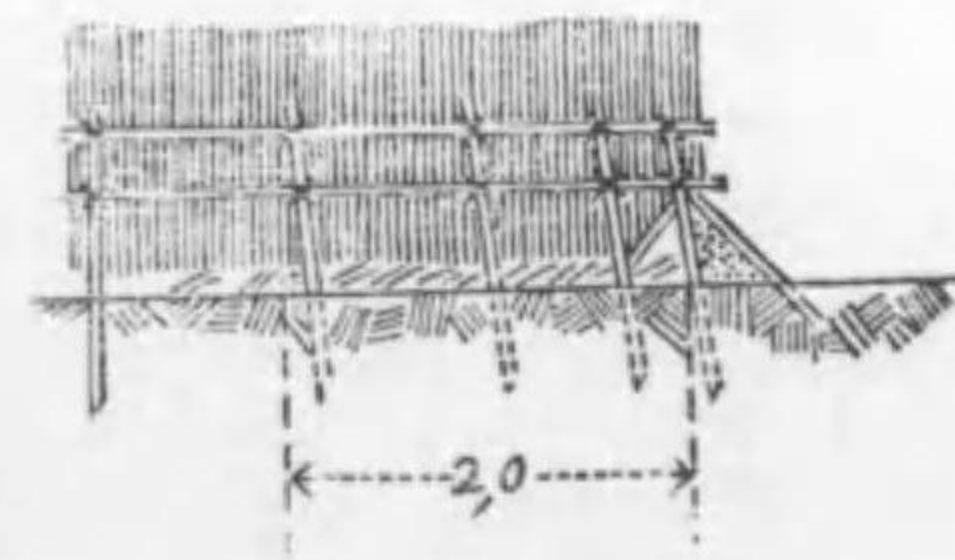
第一圖ハ歩兵約一分隊ヲ容ル、掩蓋ニシテ第二圖ハ約一小隊ノ爲メニ燈火ヲ設クル掩蓋ナリ然レトモ斯ノ如キ構造ノモノハ雨露ニ對スル防護不十分ナルヲ免レサルナリ。

雨露ノ防護ヲ十分ナラシムルニハ第三圖ノ如キ構造トナスヘシ第四圖及第五圖

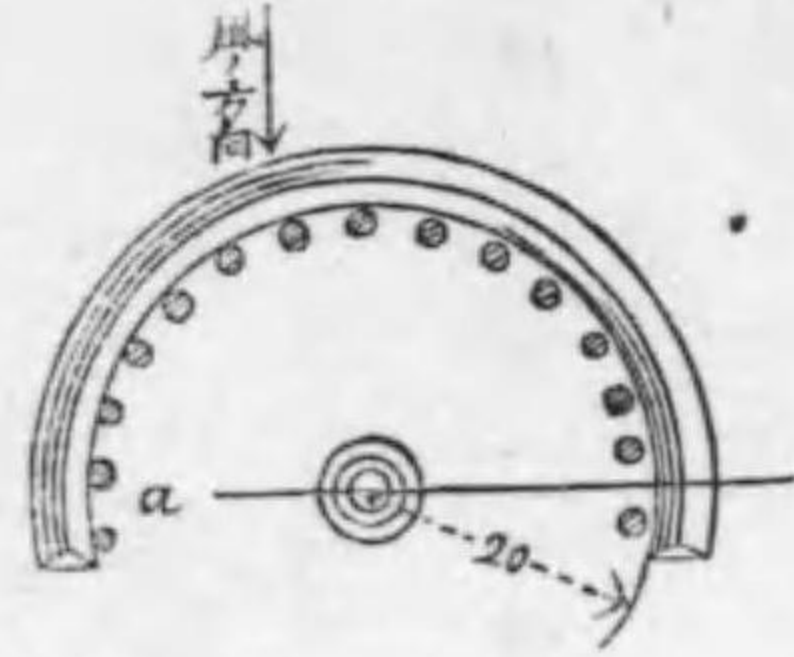
圖一第



面斷ノab



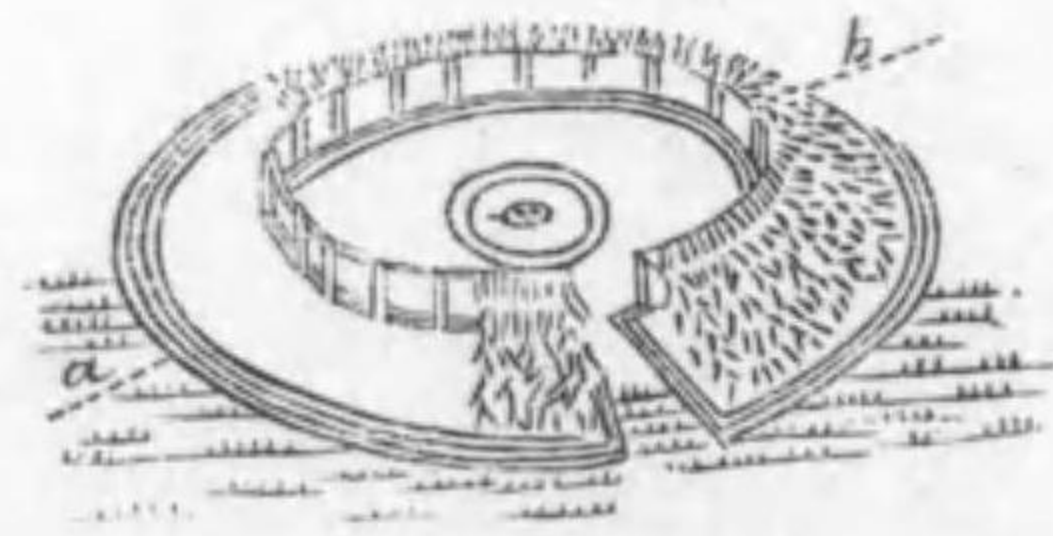
圖二第



面斷 1ab



圖三第



面斷ノab



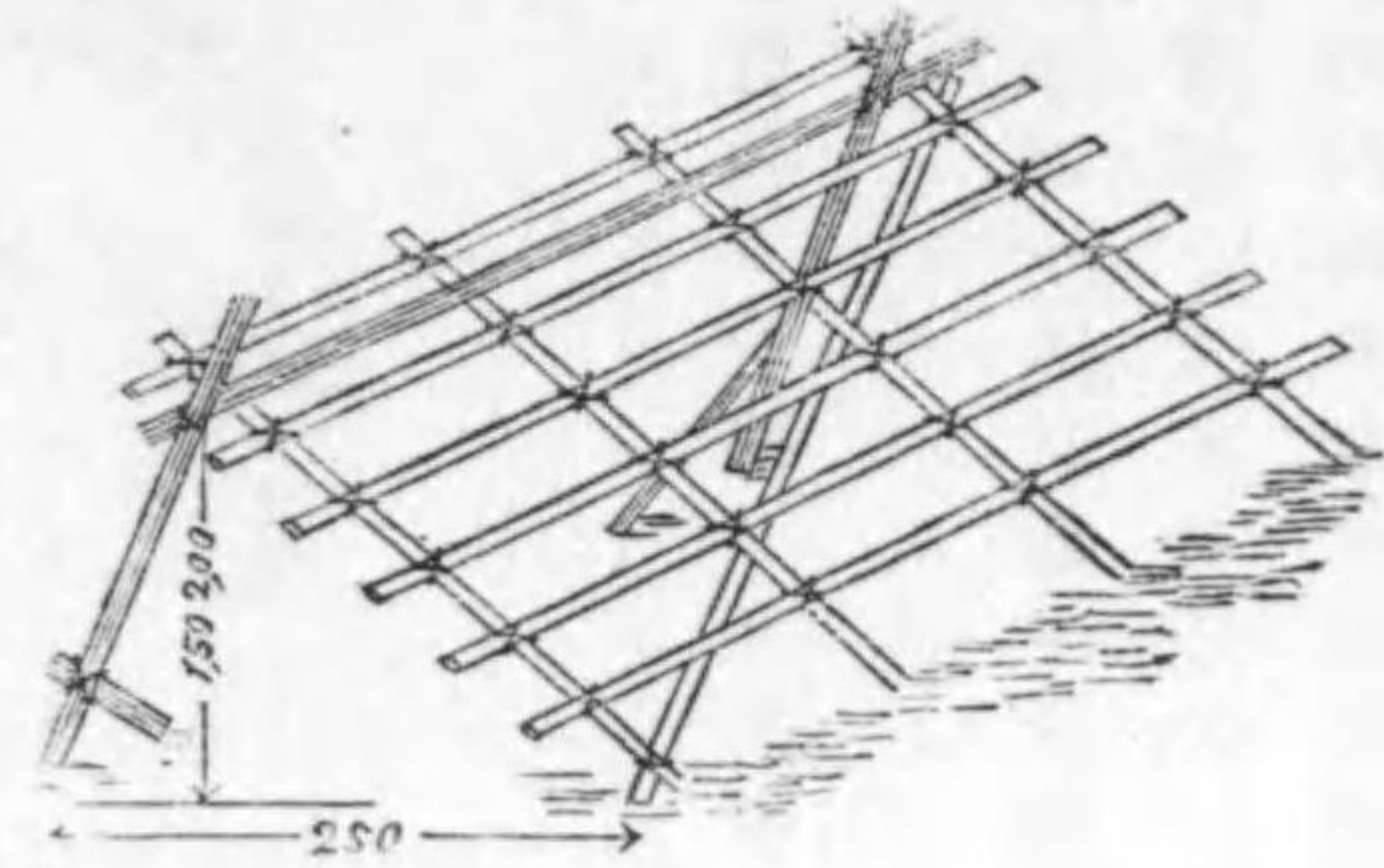
ハ木桿竹等ヲ骨組トシ掩フニ掩覆物ヲ以テセルモノニシテ亦雨露ヲ防護スルニ足ルモノトス。

第三圖ノ如キ骨組ノ掩蓋ヲ造ルニハ長サ三米突毎ニ左ノ材料ヲ要ス。

一 長サ三乃至四米、太サ約五珊米ノ木桿又ハ竹

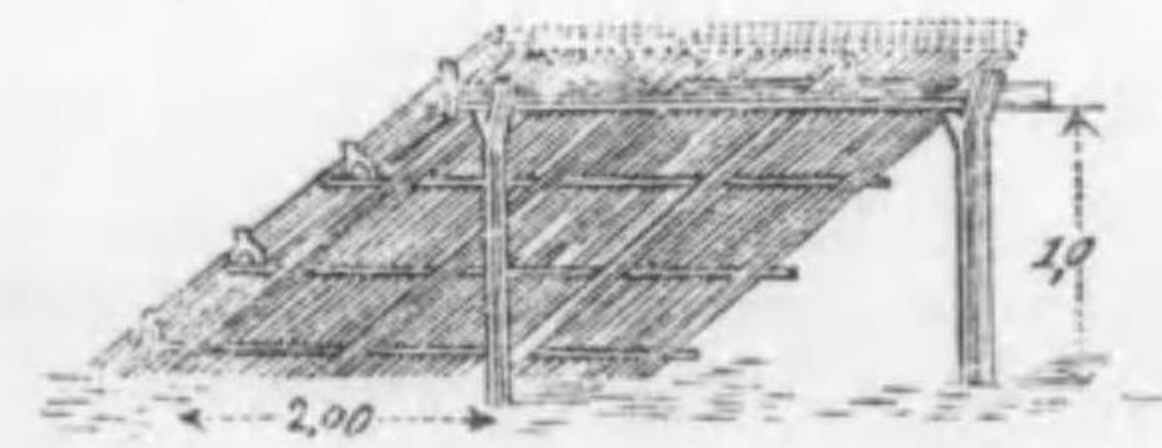
八本

圖 四 第



- 二 屋根藁ノ支へ及押へ用ノ長サ三米五十珊ノ割材或ハ割竹
- 三 杭
- 四 藁
- 五 紮帶又ハ繩

圖 五 第



- 十二本
- 二本
- 廿貫目
- 若干

濕潤ナル露營地ニ在リテハ掩蓋下ニ編條、藁、蕙、疊、吳産ノ類ヲ敷設スルヲ利アリト
 ス而シテ圓形ノ掩蓋下ニ用ユヘキ編條ハ之ヲ梯形ニ編組セサルヘカラス。
 以上記述セシ所ノモノハ皆ナ休宿地ノ設備ノミニシテ此ノ外、炊事場、給水、馬繫場
 交通等諸種ノ設備ヲ爲シテ始メテ完全ナル露營トナルモノニシテ兵卒ノ作業ハ
 頗ル多シ故ニ一旦其設備ニ着手シタル後、之ヲ止メテ轉地セシムル如キハ休憩ヲ
 害スルコト非常ナルヲ以テ已ムヲ得サル原因アルニ非サレハ決シテ之ヲ行フヘ
 カラス。
 其他ノ附屬作業ニ關シテハ後述スル所アルヘシ。

四 露營中諸兵ノ動作

動作及其理由

時 機 動 作 及 理 由

露營設備 及雜役中 ノ下士卒	上官ニ對シ敬禮ヲ行フコトナシ是レ露營ニ於テハ將校下士卒 同一地ニ在ルモノニシテ常ニ相接シ而カモ一々敬禮ヲ行フ時 ハ其業務ノ進捗ヲ妨クルニ至ルヘキカ故ナリ。
休憩中ニ 在ル下士 卒	上官ニ對シ敬禮ヲ行フヲ要セス上官ニ接スル時機殊ニ多キ露 營ニ於テ一々之ニ對シ敬禮スル事ハ休憩ヲ妨ケ休宿ノ目的ニ 反スルヲ以テナリ。
呼集ノ際	下士卒ハ武器ヲ携フル事ナシ是レ既ニ整頓シ在ル武器ヲ携ヘ 再ヒ之ヲ整頓スル如キハ全然無益ノコトナレハナリ。
整 列	整列ヲ要スル時ハ歩騎工兵ハ其集合場ニ於テシ砲兵ノ如ク特 別ナル集合場ヲ設ケアラサルモノハ露營地前面ノ適當ナル地 ニ於テ爲スモノトス。

五 警 備

外 衛 兵

敵ニ近接シ在ルトキハ警戒ノ爲メ別ニ外衛兵ヲ要ス此ノ衛兵ハ舍營外衛兵ノ規
定ヲ適用スヘシ。
外衛兵ノ任務ハ概ネ舍營ノモノニ同シ。

内 衛 兵

内衛兵ハ専ラ軍紀ノ事ニ顧慮ス此ノ衛兵ハ各隊(歩工兵ハ大隊騎兵ハ聯中隊砲兵
ハ中隊)ヨリ其隊長ノ規定ヲ以テ出スモノニシテ其兵員ハ所要ノ哨兵數ニ從フモ
ノトス而シテ其哨兵ハ通常隊長ノ所在軍旗ノ歩哨ヲ兼ヌ及銃前並ニ行李ノ位置
ニ置クモノトス。
内衛兵ヲ配置シ之ニ守則ヲ與ヘ且ツ晝夜之ヲ監視スルハ其所屬日直將校ノ任
務トス而シテ此ノ衛兵ノ動作ハ衛戍勤務ノ規則ニ從フモノトス。

内衛兵ノ位置ハ各兵露營ノ圖例ニ於テ示スト雖モ露營ノ大小及地形ニ從ヒ適宜其位置ヲ變換シ若クハ其數ヲ減少スルヲ得

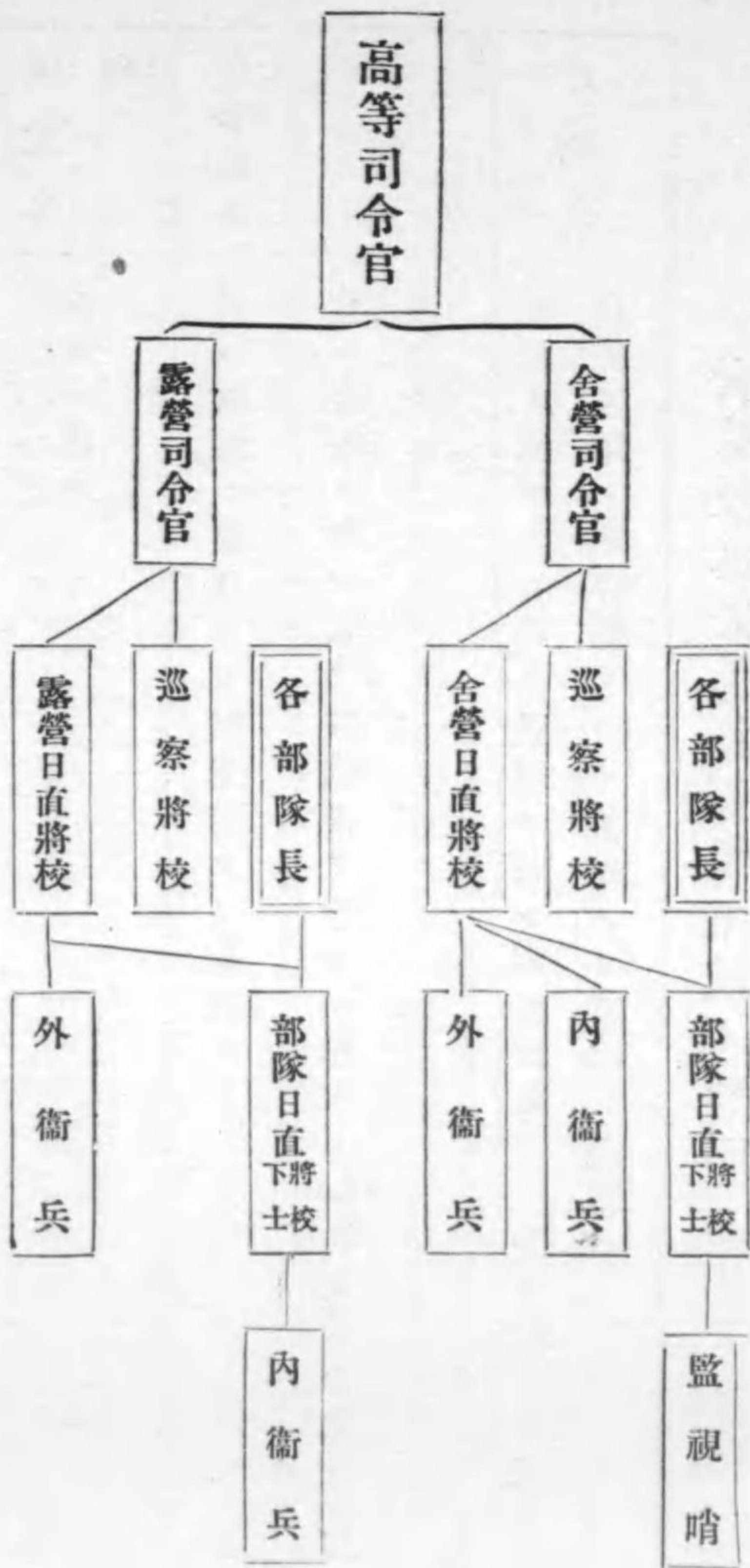
警報ニ際スル處置

部隊	動作
步兵	速ニ背囊ヲ負ヒ又銃ノ側ラニ至ルヘシ但シ別命アルニ非レハ銃ヲ解クヘカラス。
騎兵	速ニ鞍ヲ裝シ武裝ヲ整ヘ乘馬シ中隊ハ集合場ニ集ルヘシ。 鞍ヲ裝ヒ背囊ヲ車輛ニ附着シ或ハ負ヒ更ニ命令ナキモ左ノ如ク動作ス。
砲兵	野砲兵及野 繫駕ス。

輜重各列	戰重砲兵
前者ニ準ス。	山 砲 駄載若クハ繫駕ス。
行李駄馬	直ニ駄馬ニ裝具シテ繫駕若クハ駄載ス。
外衛兵	更ニ命令ノ下ル迄テ其位置ヲ固守シ要スレハ殊死シテ敵ヲ逆襲スルコトアリ。
内衛兵	軍隊ノ遣セシ材料ヲ監視ス若シ突然出發スル時ニ於テハ此ノ材料運搬ノ準備整ヒタル後始メテ軍隊ニ跟隨スヘシ。

舍營及露營勤務要領系統ノ對照

要件種類	人員	任務	處置
高等司令官ヨリ特ニ命セラ	各部隊ニ含營ヲ分配シ其他	各部隊ノ宿舍ノ分配ニ豫メ	



露	官 令 司 營 舍
各露營地ノ高級古參ノ將校 (情況ニ依リ將官及聯隊長)	レサル時キハ各舍營地ニ於ケル高級古參ノ將校ハ即チ舍營司令官トス。將官及聯隊長ハ一ノ佐官ヲ以テ舍營司令官ト爲スノ權アリ。
外部ノ警戒及所要ニ從テ露營ノ閉塞法ヲ規定ス。	舍營ノ内務、警戒ノ方法及戰闘準備ノ程度ヲ規定ス。
最モ認識シ易キ地ニ宿營シ諸衛兵ニ其位置ヲ知ラシム	周到ナル準備ヲ爲ス能ハサル時ハ舍營司令官自ラ先行シ或ハ乘馬將校一名(成ルヘク舍營日直將校)ヲ前遣シ其準備ヲ爲スモノトス然ルトキハ各隊ノ設營隊ヲ同行セシムルヲ可トス。稠密シテ舍營スル時ハ各舍營區ヲシテ判然境界ヲ分タシムヘシ此ノ境界ヲ定ムルニハ緊急集合場及時宜ニ依リ舍營地防禦ニ顧慮スルヲ要ス。砲兵ハ常ニ砲廠ノ近傍ニ舍營セシムヘシ。

第六篇 宿 營

營司令官	將直日營(露)舍
<p>ハ一ノ佐官ヲ以テ露營司令官ト爲スヲ得。</p> <p>各隊ニ露營地ヲ配與ス。露營ノ特別ノ規定(飲水及飲馬場ノ場所或ハ時間ニ依リ各隊ニ配當スル等)ヲ爲ス。</p> <p>成ルヘク早ク兵卒ヲ休憩セシメ及之ニ風雨ノ障礙ヲ與フル補助方法(廠舎及炊事ニ用ユル木材、藁、薪等ノ調達)ヲ行フニ紀律ヲ誤ラス且ツ迅速ナラシムルコトニ就キ責任ヲ有ス。</p>	<p>各舍(露)營地ニ一名(通常大尉、大部隊ニ在リテハ佐官)。</p> <p>一舍(露)營地ニ於ケル高級右參ノ將校ハ此ノ將校ヲ出スヘキ部隊ヲ指定スルモノトス。</p> <p>其兵力小ナル時ハ舍(露)營日直將校ヲ置カス舍(露)營</p>
<p>直ニ舍(露)營司令官ニ届告シ舍(露)營ノ内務及其警戒ニ關シ指示ヲ受クヘシ。</p> <p>此ノ將校ハ(内衛兵)外衛兵ノ長官ニシテ哨兵ヲ配布シ之ニ守則ヲ與ヘ且ツ晝夜之ヲ監視スルヲ以テ責任トス。</p> <p>露營ノ場合ヲ除ク。</p>	<p>直ニ舍(露)營日直將校ニ届告シ舍(露)營ノ内務及其警戒ニ關シテ必要ノ命令ヲ受クヘシ。</p>

校巡察將	營(露)部隊日直將校下士	舍	露	營
<p>司令官之ヲ兼ヌルコトアリ。時宜ニ依リ若干名ヲ置ク。</p>	<p>各兵種ノ大隊(大隊ヲ成サ、ル隊ハ聯隊)ハ中(少)尉一名、各獨立中隊若クハ之ニ準スル部隊ハ下士一名ヲ部隊日直ト爲ス。</p> <p>一舍(露)營地ノ兵員寡少ニシテ一部隊ノミ舍(露)營スル時ハ別ニ舍(露)營日直將校ヲ置カス部隊日直將校ヲシテ之ヲ兼ネシム。</p>	<p>直ニ舍(露)營日直將校ニ届告シ舍(露)營ノ内務及其警戒ニ關シテ必要ノ命令ヲ受クヘシ。</p>	<p>其舍營區域内ノ靜肅及軍紀ニ注意シ且ツ其隊長及舍營司令官ノ命令ヲ實施ス。</p>	<p>上記ノ命令ヲ其隊長ニ申告シ而シテ隊長ノ補助トナリテ此ノ命令及其他隊長ノ規定セシ事件ヲ實施ス。</p> <p>内衛兵ノ長官タリ。</p>

舍營ト露營トノ内衛兵ノ差異

事項 動作

出發時刻ハ豫メ命令スルヲ例トス、此ノ命令ハ警報等特別ノ場

出發時刻	警 報
<p>合ノ外十分ナル準備ヲナシ得ル如ク豫メ下サル、モノトス。</p> <p>出發ノ直前ニ於テ盡ク火ヲ滅ス。</p> <p>此ノ際不用材料軍需品ヲ火中ニ投シ火勢ヲ大ナラシムルカ如キコトアルヘカラス。</p>	<p>歩兵工兵ハ各自速ニ背囊ヲ負ヒ又銃線ニ集合スヘシ。</p> <p>騎兵ハ速ニ鞍ヲ裝シ武裝ヲ整ヘテ乘馬シ中隊ノ集合場ニ集ル。</p> <p>砲兵ハ武裝ヲ整備シ更ニ命令ナキモ野砲兵騎砲兵及野戰重砲兵ニアリテハ繋駕シ小砲兵ニ在リテハ駄載若クハ繋駕スヘシ。</p>

ト キ	注 意
<p>衛 兵</p> <p>外衛兵ハ更ニ命令ノ下ルマテ其位置ヲ固守スヘシ。</p> <p>内衛兵ハ軍隊ノ遺セシ材料ヲ監視ス、若シ突然出發シタル時ニ當リテハ此ノ材料運搬ノ準備整ヒタル後始テ軍隊ニ追及スヘシ。</p> <p>各自出發ノ直前ニ於テ繋駕シ若クハ駄載シ更ニ出發命令ノ下ル迄テ其地ニ駐止ス。</p>	<p>行李 駄馬</p> <p>一 出發ノ隊ハ喧騒ニ陥リ易キヲ以テ十分注意スルヲ要ス。</p> <p>二 出發ノ際遺留品ナキ事ニ就テハ各人各幹部共ニ注意スルヲ要ス。</p> <p>三 出發ニ際シ敵ニ覺知セラル、カ如キ徵候ノ資ヲ供スル事ヲ避クヘシ。</p>

幕 營

四出發ノ際警戒監視ヲ中絶セサルヲ要ス、從テ須要ナル警戒ハ之ヲ保存シ他ノ衛兵ハ其隊ニ復歸スルモノトス。

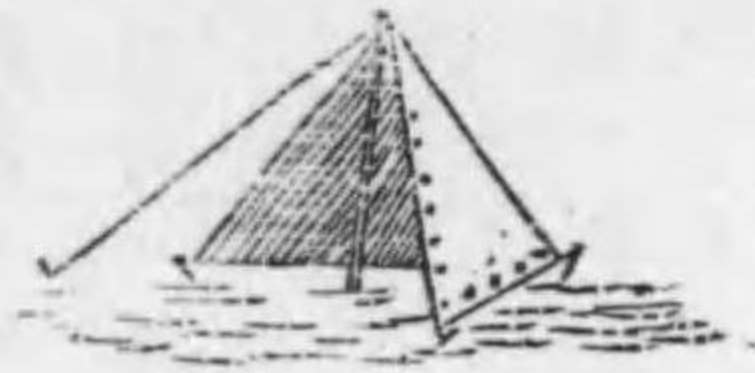
方今携帶天幕ノ制ヲ採用セラレテ以來宿營ニ於テ大ナル便益ヲ得ルニ至レリ然レトモ此ノ天幕ハ其幅員狹小ニシテ唯タ露營ノ掩蓋トシテ使用スルニ過キス。大天幕ヲ以テ布ク幕營ハ其材料運搬ノ爲メ夥多ノ輜重ヲ要スルヲ以テ運動戰ニ於テハ衛生機關又ハ兵站部隊ノ外之ヲ利用スルコト稀レナリ、但シ冬季等ノ如キ季候極惡ノ時又ハ永キ駐留宿營等ニ在リテハ之ヲ用ユ。要塞戰ニ在リテハ幕營ヲ利用スルヲ通常トス。幕營ハ風雨ヲ防クノ效力不十分ナリト雖モ廠營ニ比スレハ移轉容易ナルノ利アリ而シテ幕營二週以上ニ亘レハ其位置ヲ變スルカ或ハ一旦幕布ヲ撤去シテ地面ヲ日光ニ曝スヲ要ス。

携帶天幕ヲ用ヒテ幕舎ヲ構成スルニハ左ノ數ノ方法アリ而シテ其何レノ方法ヲ用ユルニ關セズ、支柱ノ下端ヲ地中ニ埋沒セサル爲メ其基礎ニ木片若クハ石ヲ置クヲ要ス。

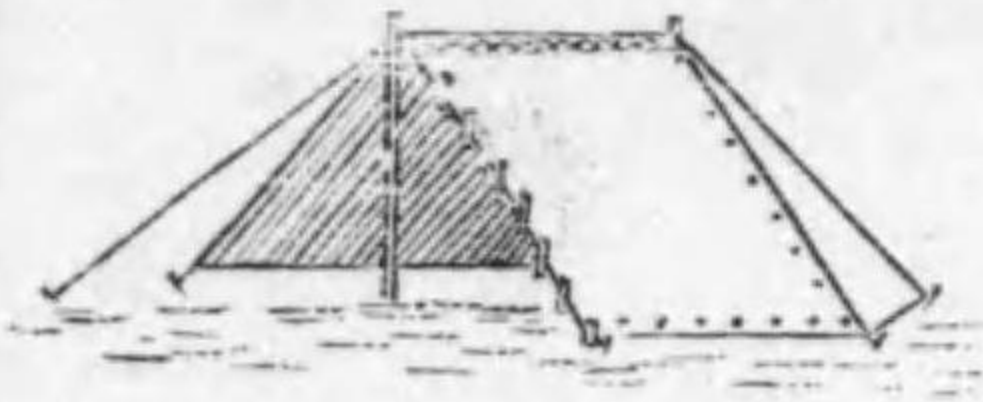
一乃至六幕舎ノ構成法

携帶天幕ノ使用法(築營教範附錄參照)

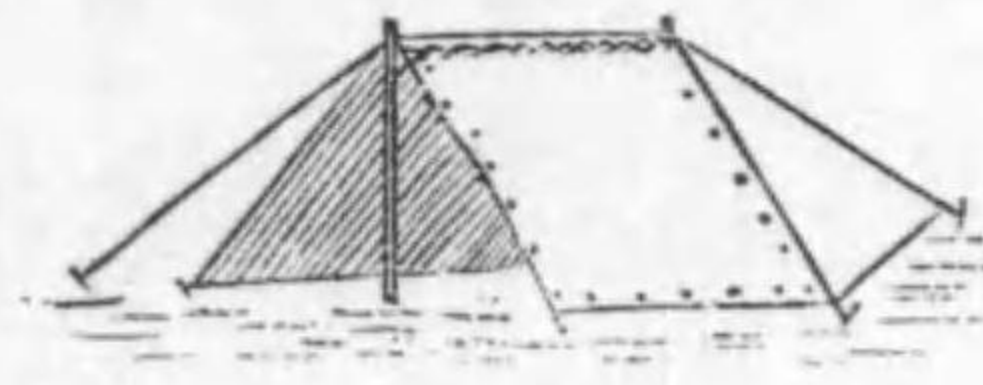
第一圖



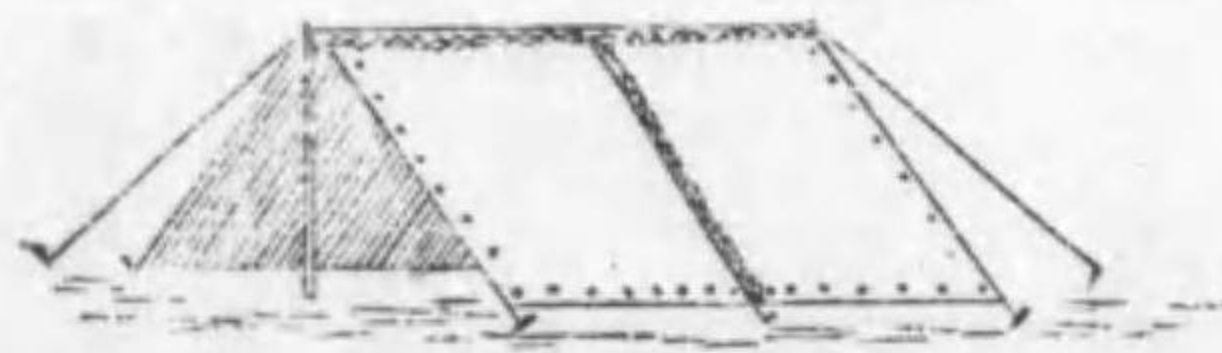
第二圖



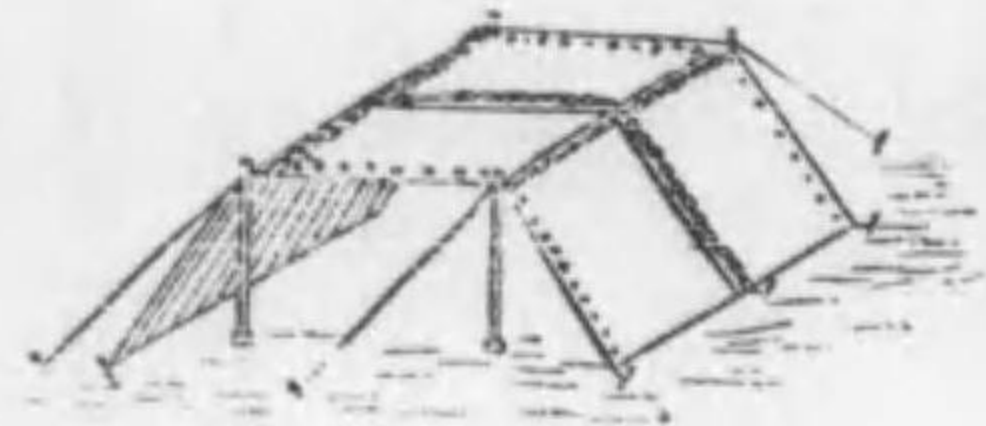
第三圖



第四圖



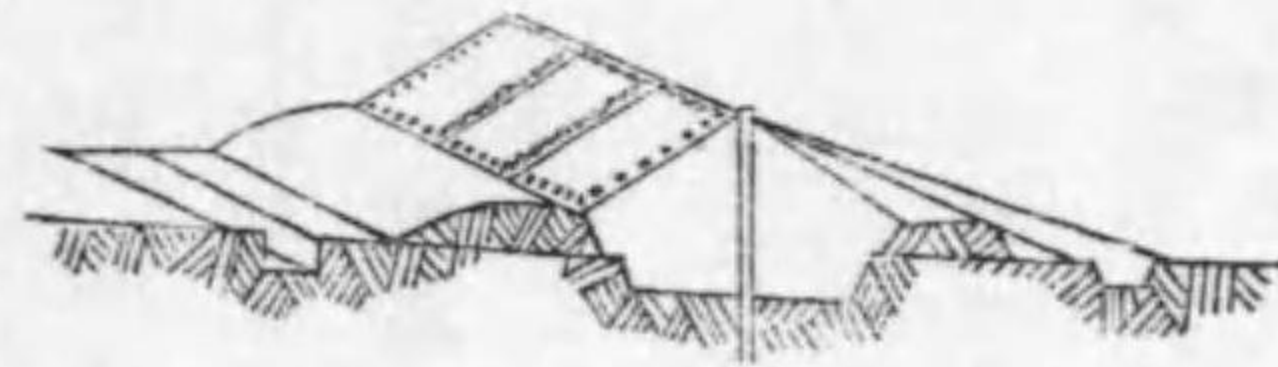
第五圖



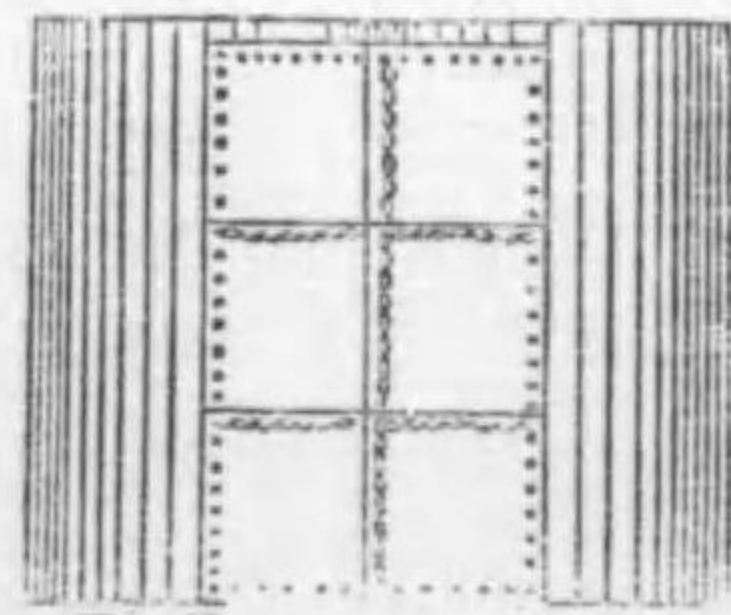
一幕布ヲ以テ一人ノ幕舎ヲ構造スルニハ角頂三ヶ所ヲ控杭ニテ固定シ其一隅ヲ揭ケ樹桿等ニ結束スルコト第一圖ノ如クス、第二圖乃至第五圖ハ二幕乃至六幕ヲ用ユル幕舎ノ構造ヲ示セシモノナリ。

六人入幕舎ノ構造

六人幕舎ノ側面圖



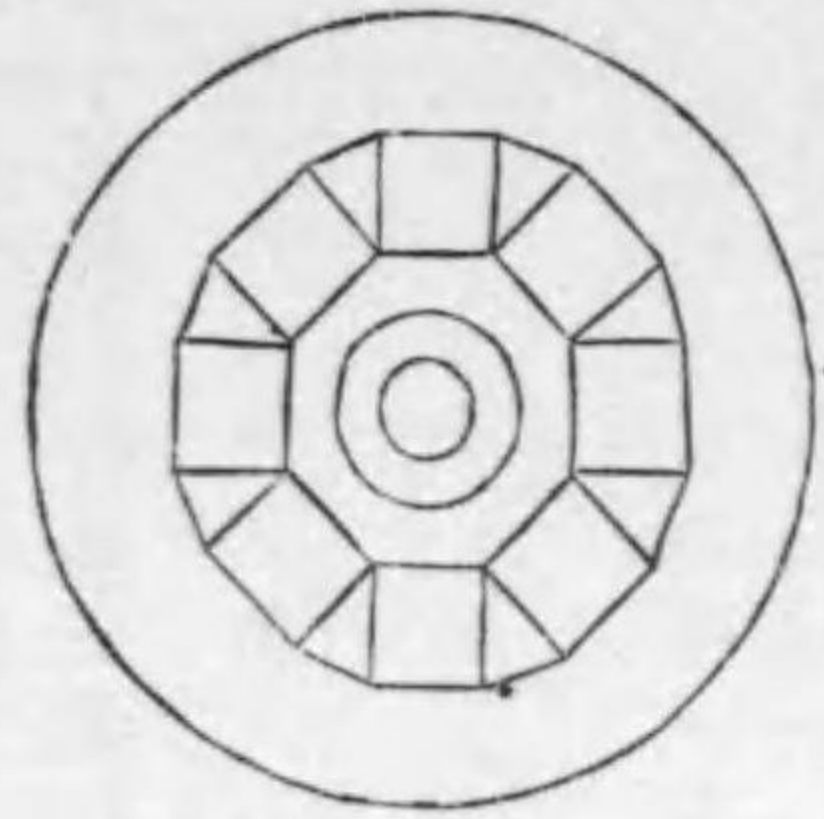
六人幕舎ノ平面圖



右圖ハ六人入幕舎ノ構造ニシテ六個ノ天幕ヲ接合シ之ヲ以テ二個ノ傾斜セル庇蓋ヲ成形ス、幕蓋舎ノ一側ニハ階段ヲ附シタル出入口ヲ設ケ反對側ハ藁草等ヲ以テ閉塞ス。

二十四人入幕舎ノ構造法

左圖ハ二十四人ヲ容ル、燎火ヲ用ユル幕舎ニシテ先ツ燎火ノ位置ノ周圍ニ八個



斷面

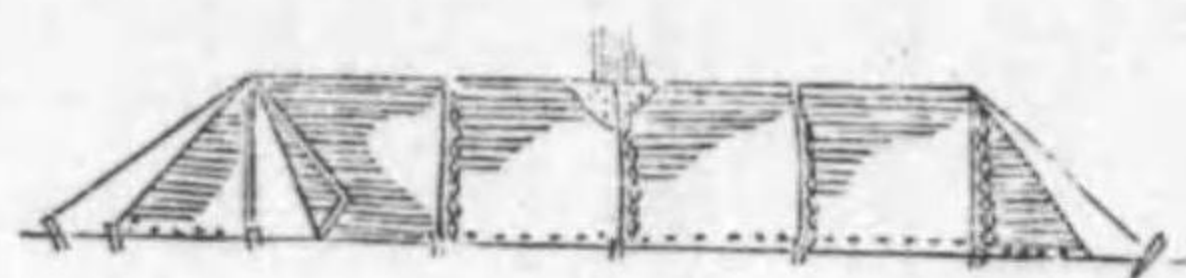
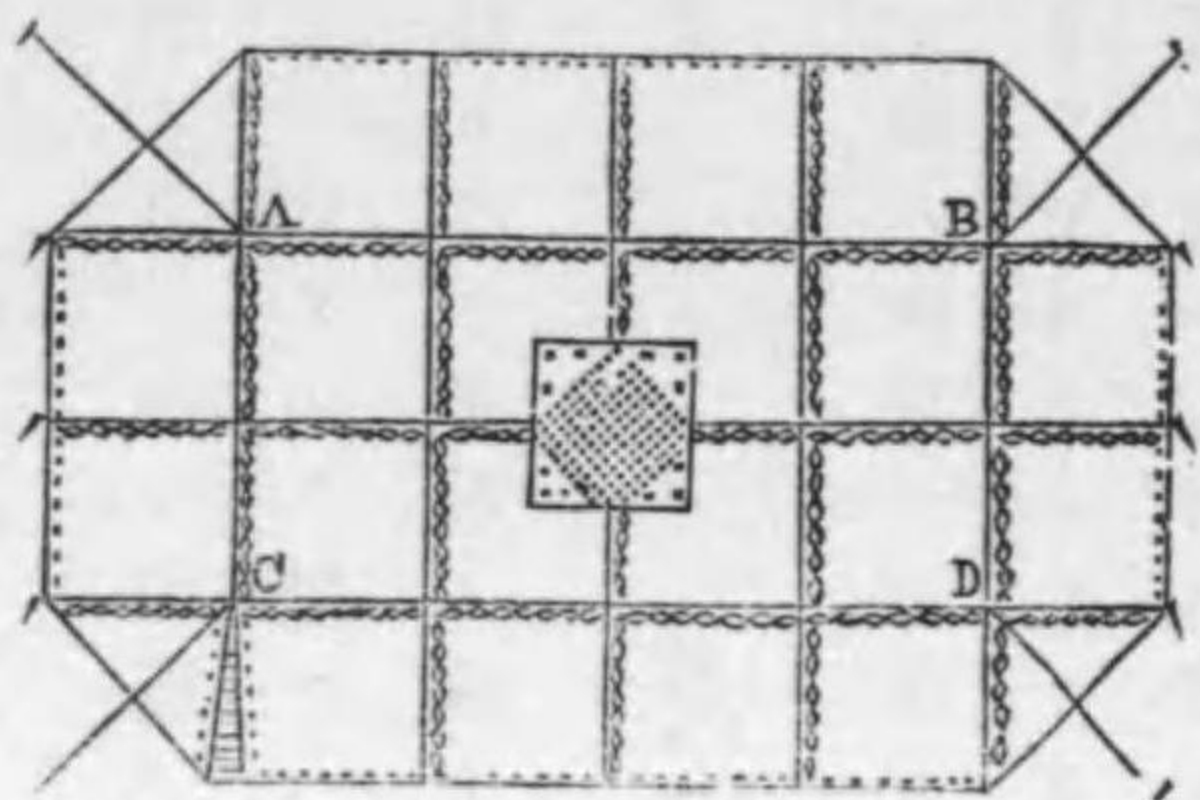


ノ幕布ヲ並列シ其内端ヲ互ニ接疊シ此ノ所ニ支柱ヲ植立ス次ニ幕布ノ外端ヲ基準トシテ圓形若クハ八角ヲ畫キ然ル後、燈火ノ位置ノ周圍及外地ニ於テ得タル土壤若クハ糾草ヲ取り外部圓形ニ準シ約一米五十ノ高サヲ有スル堆土ヲ作り且ツ適宜ノ方向ニ開

口七十五珊米ノ通行口ヲ設ク、堆土完成セハ直ニ八個ノ幕布ヲ支柱ト堆土間ニ緊張シ其各幕布間ニ存スル三角形ノ空間ハ更ニ八個ノ幕布ヲ以テ被閉ス、之カ爲メ幕布ノ中央ヲ支柱ニ緊結シ尙ホ其外端ヲ堆土上ニ結束シ剩餘ノ布端ハ内部ニ疊ミ入ルモノトス又他ノ八幕布ハ幕舎内面ノ帷帳トシテ懸下ス。

三十八人入幕舎ノ構造法

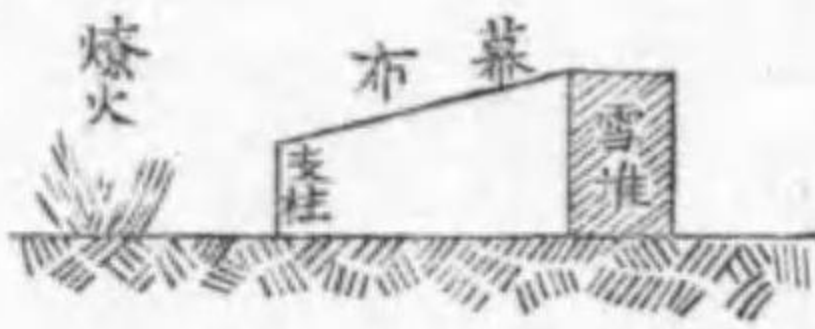
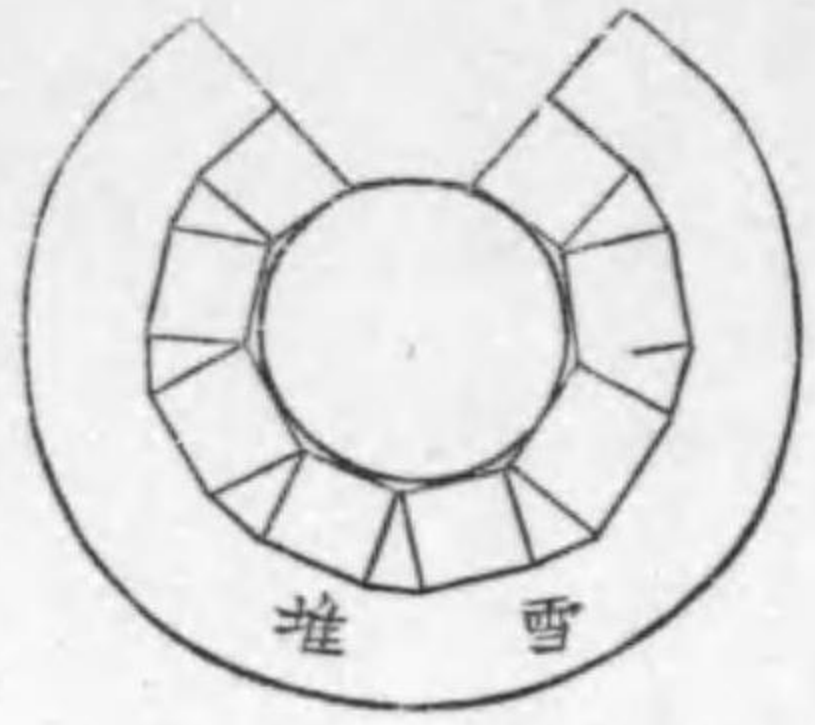
左圖ハ三十八人ヲ容ル、防寒幕舎ノ構造法ニシテ天幕二十四枚及支柱八ヲ用ユ之カ爲メ先ツ地上ノ雪ヲ掃除シ八個ノ幕布ヲ採リ各列四幕宛ヨリ成ル二列即チ圖上A B C Dノ形狀ニ並列シ全部一枚ノ如ク接合シ其中央ノ四幕ハ各第三孔ヨリ接續シ其遊離ノ幕隅ハ翻轉シテ方形ノ排煙口ニ開クモノトス、而シテ斯ノ如ク接合セル八幕布ヲ以テ幕舎ノ庇蓋トナシA B C Dノ四點ニ支柱ヲ植立シテ之ヲ支持ス但シ支柱ノ顛倒ヲ防クカ爲メ張綱ヲ其頂ニ緊結シ互ニ強ク之ヲ緊張シ綱端ヲ地上ニ抗止スヘシ又殘餘ノ支柱四個ハ中央適宜ノ部分ニ植立シテ庇蓋ノ垂下スルヲ防クモノトス。



庇蓋既ニ完成セハ其周線ニ幕布十二個ヲ接合シ各幕布ノ下端ハ杭ヲ以テ地上ニ固定シ然ル後其周邊ニ雪塊ヲ散布シ且ツ之ヲ踏固スヘシ又四個ノ角隅ニハ對角線ニ準シ二折セル三角幕布ヲ懸張シ而シテ其風向ニ反スル一隅ハ出入口ノ爲メ接合セサルモノトス。

三十人乃至四十人入幕舎ノ構造法

左圖ハ雪塊ノ圓堆ヲ有スル三十人乃至四十人ヲ容ル、幕舎ニシテ燎火ノ位置ヲ中心トシ約三步ノ半徑ヲ以テ圓周ヲ畫キ此ノ圓周ニ接シテ八幕布ヲ並列シ其外周ニ準シ厚サ七十五珊米高サ一米五十ヲ有スル雪ノ堆牆ヲ構造シ風向ニ反スル



位置ニ出入口ヲ設ク。
 堆積完成セハ天幕ノ外端ヲ牆上ニ緊結
 シ内端ハ支柱ヲ植立セシメ是ニ固定ス
 而シテ八幕布間ノ空隙ハ他ノ幕布ヲ以
 テ閉塞シ庇蓋ハ十五個ノ幕布ニ依リ完
 成スルモノトス。

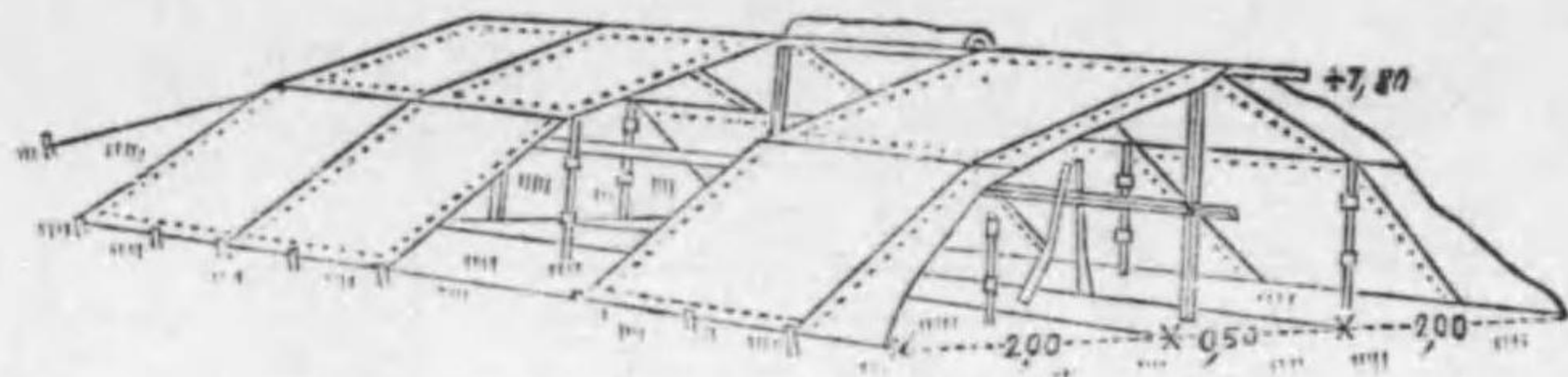
燎煙ノ幕舎内ニ漲溢スルヲ防クニハ庇蓋ノ内端ニ八個ノ幕布ヲ懸張シ無風ニ當
 リテハ之ヲ掲ケ置クヘシ。
 出口モ亦一幕布ヲ垂下ス故ニ全數二十四枚ヲ要ス。

大幕舎ノ構造法

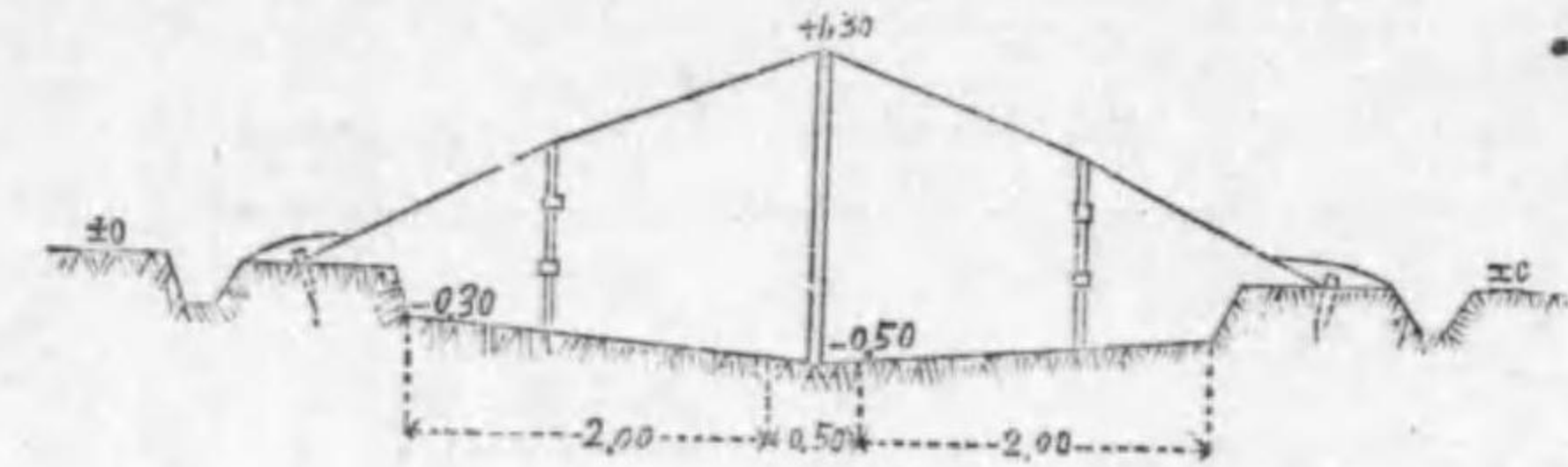
第一圖ハ所在ノ木桿或ハ板ヲ補助トシテ造レル大幕舎ニシテ中央ノ直柱上ニハ
 棟木ヲ架ス此ノ如キ幕舎内ニハ必要ニ應シ銃架ヲ設クルヲ得。

又第二圖ハ五寒ノ季節ニ際シテ用ユヘキモノニシテ幕舎内ノ地ヲ掘深シテ臥床

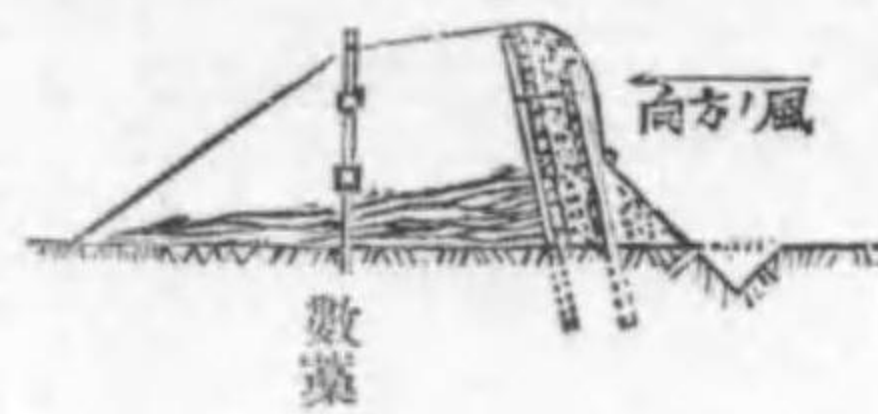
第一圖



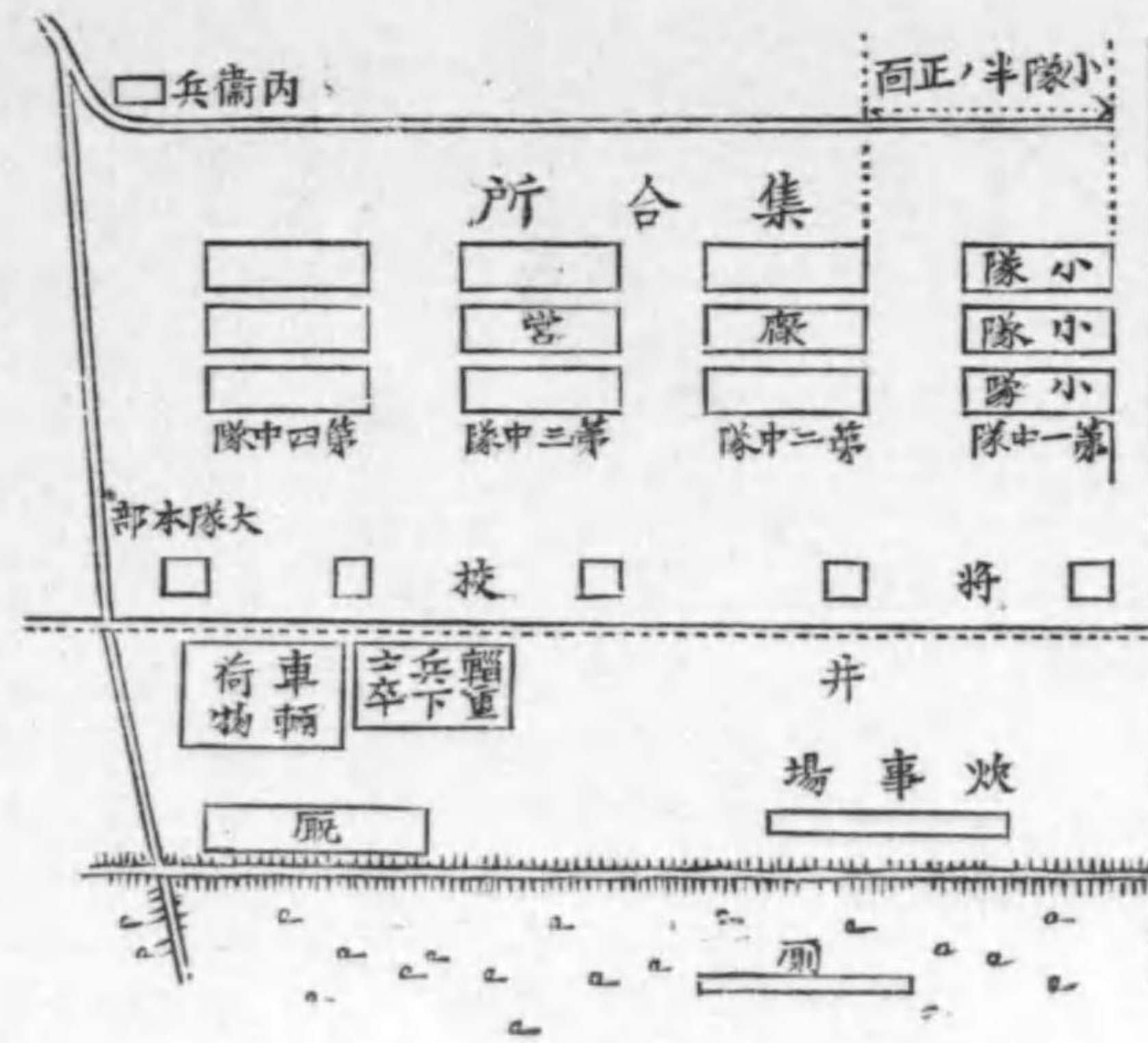
第二圖



第三圖



ヲ低クシ寒氣ヲ防ク若シ幕布
 ノ端末ヲ相重ネテ接合シ其下
 端ヲ地面ニ密接シテ固定シ土
 ヲ以テ掩覆スル時ハ風ノ侵入
 ヲ防クヲ得ヘシ。
 特別ノ場合例ヘハ久シク防禦
 陣地ヲ占領スル時ハ天幕ヲ壕
 上ニ緊張シ幕舎ト爲スコトヲ
 得ヘシ。
 天候惡シキトキハ藁、樹枝等ヨ
 リ成ル低壁ヲ造リ天幕ト連合
 シ第三圖ノ如ク構造スルヲ可
 トス。



廠營

廠營ハ藁、樹枝、木材等ヲ以テ臨時急造セル廠舎ニ依ル宿營法ニシテ幕營ニ比シテ移動困難ナルヲ以テ運動戰ニ於テハ之ヲ用ユルヲ得ス、長キ野營、冬營要塞戰又ハ兵站地ニ於ケル宿舍トシテ之ヲ使用ス、嚴寒ノ候ニ於テハ貯温ニ便利ナル廠舎ヲ用ユル事ハ軍隊ノ保健上最モ重要ナル事ニシテ軍隊指揮官ノ常ニ注意スヘキ事項トナス。

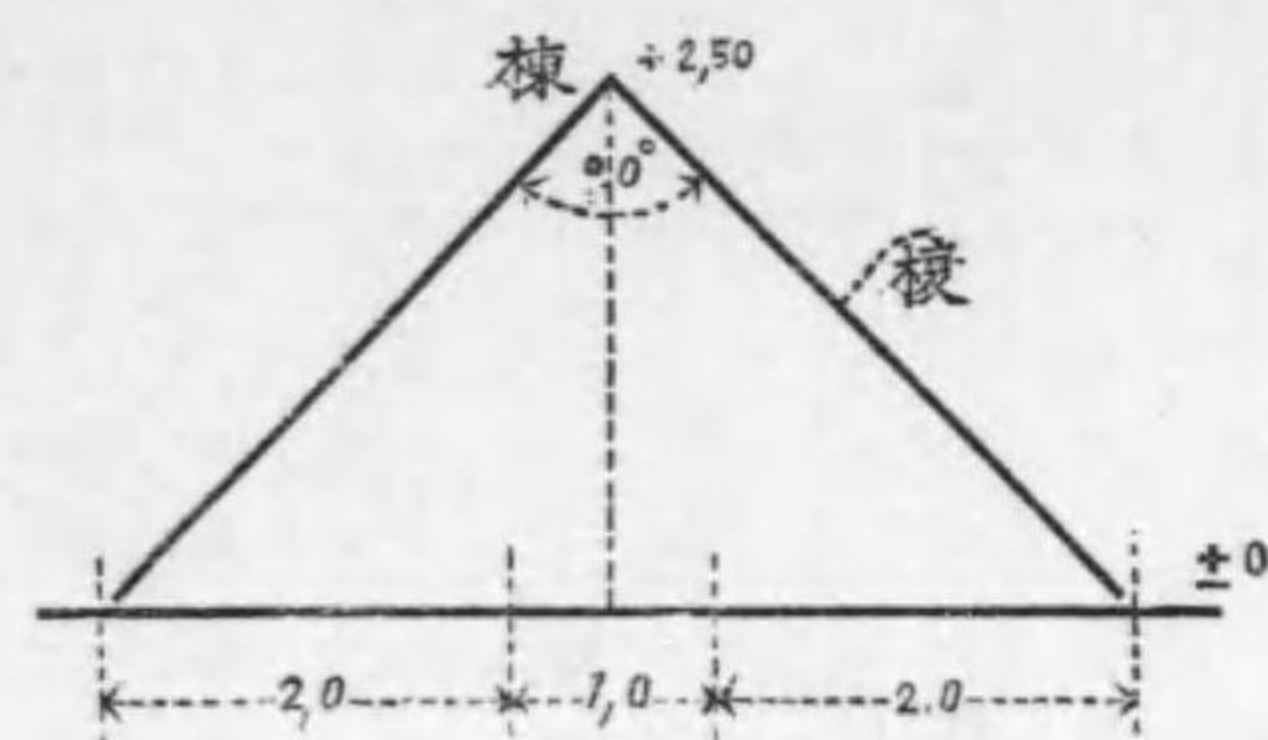
廠營ノ設備ハ宿營部隊自ラ之カ實行ヲ擔任スルヲ原則トナス而シテ主要工事ヲ實施シ或ハ他兵種ノ指導ヲ爲スハ工兵ノ任トス。
廠營ノ配置ハ戰術上ノ顧慮之ヲ許ス限リ軍隊內務ニ便ナルカ如ク區分スルヲ要ス、而シテ各隊態ニ廠舎ヲ建築スル如キハ秩序ヲ紊亂スルカ故ニ之ヲ避クヘシ。
右圖ハ步兵一大隊ノ廠營ノ一例トス。

注意。兵舎、厩舎等ハ能ク日光ヲ受クル如ク方向ヲ撰定シ又集合場、通路其他歩行ニ要スル場所ハ車馬ノ蹂躪セラル、事ナク濕潤ノ候ニ在リテモ泥濘トナラサルヲ要ス。

廠營ニ於ケル兵舎幅員決定ノ標準及

一般構造法

四面閉塞セル兵舎ハ其構造ニ多數ノ材料及時間ヲ要スルヲ以テ長時間使用スヘキ廠營ニノミ之ヲ用ヒ其幅員モ亦最小限ヲ與フルヲ以テ満足セサルヘカラス。
兵舎ノ大サヲ定ムルニハ各人ノ爲メニハ長サ二米〇〇、幅〇米六〇ト算シ通路ヲ

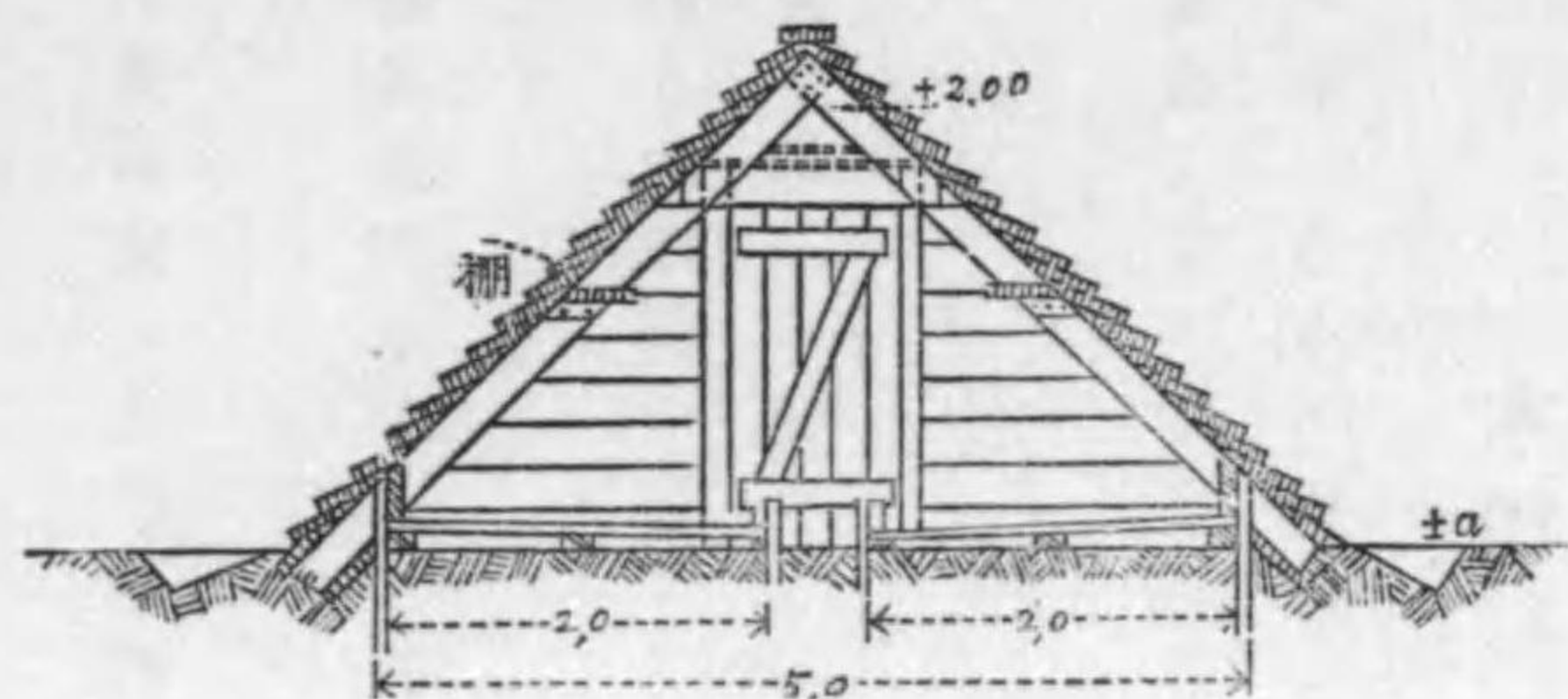


板製兵舎ノ構造法

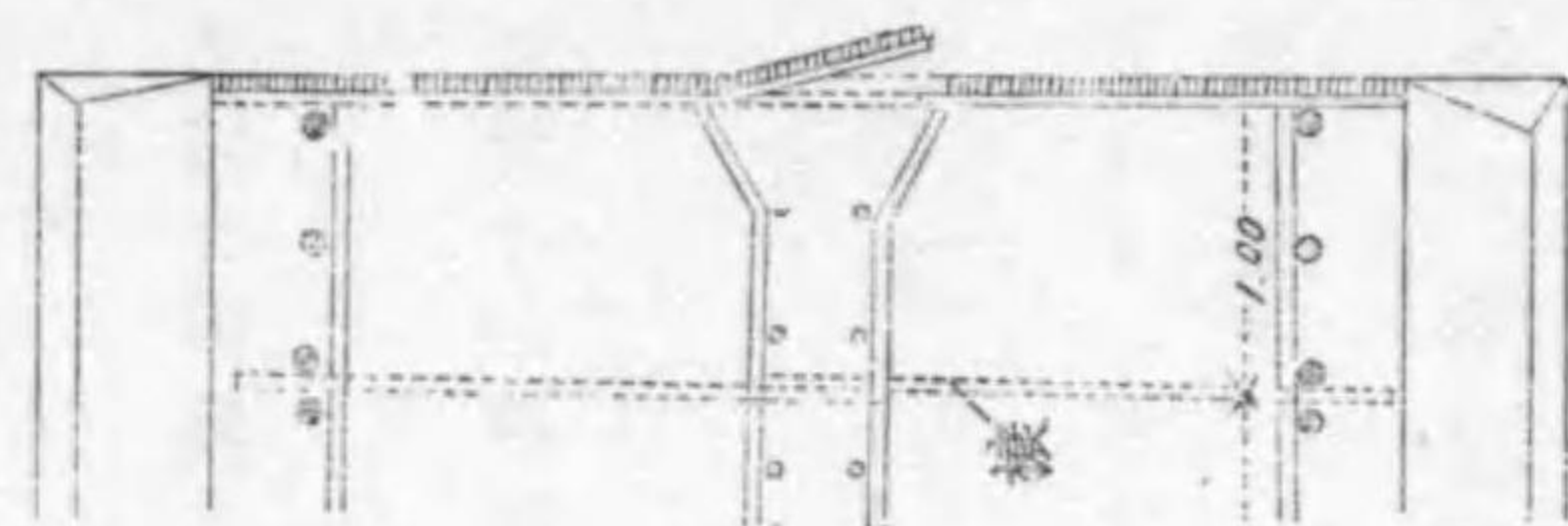
材料ノ供給容易ナルトキ最モ單簡且ツ迅速ニ構造シ得ヘキ兵舎ハ板製ノモノナ
 リ第一圖ハ之カ一例ニシテ各部ノ結合ハ凡テ釘ヲ用ユ而シテ屋根椽ハ厚板ヲ應
 用シ一米〇〇ノ間隔毎ニ配置シ其下端ハ杭ニ支保シタル板ニ切缺ヲ以テ組合セ

高サ二米〇〇幅一米〇〇トスレハ十分餘裕アルモ
 ノトス而シテ出入口ハ幅一米〇〇高サ一米八〇ト
 シ其扉ハ外方ニ開ク如ク爲スヘシ。
 屋蓋ノ形狀ハ其掩覆物ノ種類如何ニ關セス雨水ノ
 流下ニ便ナラシメンニハ上圖ノ如ク矩形トナスヲ
 良シトス然ルトキハ其棟ノ高サ二米五〇ニシテ幅
 約一米〇〇ノ通路ト二列ノ野床トヲ設クルヲ得ヘ
 シ。

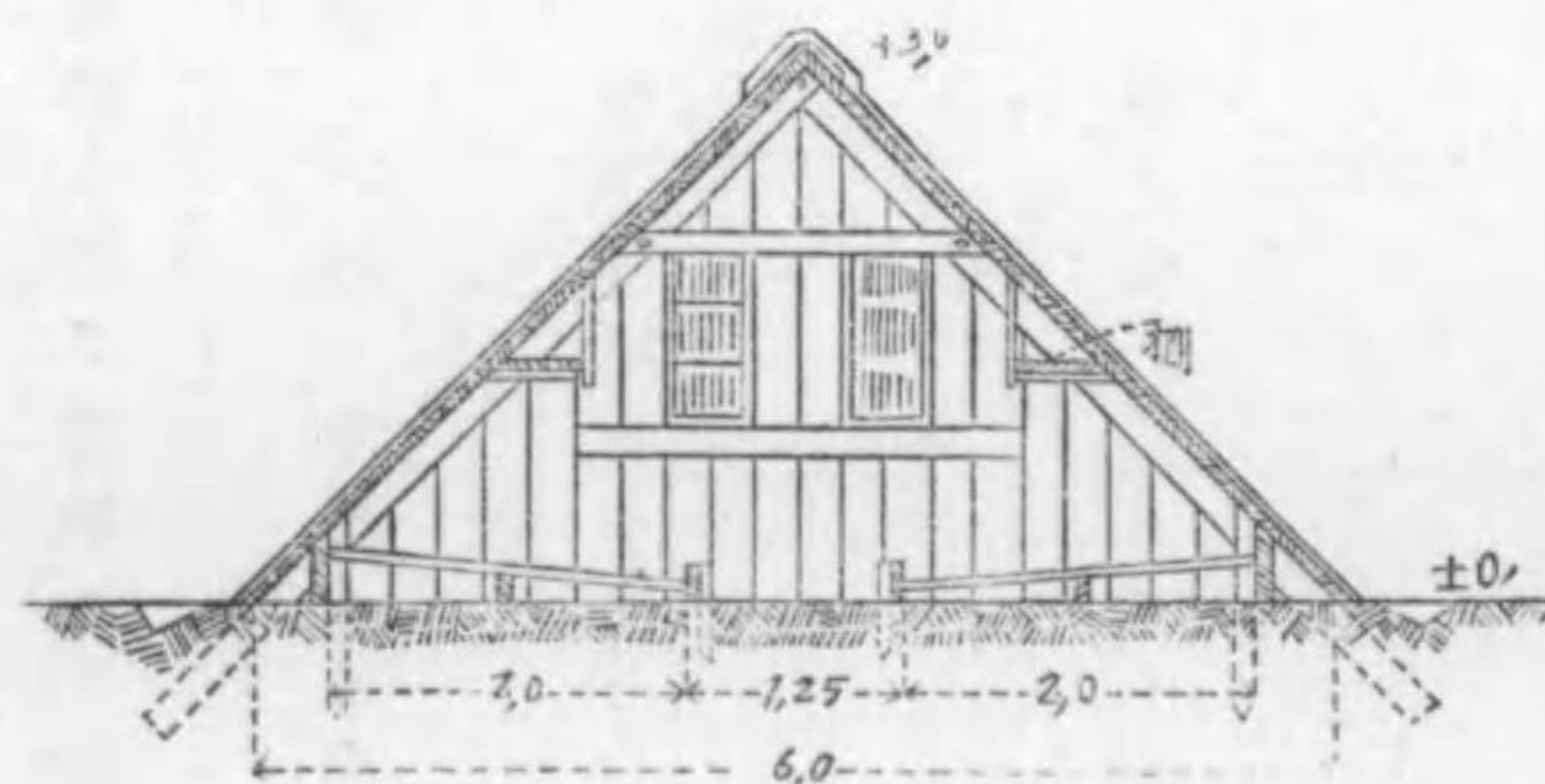
第一圖 (板製兵舎)



第六篇 宿營



第二圖



且ツ杭ニ釘着シ其維持ヲ強固ニス又屋根板ハ横ニ配置シ通常上下僅ニ重複セシ

ム.
第二圖ハ角材或ハ太キ木桿ヲ椽ニ用ヒタルモノニシテ棟部ニ於テ切缺ニテ結合
ス。

若シ天幕其他滲水セサル物料ヲ以テ屋根ヲ覆フコトヲ得レハ板ヲ平坦ニ並列シ
釘着スルモノトス。
窓ハ良好ナル季節ニ在リテハ單簡ナル押開戸トナシ是ニ硝子、油紙或ハ布片ヲ裝
置シ光線ヲ得ルニ便ナラシム。

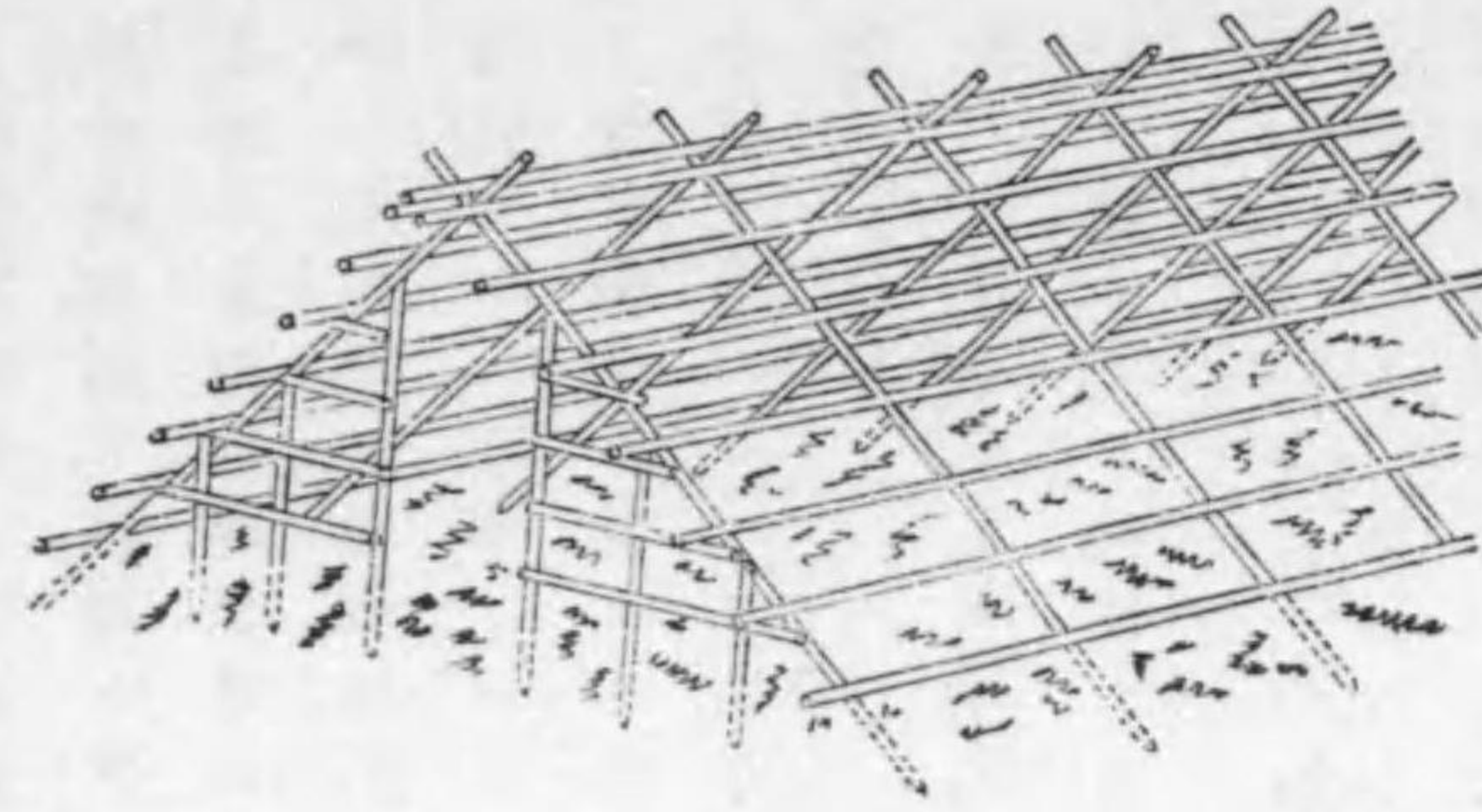
木桿製兵舎

第一圖及第二圖ノ如キ兵舎ニ在リテハ板ノ所要額各人ノ爲メ約六平方米トシ大
ナル釘ハ每平方米ノ板面ニ十本ヲ要ス。

木桿製兵舎ノ構造法

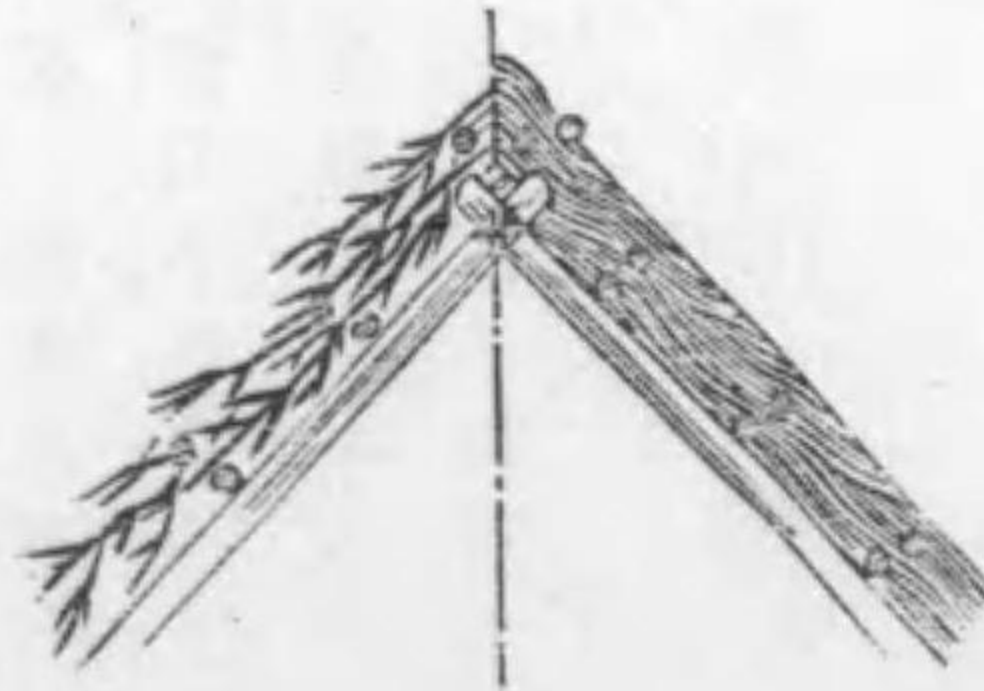
木桿製兵舎ハ骨材上ニ掩覆物ヲ覆フモノニシテ板製ニ比スレハ雨水ノ漏泄ヲ生

第三圖



シ易シ第三圖ハ其單簡ナル骨材ヲ示スモノニシテ椽ハ約一米〇〇ヲ間シテ其下

第四圖



端ヲ土地ニ固定シ棟部ニ固ク結束スヘシ。
 此ノ如キ兵舎ハ地面ヲ掘深シテ其高サヲ補ヒ風壓ニ對シテハ椽脚ヲ杭ヲ以テ固定ス、凡テ諸材ハ鐵線、綱、繩等ヲ以テ結束シ或ハ之ヲ釘着ス、又水平ナル木桿上ニ掩覆物ヲ置クニハ屋根ノ下部ヨリ始メ藁ハ穂尖ヲ下方ニ向ケ層毎ニ押ヘ木ヲ以テ固定シ上層ノモノハ下層ノモノヲ被フ如クスヘシ(第四圖右半部)又棟上ニハ特ニ厚キ冠層ヲ設ケ兩側ニ於テ押ヘヲナシ且ツ雨水ノ流下ヲ妨ケザル如ク爲スヘシ。掩覆物ニ樹枝ヲ用ユルトキ(第四圖左半部)ハ天幕或ハ是ニ類スル物料ヲ以テ雨水ノ滲入ヲ防クヲ可トス。
 木桿製兵舎ノ骨材ハ凡テ竹ヲ以テ代用スルヲ得、然ルトキハ竹ノ強度ニ應シ適宜横材及支柱ヲ施シ之ヲ強固ナラシムヘシ。

木桿製兵舎構造ニ要スル材料ノ標準

次圖第三圖木幹製兵舎ノ如キ兵舎ヲ(長サ六米〇〇)構造スルニハ左ノ材料ヲ要ス。
 長サ六米三〇、太サ〇米〇、七ノ棟木 一 本。

長サ四米六〇、太サ〇米〇、六ノ椽	十四本
長サ四米〇〇、太サ〇米〇、五ノ木桿或ハ竹	十五本
長サ約三米五〇ナル藁層ノ支へ及押へ用細桿	百本
藁	百五十貫目
繩(或ハ紫帶)	若干

長サ及大サノ不十分ナル木材(竹)ヲ利用スル兵舎ノ構造法

長サ及大サノ不十分ナラサル木材或ハ竹ヲ利用スル兵舎ハ第一圖乃至第二圖ノ如キ各種ノ結構ヲ用ユ。
 第一圖ハ短ク且ツ細キ椽ヲ用ユルトキ二米〇〇乃至三米〇〇ヲ間シテ地中ニ固定シタル本椽ノ上ニ横材ヲ架シ是ニ依リテ支持セシメタルノ一例ヲ示ス。
 第二圖ハ細キ椽ヲ支ユル爲メ支柱及横材ヲ用ヒタルモノニシテ同時ニ此ノ横材ヲ以テ棚ノ設置ニ應用セルモノナリ。

第三圖ハ短キ材料ヲ應用シテ構造セルモノナリ。



圖 一 第

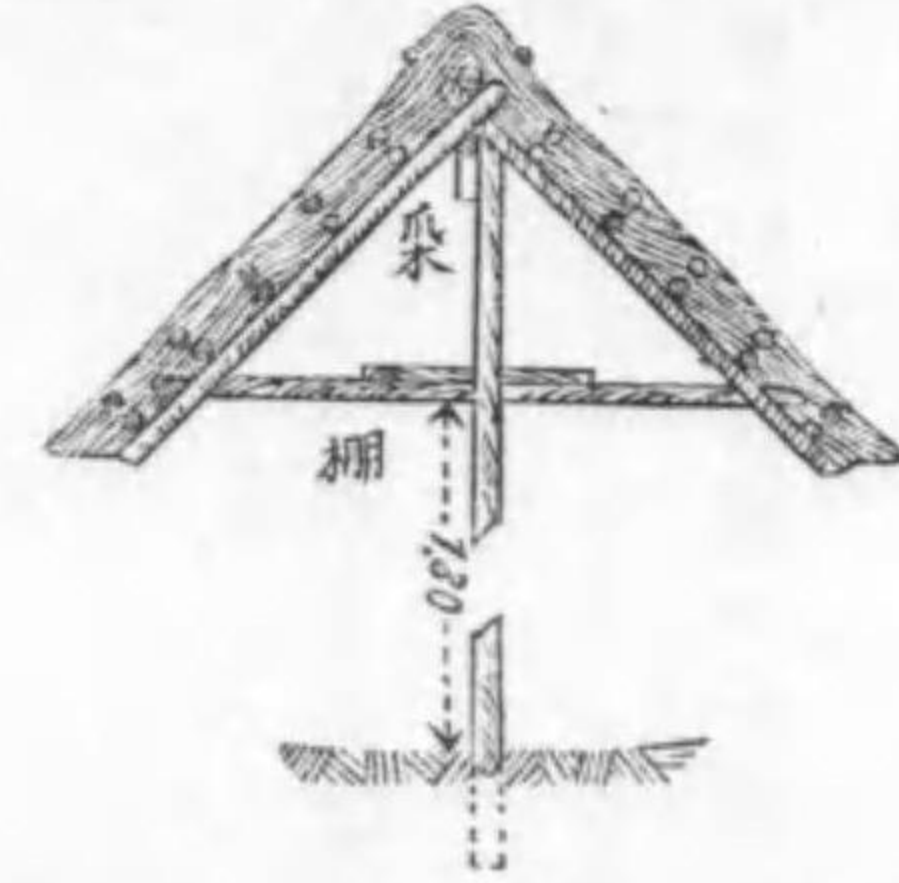


圖 二 第

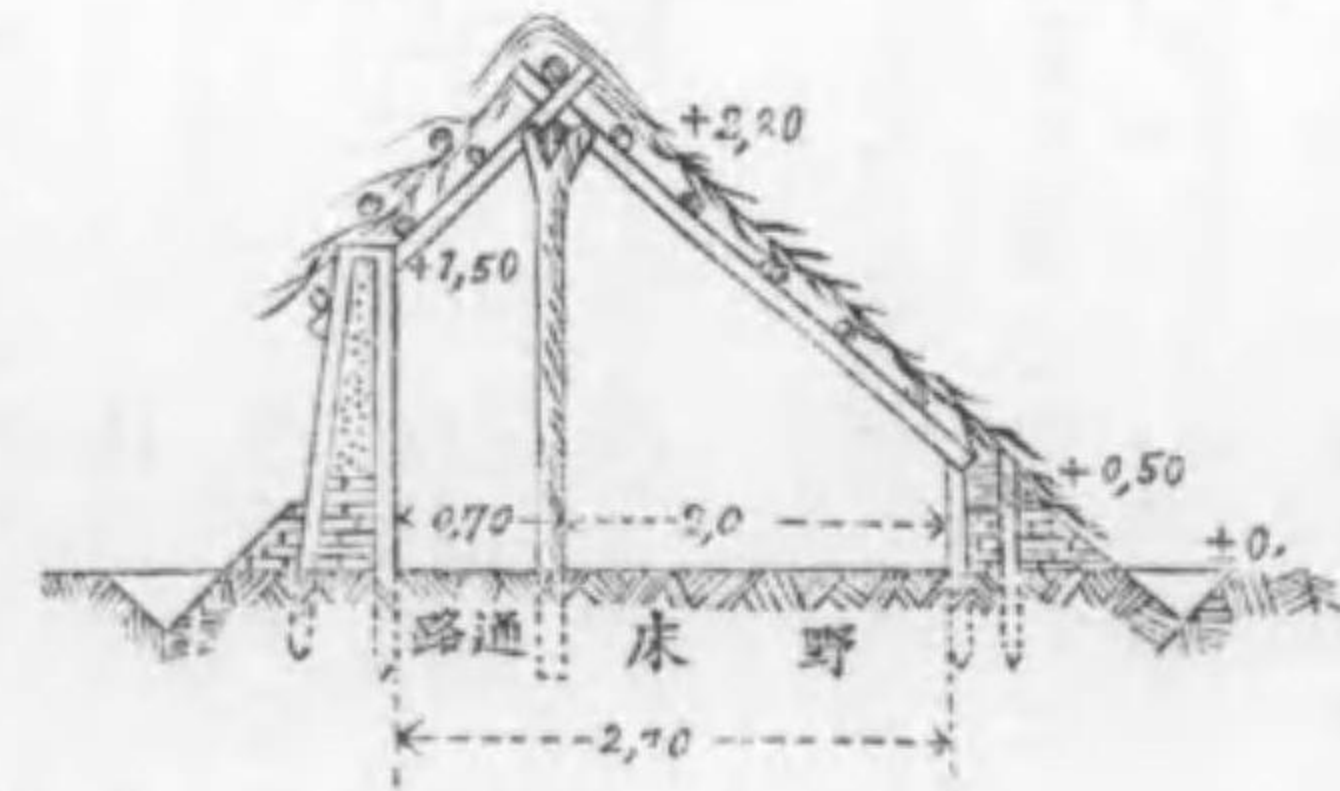
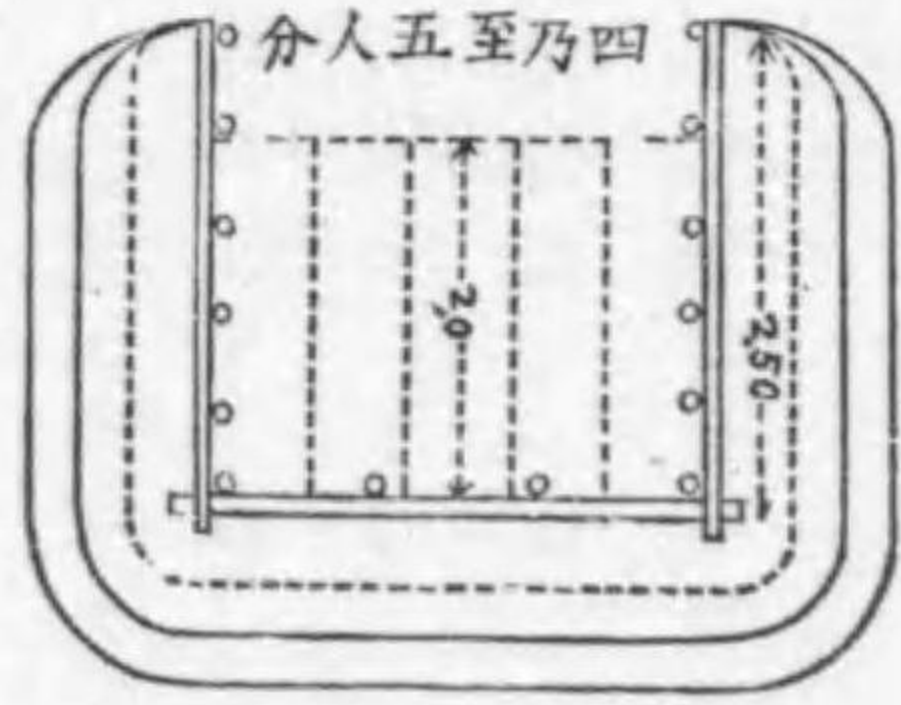
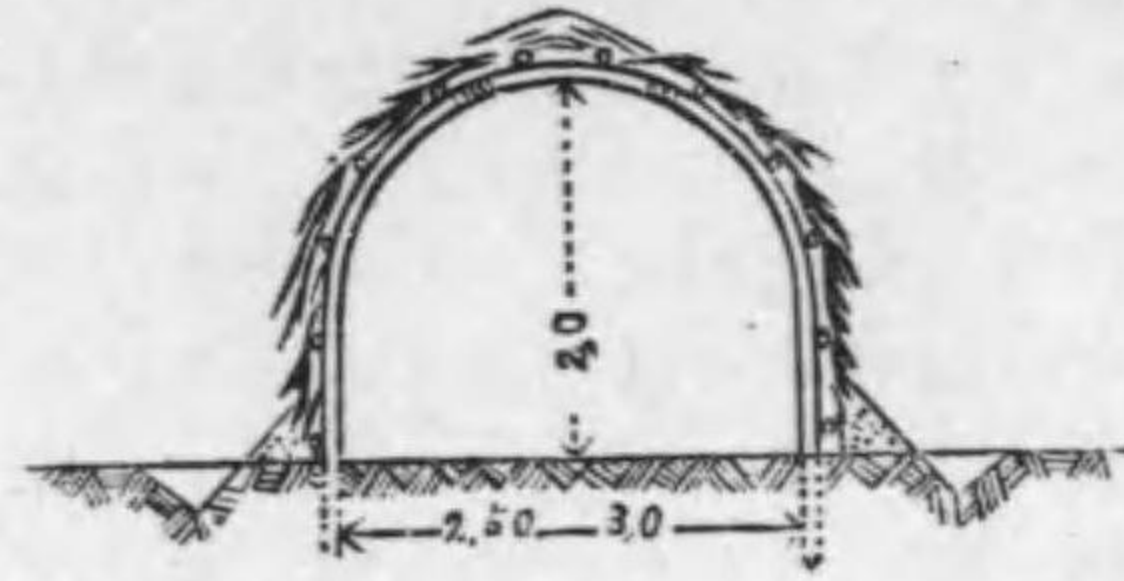


圖 三 第

振曲シ易キ材料ヲ以テスル兵舎ノ構造法



振曲シ易キ木、竹或ハ
樹枝ヲ縦横兩材トシ
構造セル特種ナル形
狀ノ兵舎ハ上圖ノ如
シ。

冬期用防寒兵舎ノ構造法

冬季用兵舎ハ防寒ノ爲メ舎内ノ地ヲ掘深スルヲ常トシ屋根ハ掘取リタル土ヲ以テ覆フモノトス。

地下掘取ノ度ハ假令地壁ヲ被覆シ排水ヲ便ニシ換氣法ヲ設クルモ衛生上ヲ顧慮シ成ルヘク深カラシメサルヲ可トス、雨水ノ滲透シ易キ土地ニ在リテハ排水溝ヲ深クシ要スレハ水抜井ヲ設クヘシ又入口ハ雨水ノ流入ニ對シ之ヲ防護スルノ處置ヲ施スヘシ。

舍内ノ土地ヲ掘深シテ設ケタル兵舎ニ在リテハ屋蓋ヲ掩覆セサルニ先タチ之ヲ日光其他ニ依リ十分乾燥セシムルニ注意スルヲ要ス。

屋蓋ノ構造ハ木桿製兵舎法ニ依ル然レトモ土壓ニ杭スル爲メ椽ノ間隔ヲ〇米七五以下トナシ又中間ニ於テ支撐セサル時ハ其太サヲ〇米一五以上ト爲スヘシ。其他堅牢ナル厚板若クハ釘着セル重層板モ亦椽ニ代用スルヲ得ヘシ。

冬季降雨ノ虞レアル地方ニ在リテハ屋蓋ノ掩覆土ハ水ヲ流下シ易カラシムル爲メ務メテ其上面ヲ緻密且ツ平滑ナラシムヘシ然レトモ土質ニ依リ多少ノ滲透ヲ免レ難キヲ以テ裏板ヲ其下方ニ敷クヲ良シトス、又屋根ノ勾配モ務メテ急峻ニシ若シ止ムヲ得スシテ緩徐ナラシムル時ハ滲水セサル物料ヲ以テ屋根板ヲ覆ヒ防水ノ處置ヲナスヘシ。

兵舎ノ入口ニ於テ別ニ前室ヲ設クルトキハ舍内ノ温度ヲ保ツニ良好ナリトス。

一 冬季用兵舎構造ニ要スル材料ノ標準。

第一圖ハ冬季用兵舎ノ單簡ナルモノヲ示セシモノナリ。

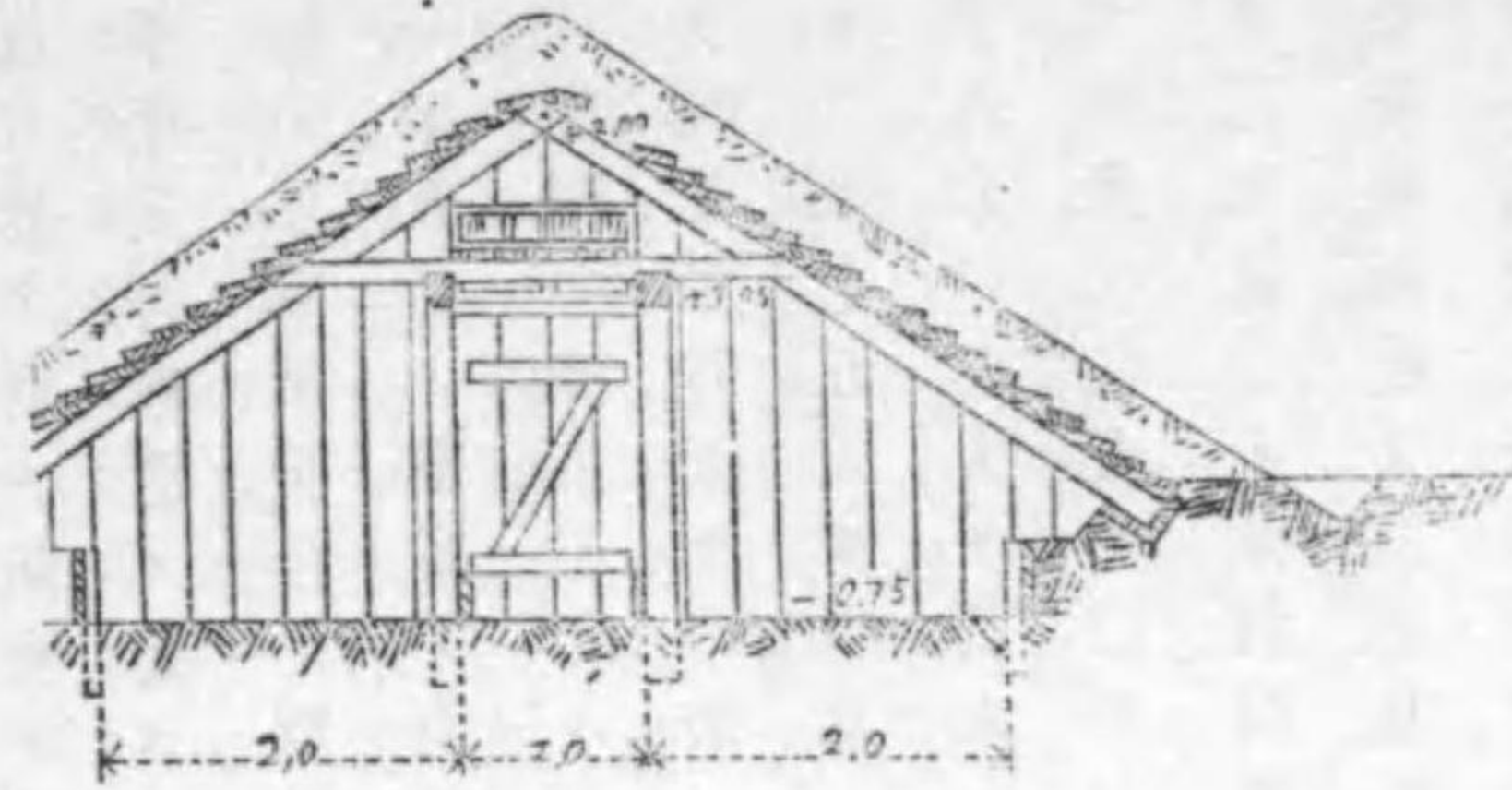
長サ一米五〇ノ前室ヲ有スル兵舎ノ全長七米五〇ニシテ椽ノ間隔〇米七五
支柱ノ間隔一米五〇ナルモノハ左ノ材料ヲ要ス。

- 長サ四米二五、太サ〇米一五ノ椽 二十二本
- 長サ二米七五、太サ〇米一五ノ柱 十二本
- 長サ八米〇〇、太サ〇米一五ノ冠材 二本
- 長サ四米〇〇、太サ〇米一〇ノ丸太(前後面壁ノ柱) 八本
- 長サ三米五〇ノ横材用厚板 六枚
- 屋根、前後面壁、入口扉及野床用ノ板 百三十五平方米
- 長サ一乃至二米〇〇ノ杭 五十本

二 釘
暖爐ノ代用。

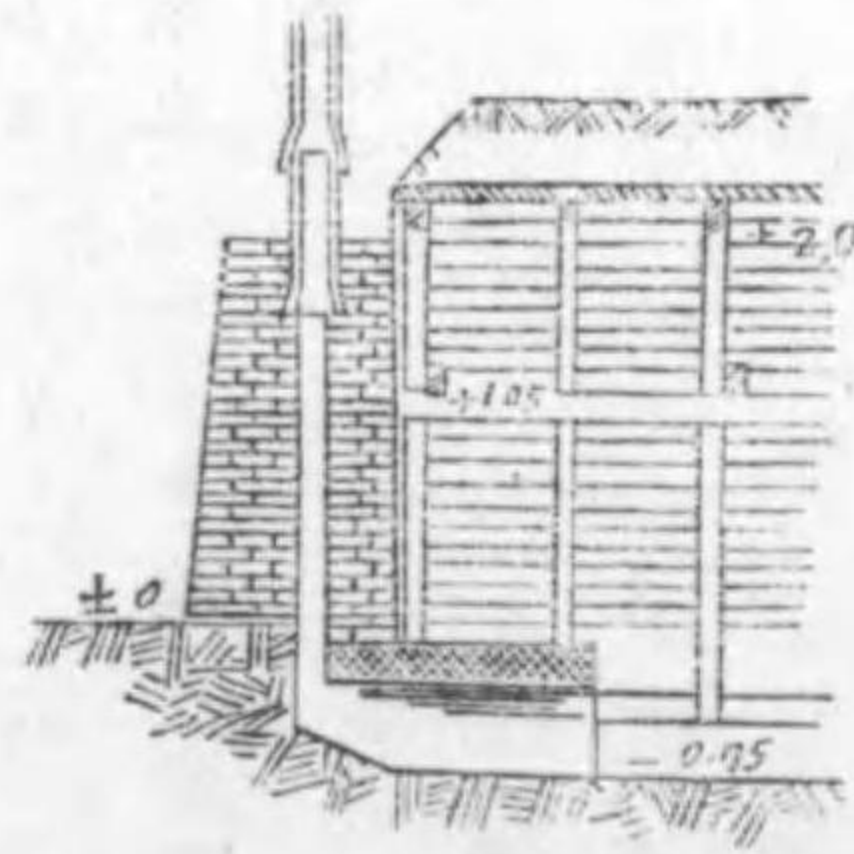
千三百本

第一圖



暖爐ノ代用ニハ煉瓦或ハ堅實ナル糾草ヲ以テ第二圖ノ如キ火焚場ヲ設ケ或ハ斐、鐵葉等ヲ用ヒ暖爐ヲ急造シ又ハ急造暖爐ヲ設ク。

第二圖



兵舎内ニ火焚場或ハ暖爐ヲ設クル時ニハ火災ノ憂ヒ無カラシムル爲メ舎内ノ構造ニ特ニ注意ヲ加フヘク又室内ノ換氣法ヲ顧慮スルヲ要ス。

三 冬季降雨ナキ寒地ニ於ケル兵舎ノ構造法。

冬季降雨ナキ寒地ニ在リテハ第三圖ノ如キ單簡ナル兵舎ヲ以テ足レリトスルコトアリ。

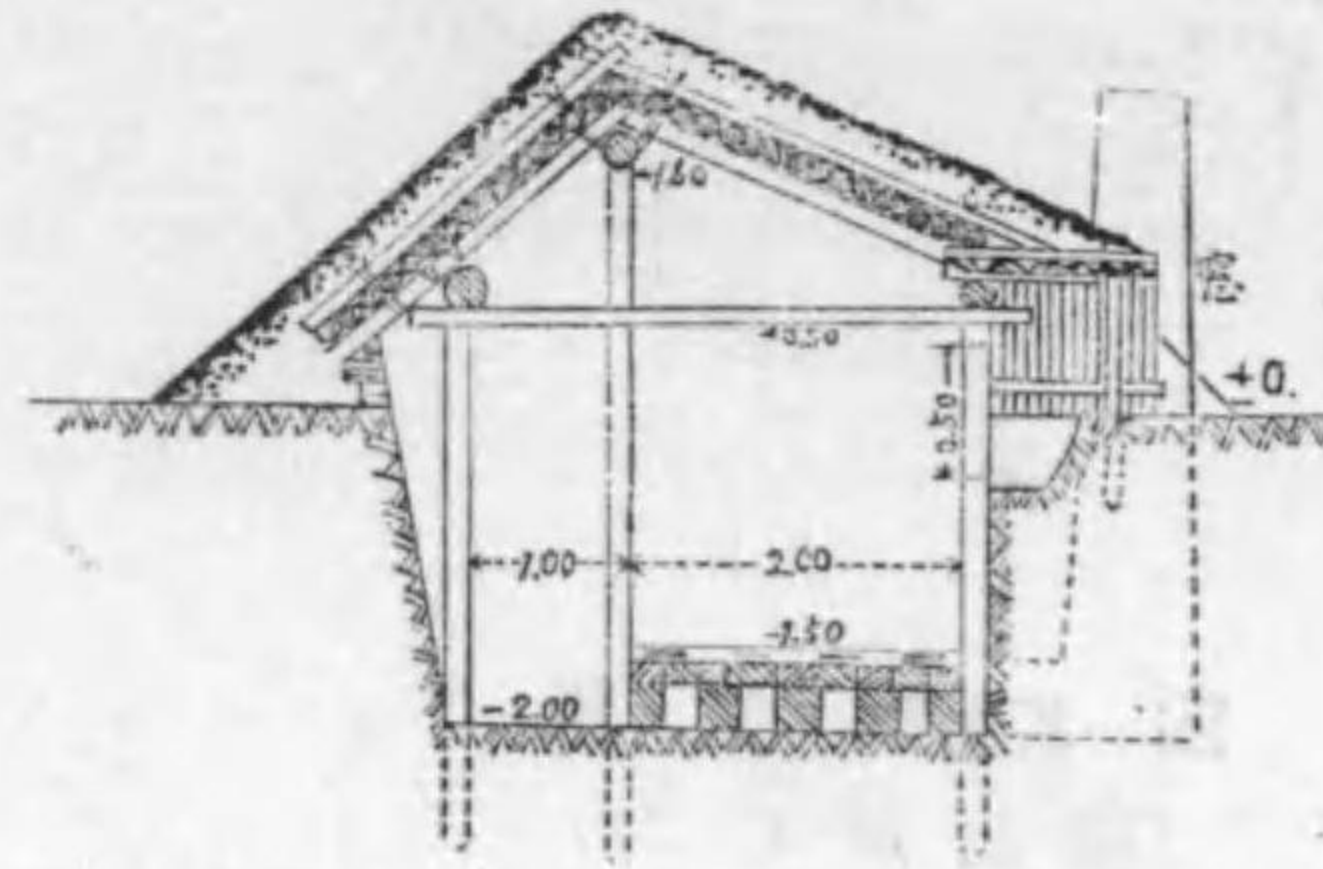
第四圖ハ深ク土地ヲ掘下シ堅牢ナル木材ト十分ナル土層トニ依リ彈丸ノ破片ニ對シ安全ナル如ク構造セル兵舎ニシテ要塞攻圍間等ニ用ヒラル。

寒地ニ於テ長時日駐留スルニ當リ十分ナル採暖ヲ得ルニハ煉瓦ヲ用ヒテ床下ニ温土爐ヲ構造スルニアリ而シテ其設備ハ火口、煙道及煙突ノ三部ヨリ成ルモノニシテ第五圖ノ方法ニ準スヘシ。

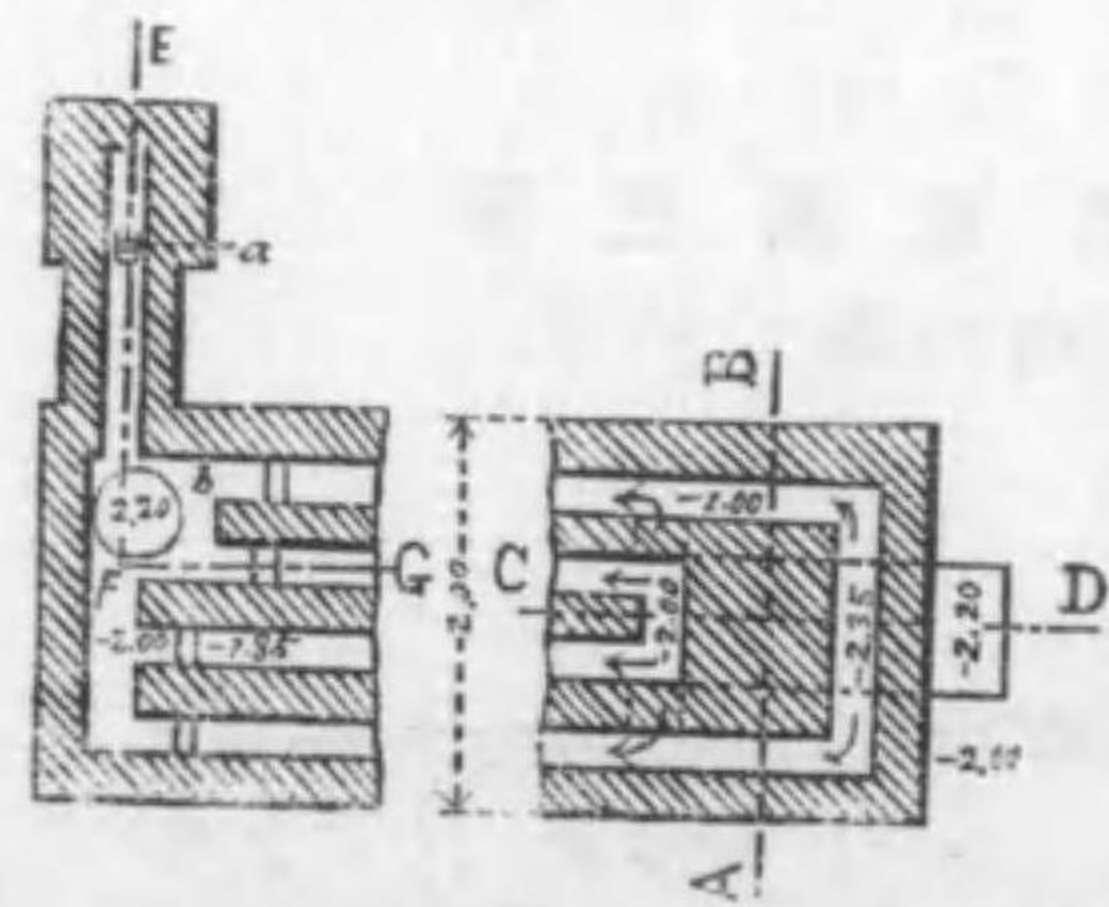
火口ハ燃燒ヲ容易ナラシムル爲メ成ルヘク下方ニ在ラシメ、登傾斜ノ煙道ヲ以テ煙突ニ通シ得ル如クシ煙突ノ下部ニハ風除石第五圖其五ノa)及其後方ニ風除穴(同圖ノP)ヲ設クルヲ良シトス。

材料ノ乏シキトキハ煉瓦ヲ用ヒテ煙道ヲ構造スルニ代ヘ先ツ設ケムトスル

一其圖五第 (圖面斷横)



二其圖五第 (造構ノ下床)



土地ヲ水平ニ削截シ第五圖其ニ準シ地面ニ細溝ヲ掘開シ其上ニ高梁或ハ細キ樹枝ノ薄層ヲ架シテ粘土ヲ塗リ尙ホ高梁或ハ樹枝ト粘土トノ各一層ヲ以テ掩覆スルコト前ノ如クナス此ノ如ク構造セル煙道ハ下層ノ高梁或ハ樹

圖 三 第

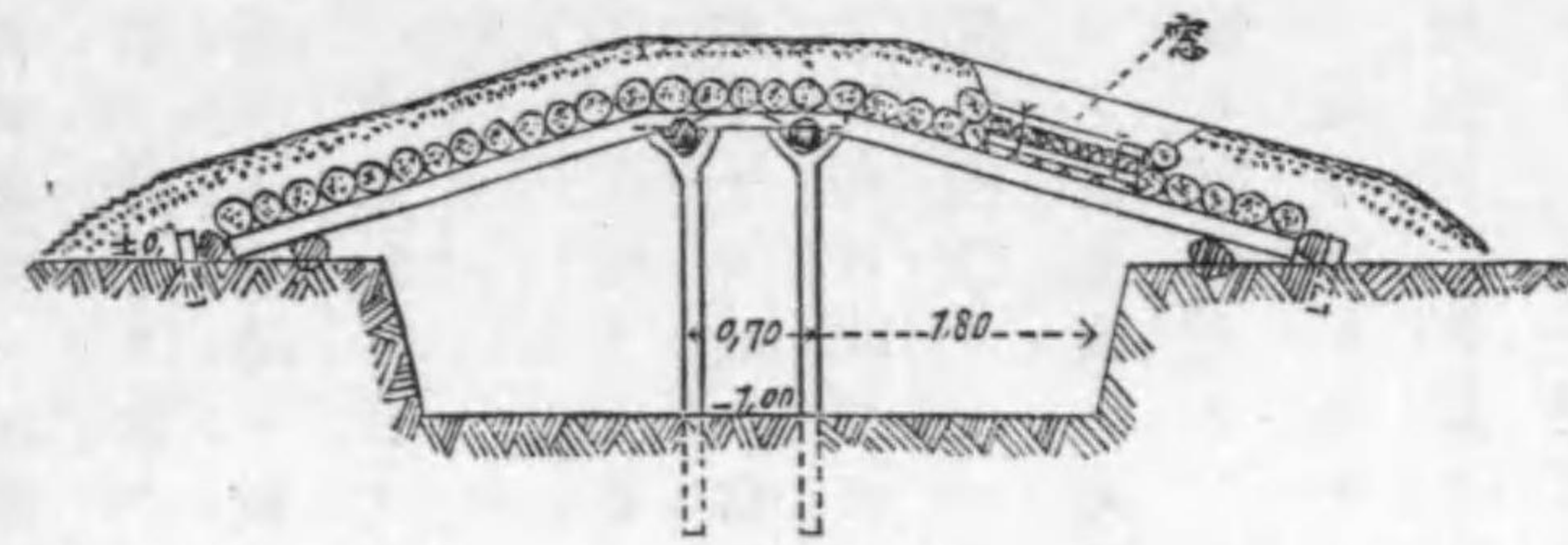
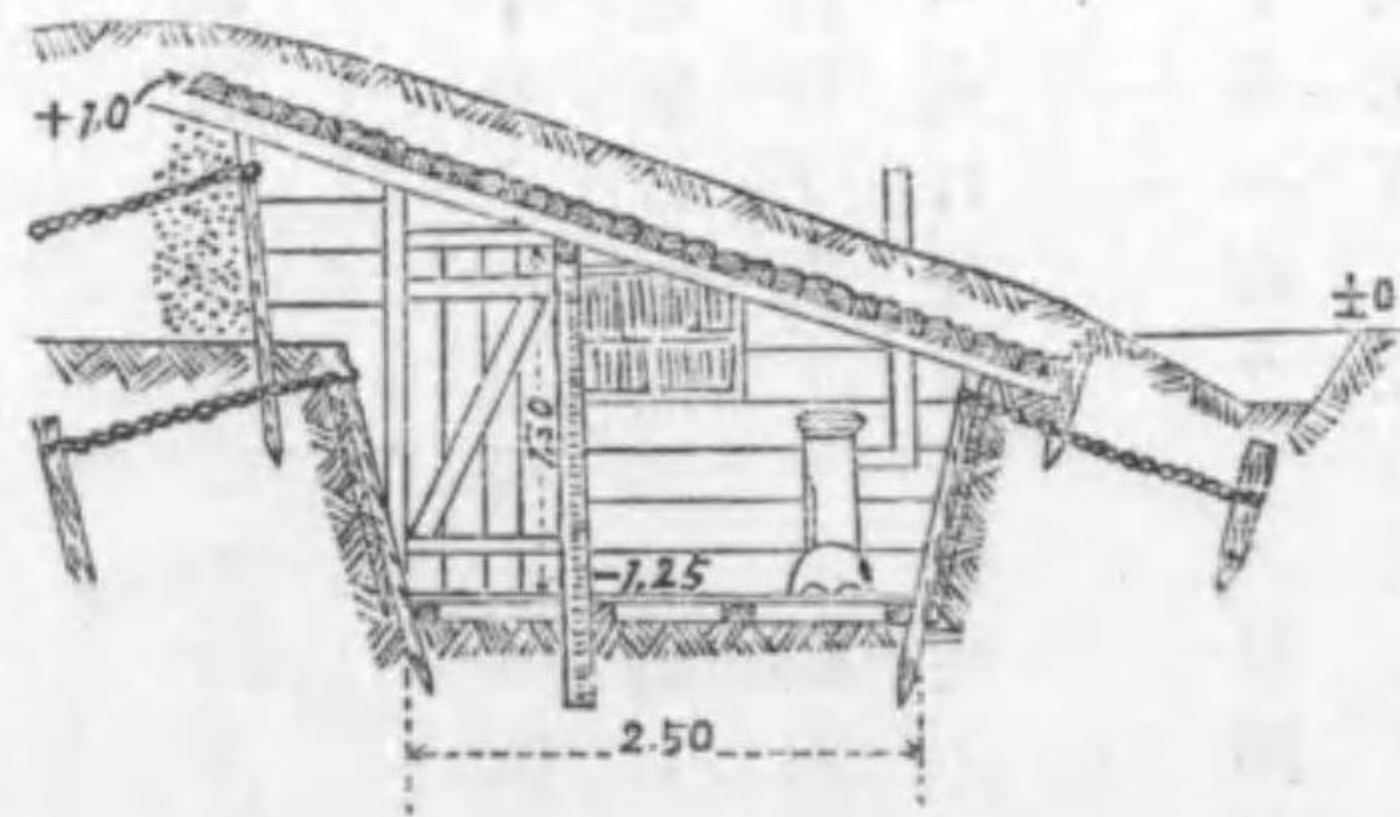
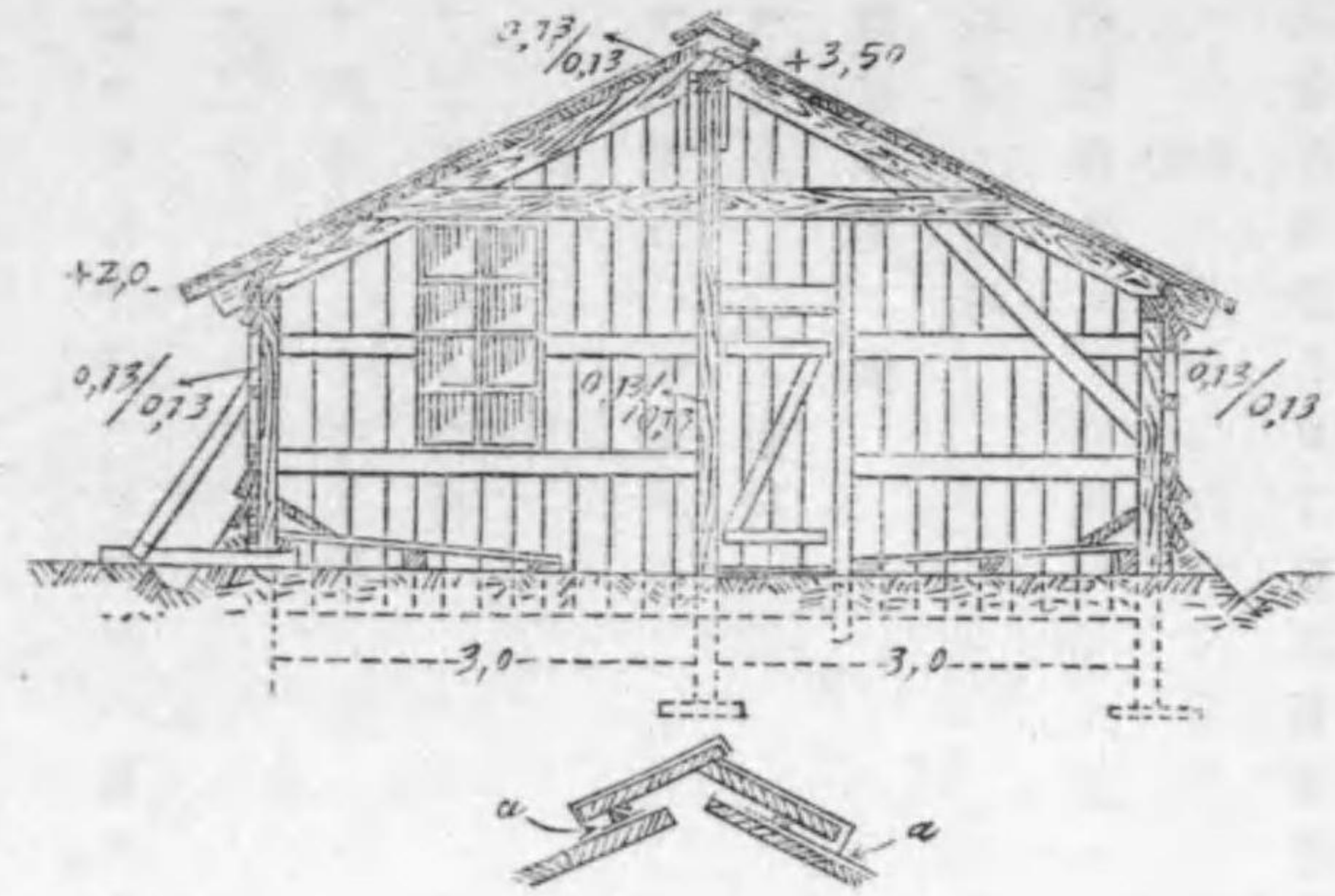


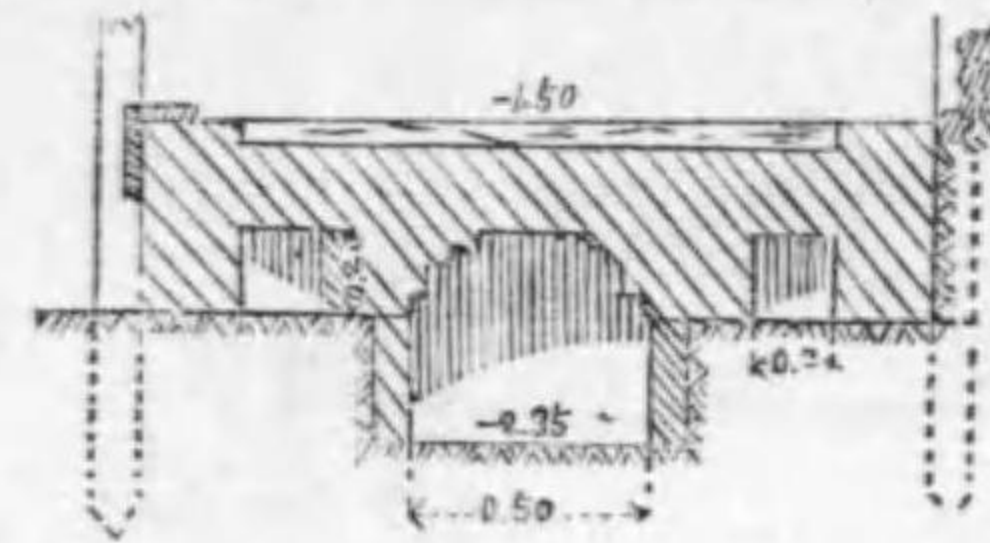
圖 四 第



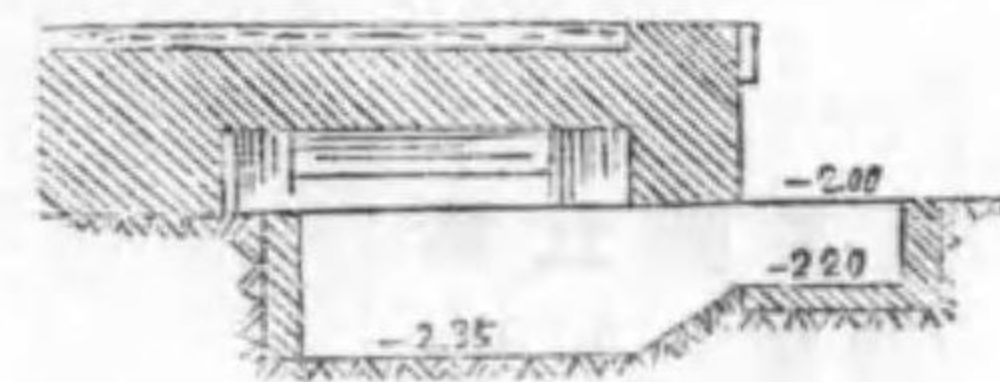


軍隊廠營ヲナスニ當リ一層完全ナル兵舎ノ急造ヲ要スル時ハ柱ヲ地中ニ直立シ礎材ヲ省略シテ單簡ニ之ヲ構造スル事アリ(上圖右半部)又岩石地ニ在リテハ柱ヲ礎材上ニ裝置スヘシ(上圖左半部)柱及冠材ノ爲メニハ厚板若クハ重疊板ヲ以テ角材ニ代用スルコトヲ得又所要ニ應シ棟ニ近ク上圖aノ如ク空氣抜キヲ設ク。

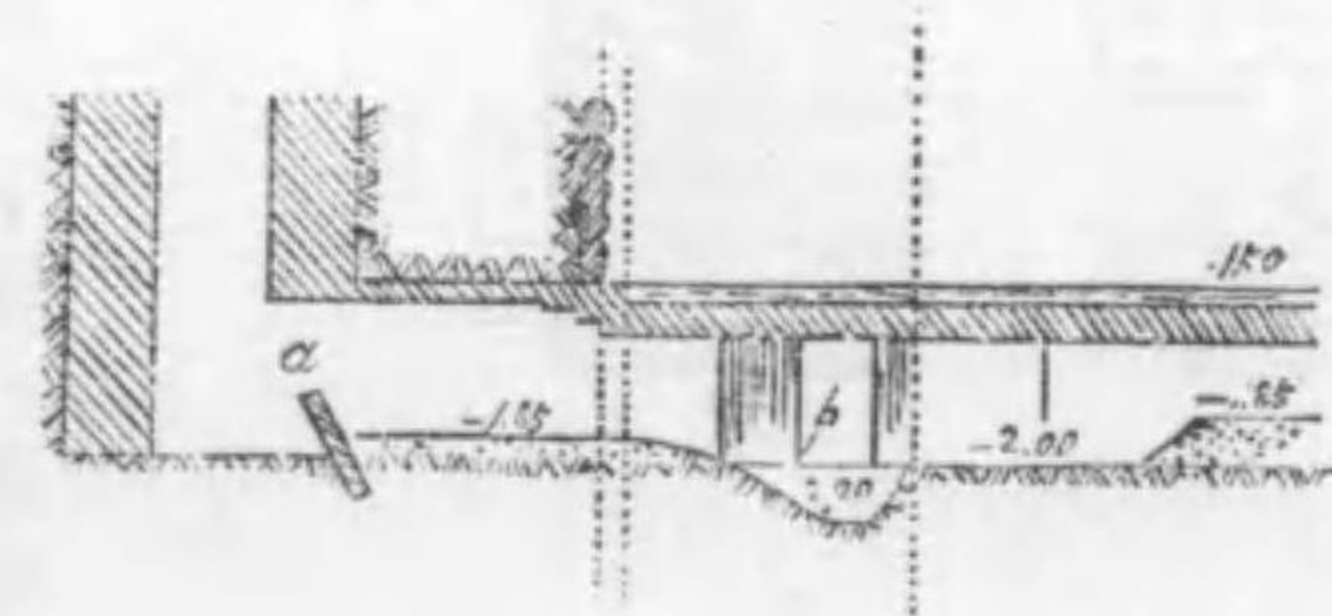
三其圖五第
(圖面斷 A B)



四其圖五第
(圖面斷 C D)



五其圖五第
(圖面斷 E F G)



一層完全ナル兵舎ノ急造法

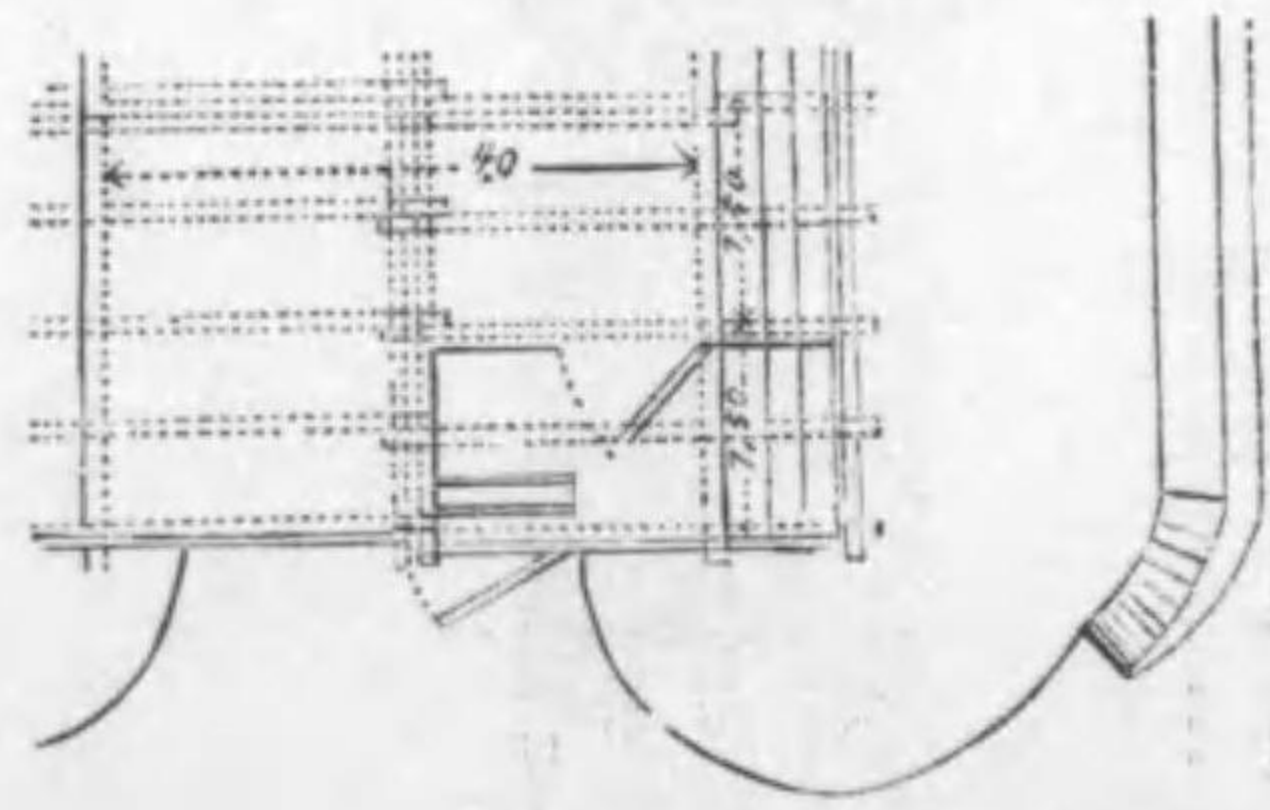
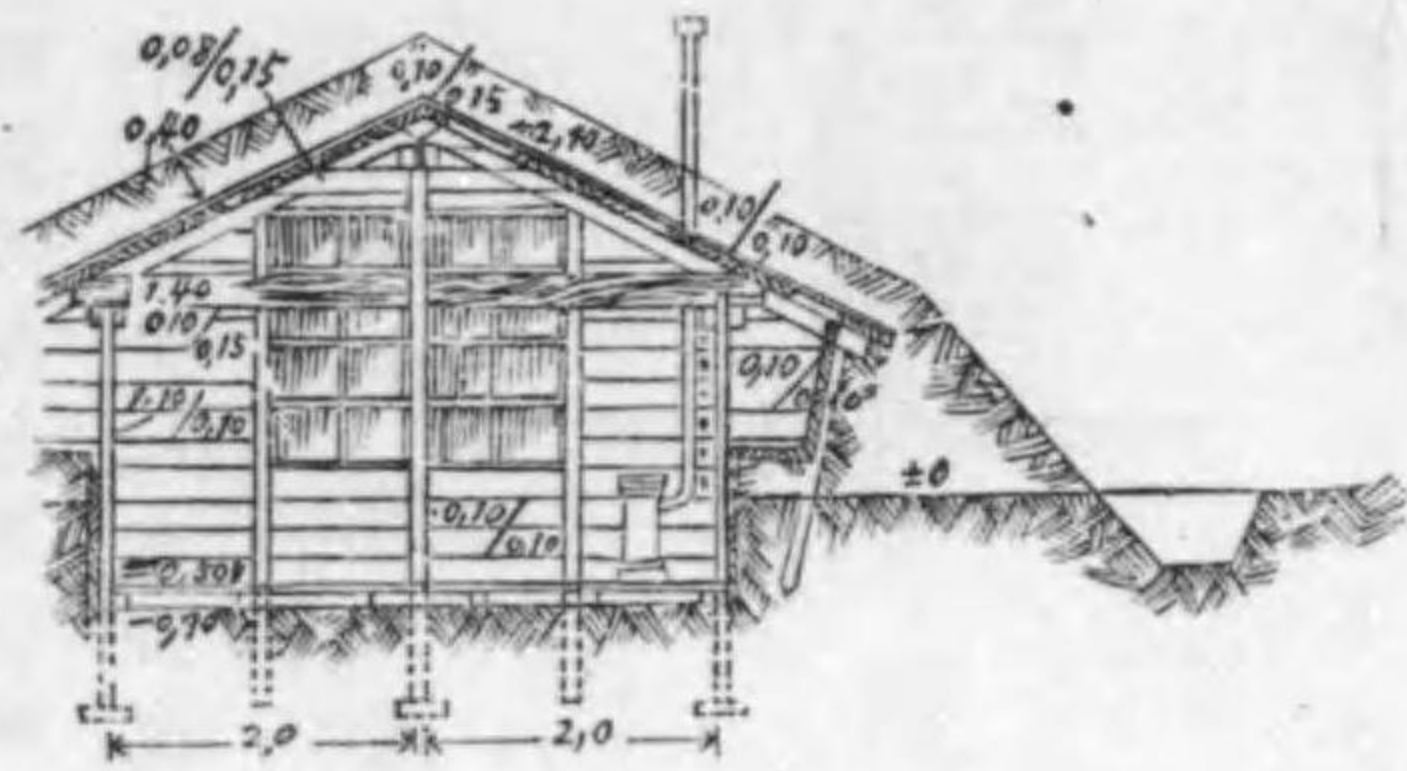
枝燃燒スルモ粘土ノ中間ニ在ル高梁或ハ樹枝ヲ骨材トシテ能ク床面ヲ維持シ得ルモノナリ。

一層完全ナル兵舎ニ要スル材料

此ノ如キ兵舎ニ要スル材料ハ長サ十米突ニ附短側面ヲ除キ概ネ左ノ如シ。

- 長サ三米〇〇ノ柱 十二本
 - 長サ四米五〇ノ中央柱 三本
 - 長サ三米五〇ノ斜材 六本
 - 冠材 三本
 - 長サ四米五〇椽用ノ板 二十二枚
 - 長サ五米〇〇ノ横材 三本
 - 屋根壁、床用ノ板 百八十平方米
 - 床柱用ノ角材 六十本
 - 屋根掩覆物 百平方米
 - 釘 千八百本
- 以上ノ如キ兵舎ヲシテ能ク寒氣ヲ防護セシメンニハ板ヲ以テ屋根及壁ノ内面ヲ

第六圖



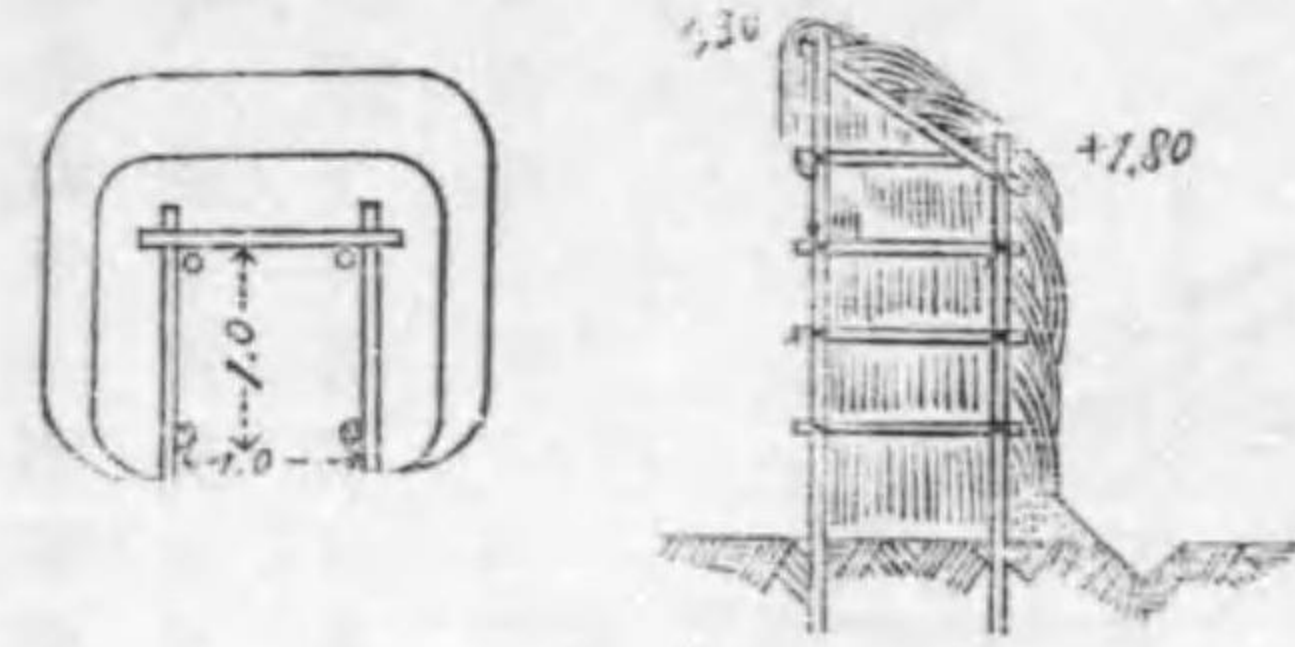
覆ヒ糾草並ニ泥土ヲ其空間ニ填實スヘシ斯ノ如クスルモ尙ホ嚴寒ノ防護未タ完カラサル時ハ冬季用兵舎ヲ應用シ或ハ之ヲ地中ニ埋設シ掘取シタル土ヲ以テ屋根ヲ掩覆スルコト左圖ノ如ク爲スヘシ。

完全ナル兵舎ヲ多數ニ設置スルヲ要スルトキハ其相互ノ間隔ハ少ナクモ屋高ノ

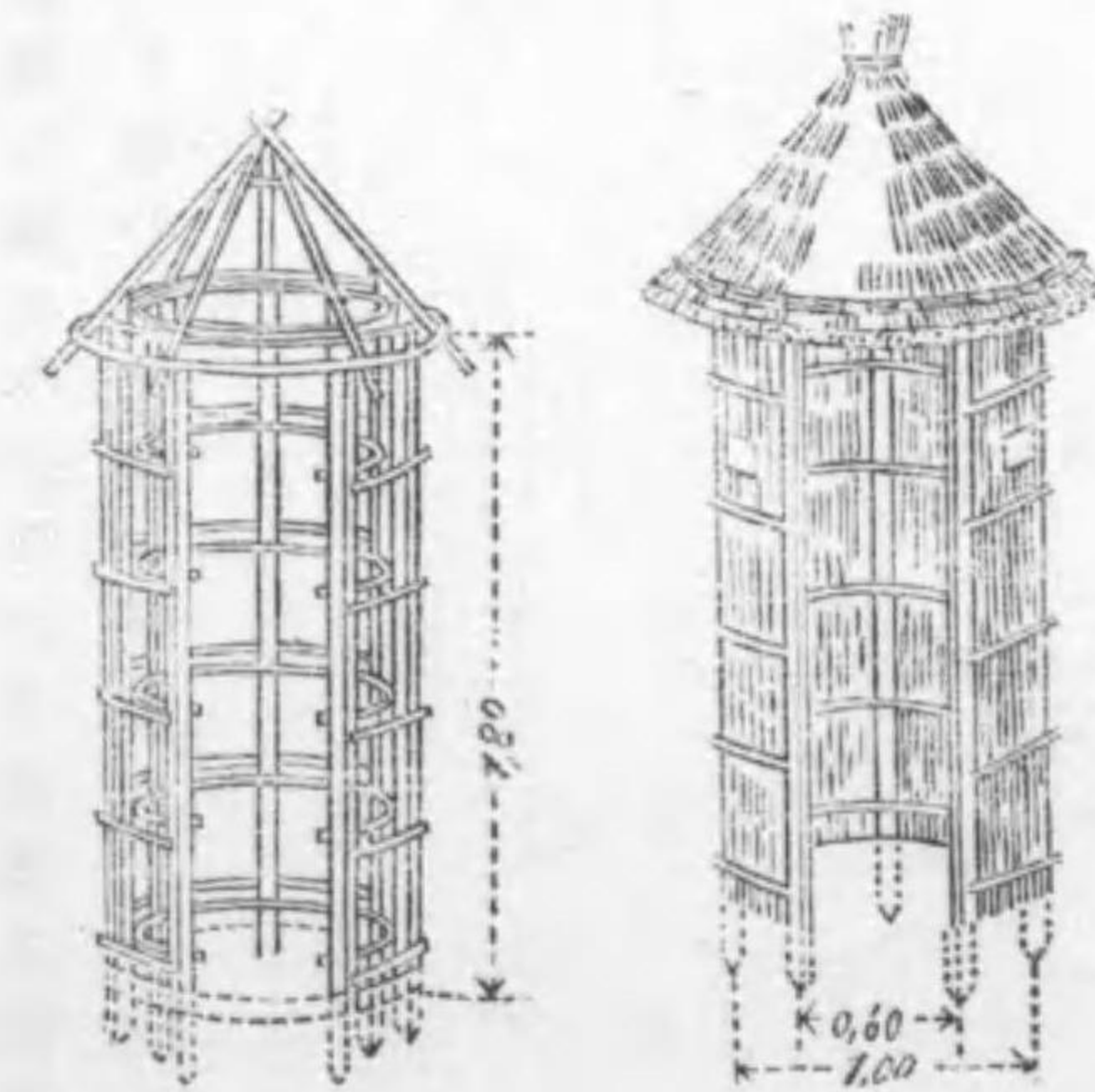
約三倍ナラシムルヲ要ス。
 以上示シタル兵舎ニ在リテハ銃等ヲ置ク爲メ前壁或ハ側壁ニ沿ヒ銃架ヲ設ケ又
 ハ之ヲ懸垂スル爲メ壁ニ木釘或ハ釘等ヲ固定ス。

哨兵舎ノ構造法

第一圖



第二圖



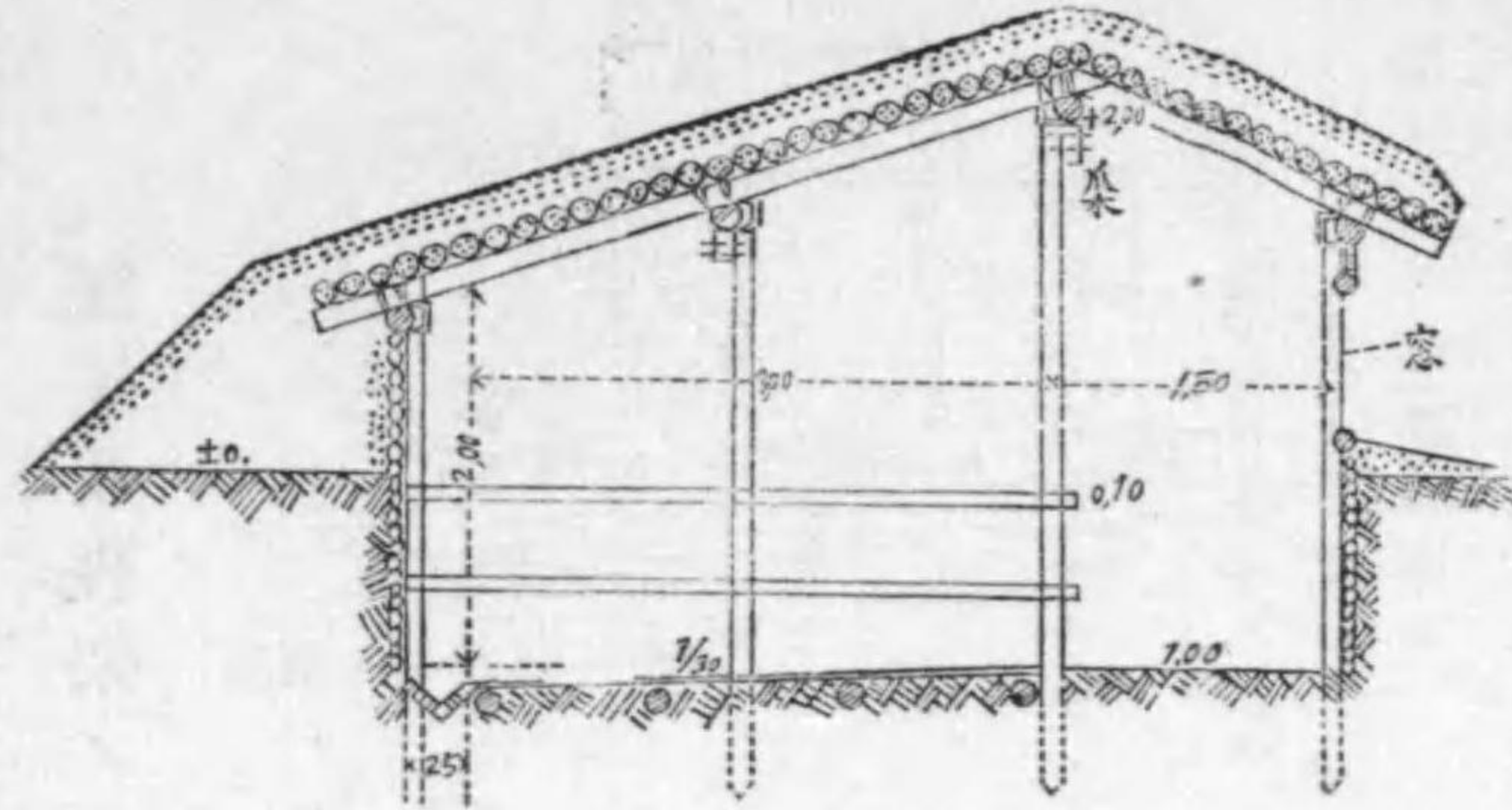
風雨ニ對シ哨兵ヲ防護スル爲メニハ藁、編條或ハ天幕等ヲ以テ第一圖及第二圖ノ
 如キ哨兵舎ヲ設ク。
 寒地ニ設クル哨兵舎ハ防寒ノ爲メ地下若干ノ深サニ埋没シ成シ得レハ藁、土等ヲ
 以テ外面ヲ掩覆スルヲ良シトス。

厩舎ノ構造法

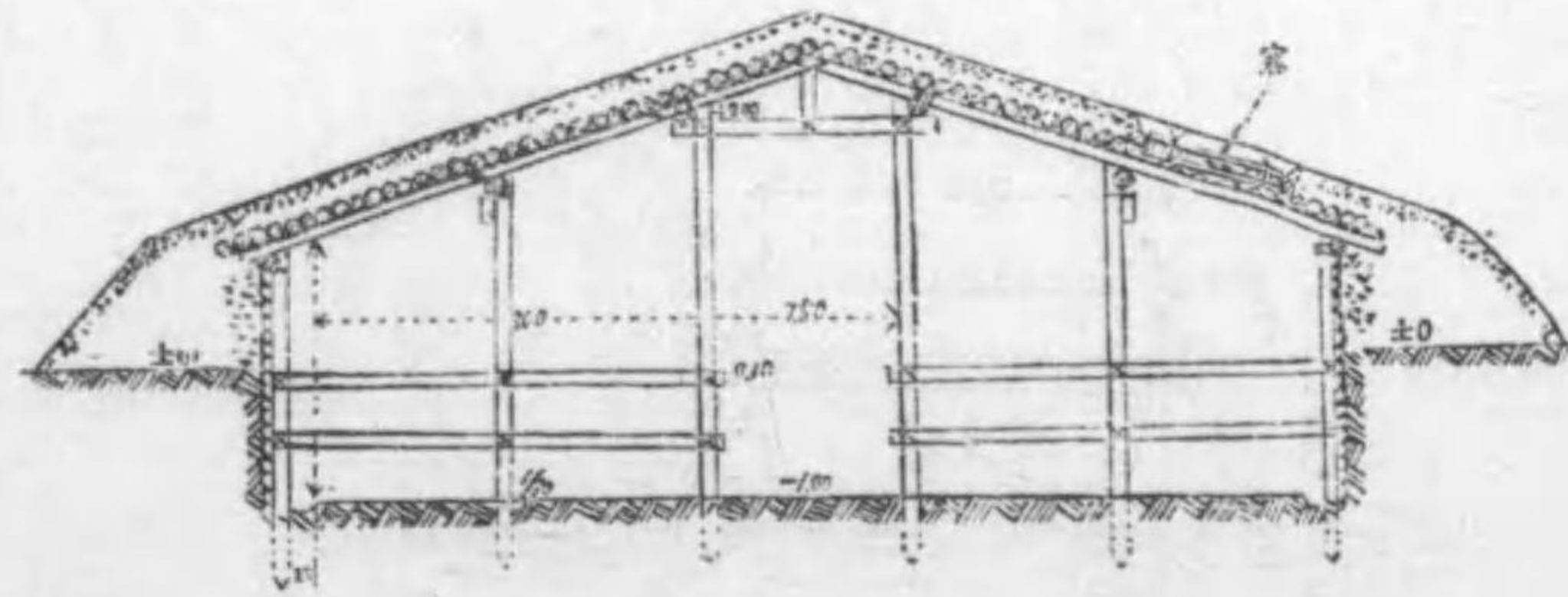
掩蔽下ニ於テ一馬ノ領スル面積ハ長サ三米〇〇、幅一米五〇、高サ二米〇〇ヲ小極
 度トス故ニ所在ノ建物ヲ厩舎ニ利用スルニ當リテハ是ニ注意スルヲ要ス。
 屋蓋ヲ有スル厩舎ヲ廠營地ニ構築スルトキハ單簡ニ第一圖ノ如クシ柱ハ約〇米
 八〇地下ニ挿入スヘシ然レトモ馬匹ノ頭部ヲ風雨ニ對シ防護スル爲メ其前面ヲ
 閉塞シ厩當番ノ居所、鞍及馬糧ノ置場(馬)ニ供スルヲ利アリトス。
 第二圖ハ二列ニ繋列セル完全ナル厩舎ノ一例ヲ示セシモノナリ。

第一圖

第六篇 宿營



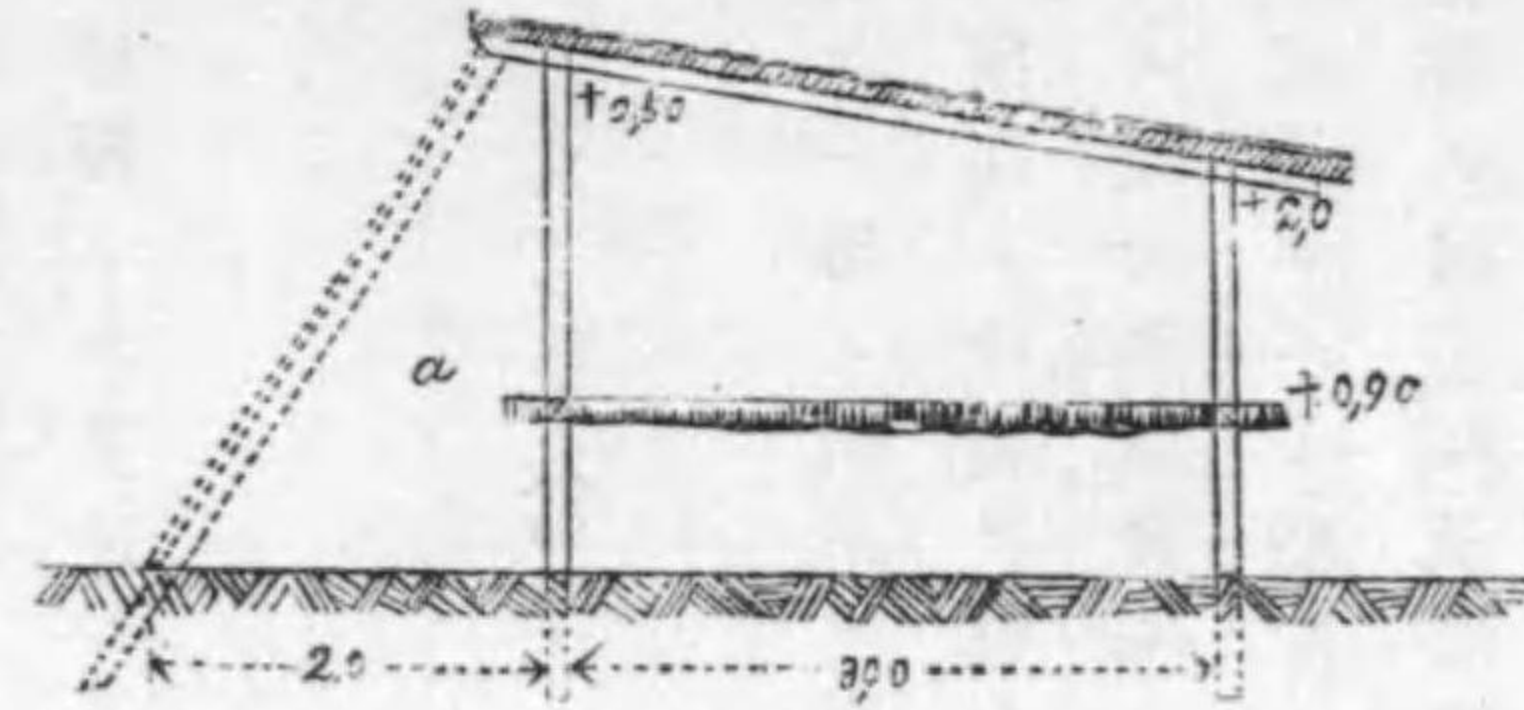
第二圖



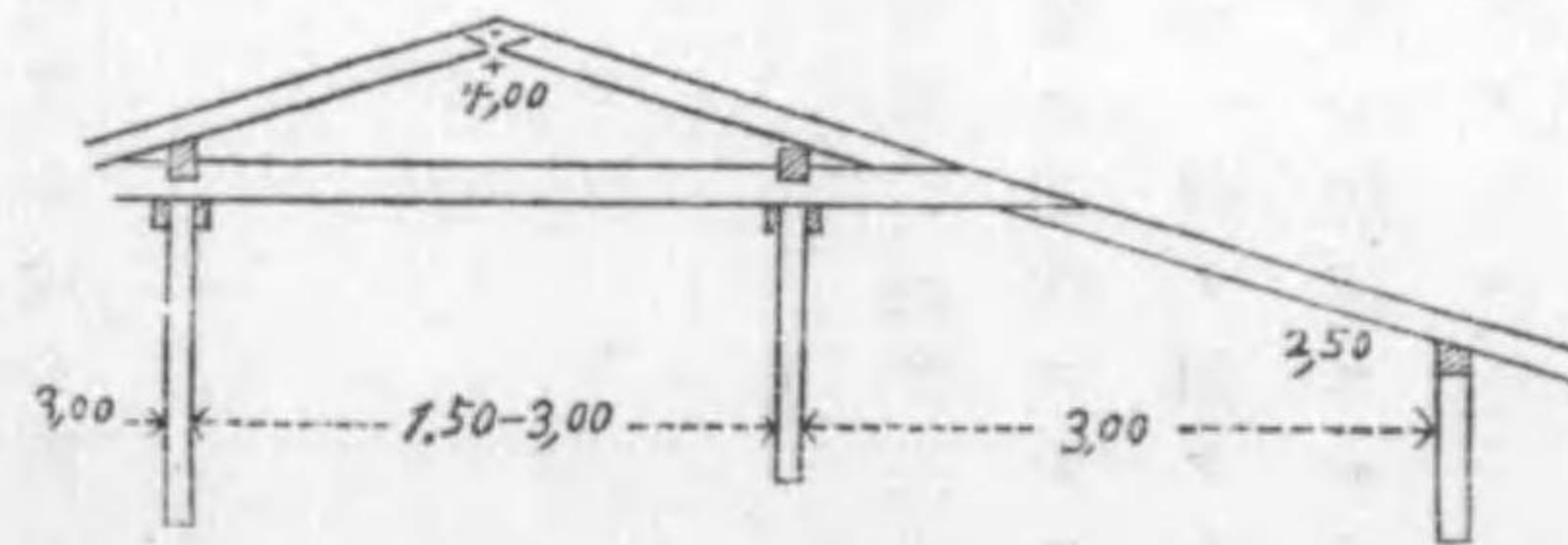
第一圖

寒地ニ在リテ防寒ノ用ニ供スル厩舎ハ第一圖及第二圖ニ示スカ如シ。

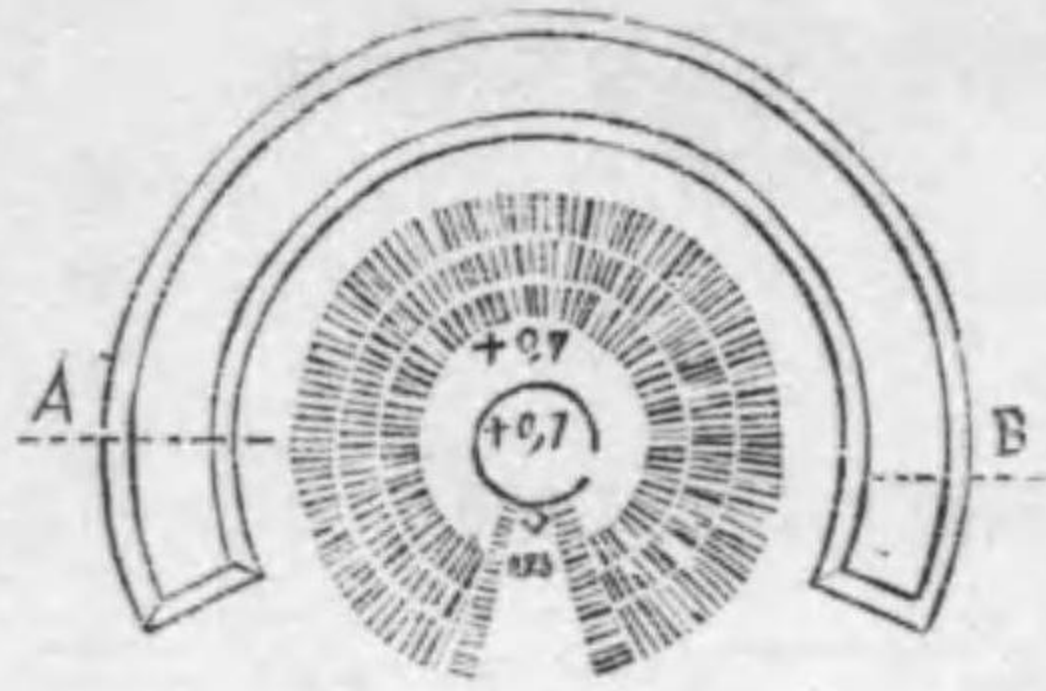
防寒用厩舎



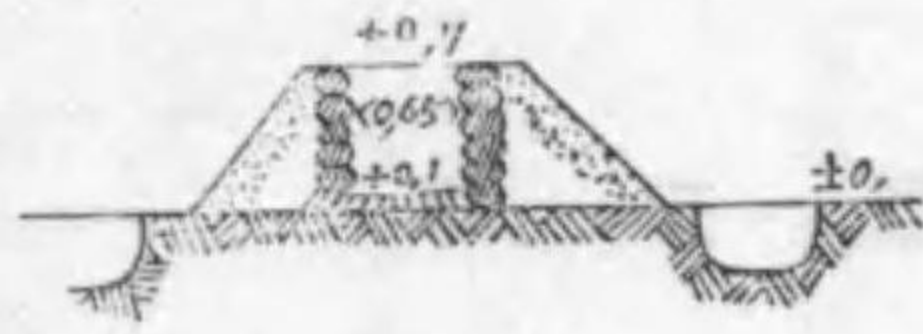
第二圖



第一圖



(第一圖ノAB面斷)



第二圖

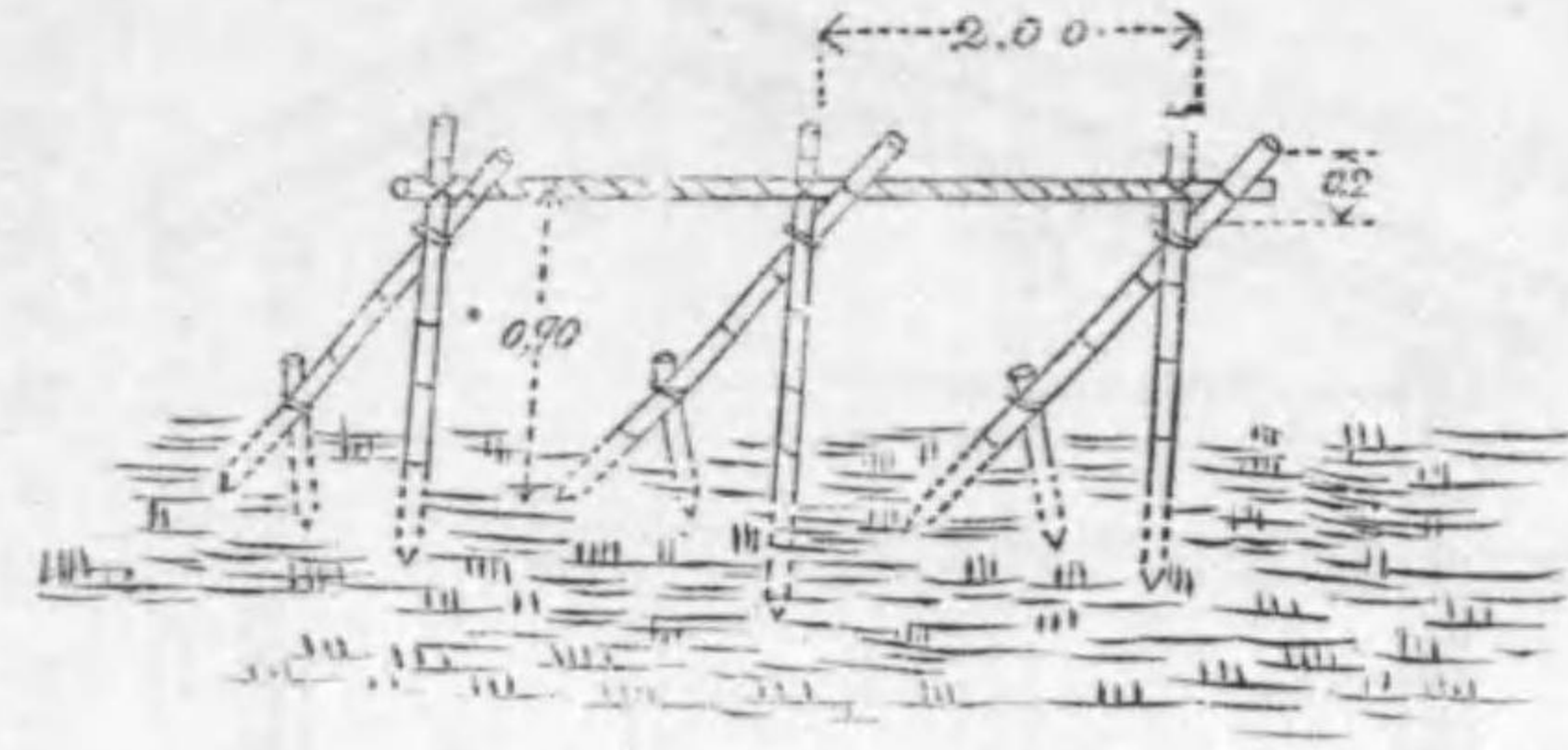


野外ニ於ケル炊事場ハ成ルヘク給水所ノ附近ニ設クルヲ要ス而シテ通常野竈及調理場ヨリ成ル。

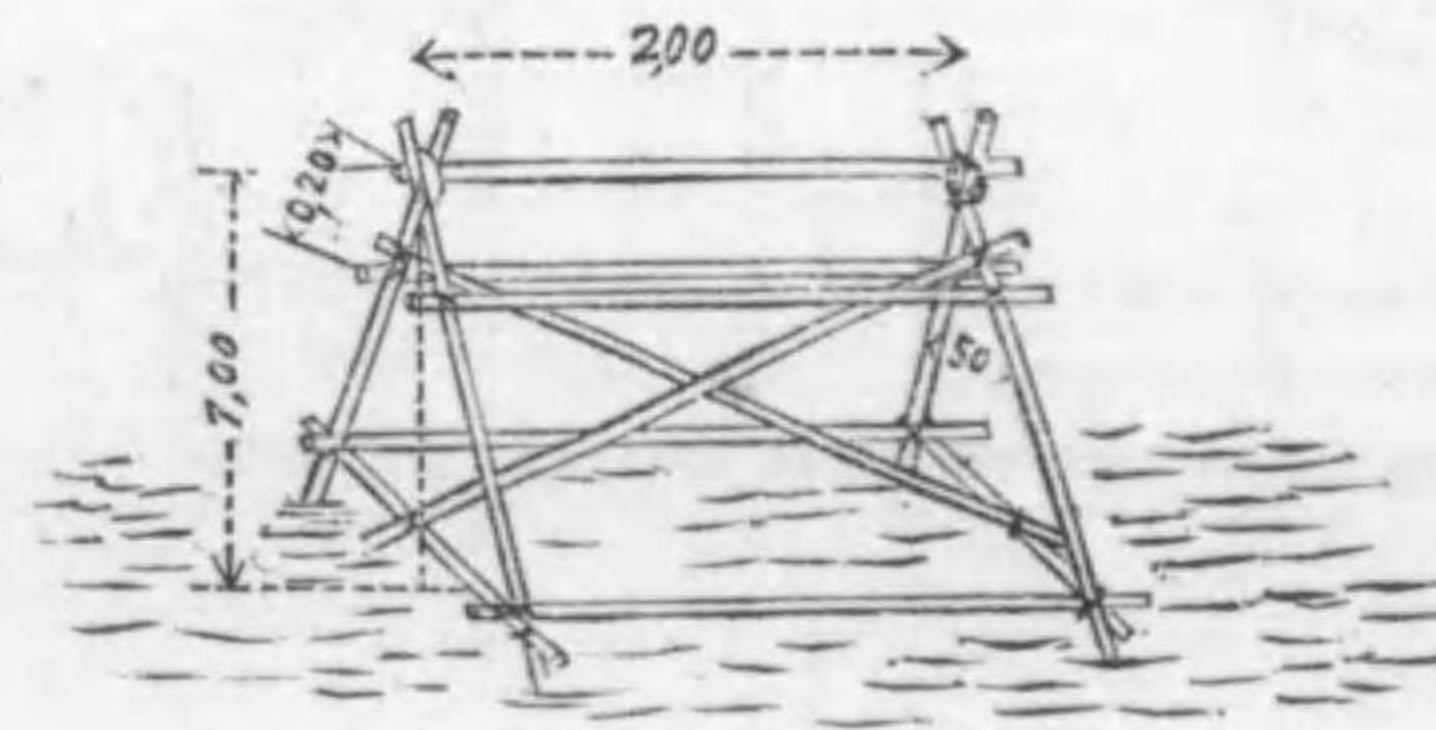
炊事場ノ設備

銃架ハ通常細キ木材或ハ竹ヲ用ヒ第一圖ノ如ク之ヲ構造ス。
鞍架ハ第二圖ニ示ス如ク構造ス。

第一圖

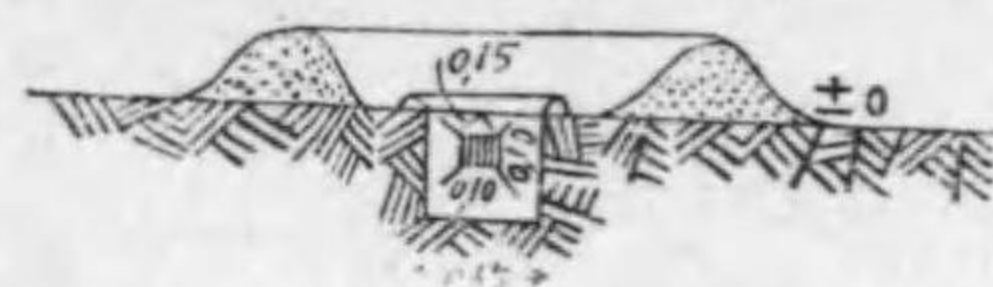


第二圖

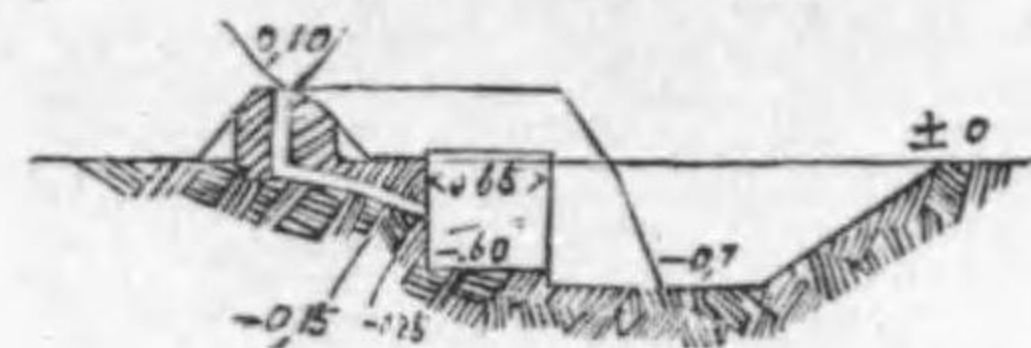


銃架及鞍架ノ構造法

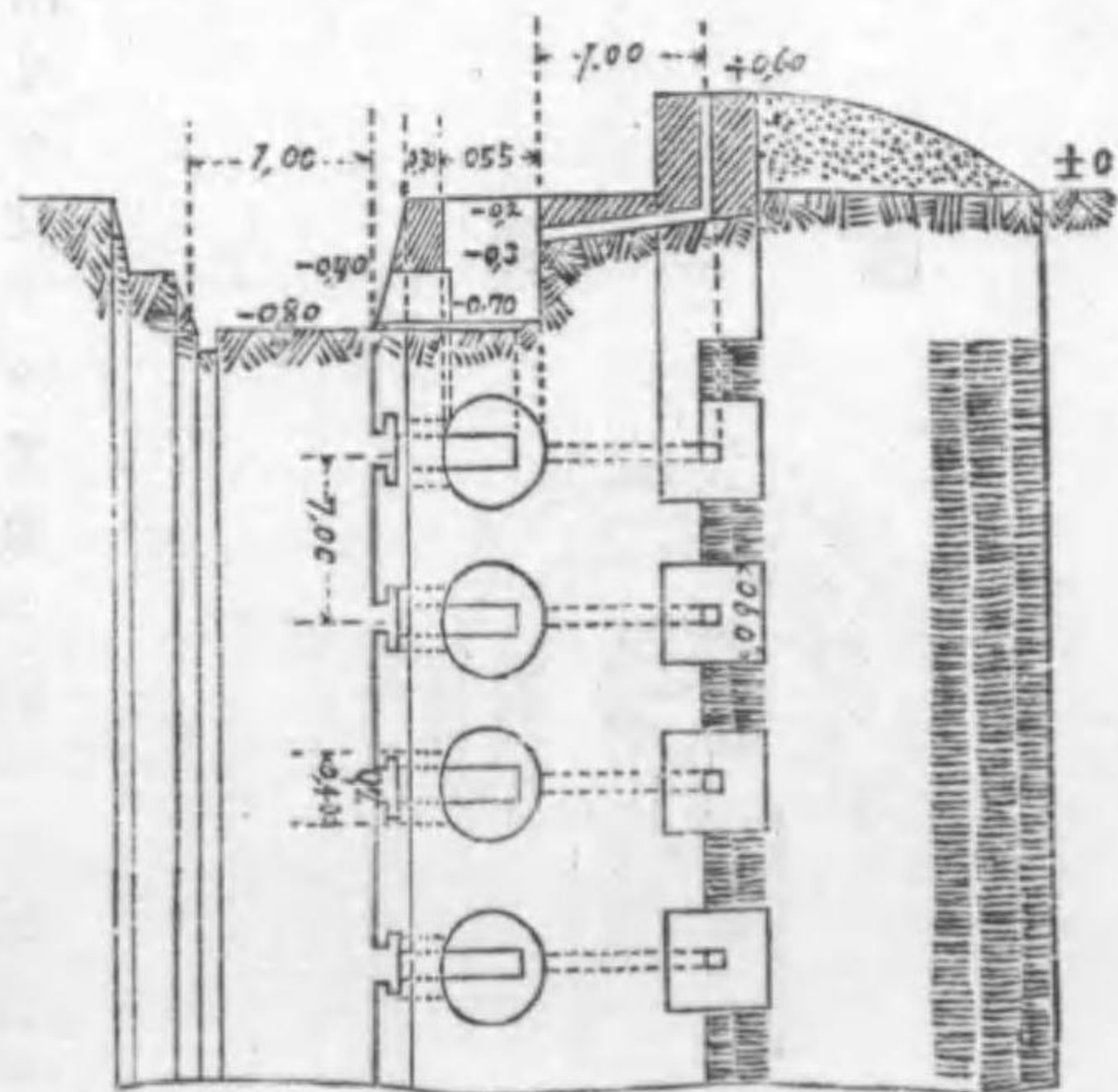
(面斷ノAB圖二第)



(面斷ノCD圖二第)



圖三第



長ク使用スル炊事場ニ在リテハ掩蓋ヲ設クルヲ可トス。

其一 野竈ノ構造

野竈ノ單簡ナルモノハ第一圖ノ如ク圓形ニ築キ立テ其内面ヲ粗石、土塊粘土等ヲ以テ被覆シ或ハ第二圖ノ如ク圓坑ヲ穿テ其縁ニ石、土塊等ヲ積ミ一側ニ火口ヲ設

ク若シ成シ得レハ所在ノ材料ヲ用ヒ煙突ヲ設クヘシ。

其二 稍々完全ナル野竈ノ構造

永ク駐留スル廠營ニ在リテ稍々完全ナル野竈ヲ要スルトキハ第三圖ノ如キモノヲ構築スルヲ良シトス、此ノ竈ハ粘土ヲ以テ粗石、煉瓦等ヲ接合累積シ或ハ單ニ粘土ト糾草トヲ混合シテ築積スルモノナリ。

調理場ノ設備

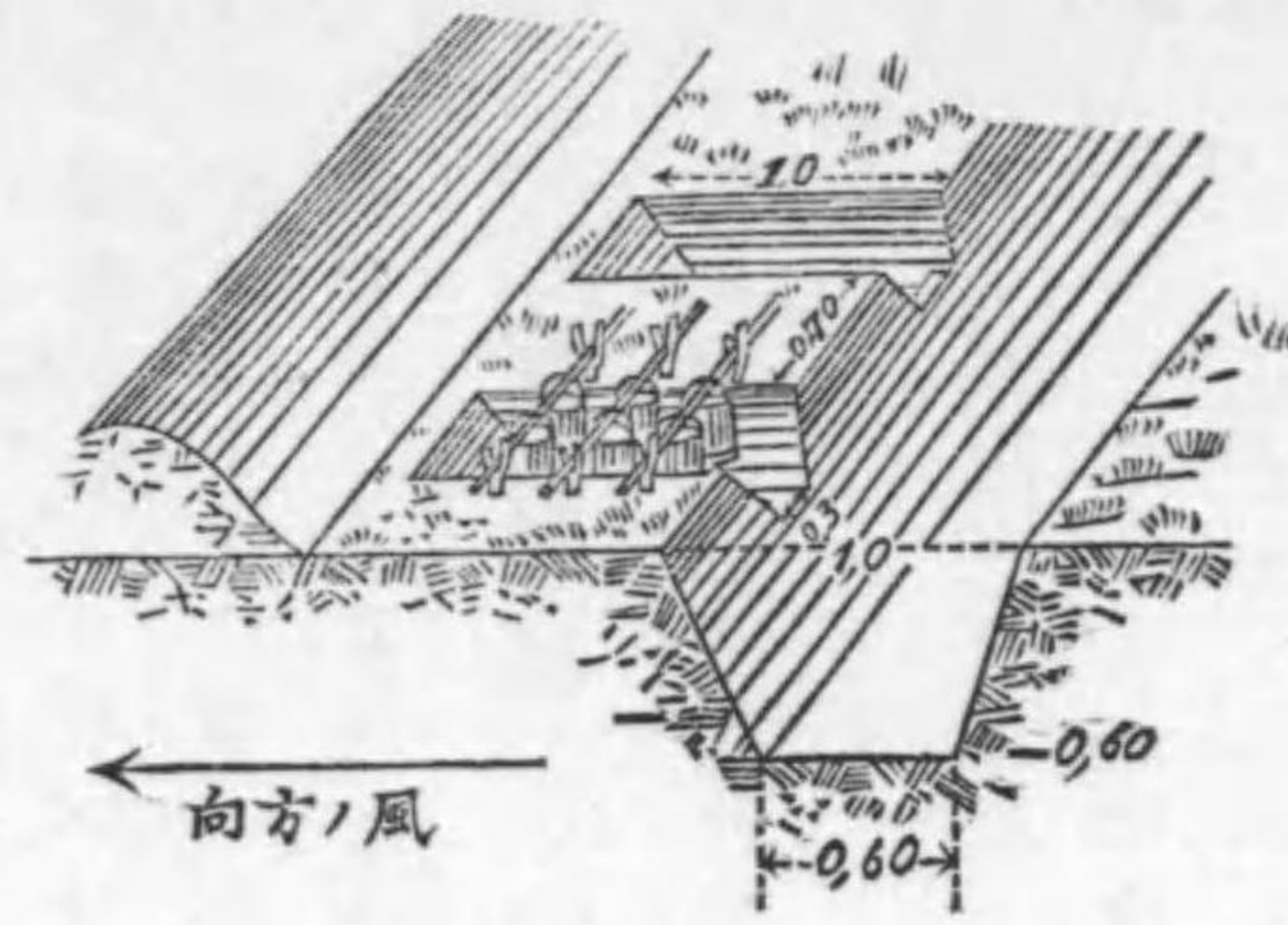
調理場ハ洗米、副食物、調理ノ用ニ供スル所トス、之カ爲メ緩傾斜地或ハ平地ノ若干部ヲ緩徐ニ斜削シテ排水ヲ便ニシ又所得材料ニ應シ板、藁、藎ノ類ヲ以テ其表面ヲ覆ヒ泥濘トナルヲ豫防スルヲ要ス。

調理場其他ニ於テ日々生スル廢物ハ必ス一定ノ場所ニ投棄シ炊事場ヲシテ汚穢ナラシメサルニ注意スヘシ之カ爲メ必要ニ應シ塵捨場ヲ設ク。

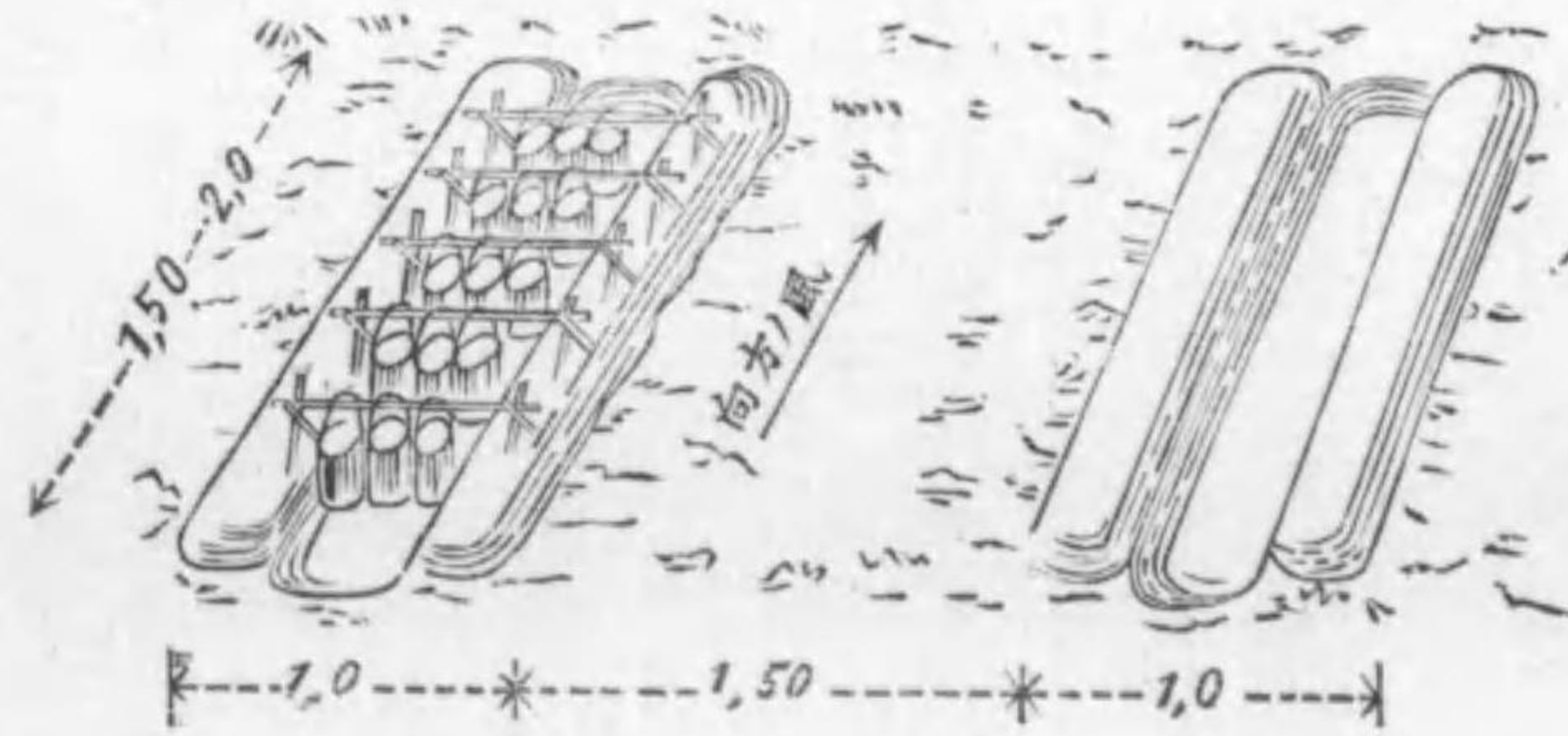
飯盒炊爨壕

原野ニ於テ飯盒ヲ用ヒ炊爨スルニハ第一圖ニ示ス如キ溝ヲ有スル炊爨壕ニ依ル

第一圖



第二圖



ヲ便トス而シテ此ノ壕ハ能ク熱度ヲ集ムルヲ以テ燃料ト時間トヲ要スルコト少
 ナシ若シ土質不良ナルカ或ハ強雨ノ爲メ此ノ如キ壕ヲ掘開スル能ハサル時ハ第
 二圖ノ如キ淺キ炊爨壕ヲ設クヘシ。

給水及使用量ノ標準

給水ノ十分且ツ便利ナルヘキ事ハ宿營地ノ撰定上主トシテ注意スヘキ要件ナリ
 トス故ニ所在ノ井、水流ノ利用ニ就テハ命令ヲ以テ規定シ道標其他ノ揭示ニ依リ
 テ其實行ヲ容易ナラシムヘシ。

廠營ニ在リテハ使用スヘキ井、其他ノ汲水場ニ就キ水量及水質ヲ檢定スルヲ要ス
 不良ニシテ使用ニ適セサルモノ若クハ其用途ヲ制限スヘキモノハ使用禁制或ハ
 飲用、炊事用、飲馬用、洗濯用等ノ揭示ヲナシ要スレハ之カ爲メ特ニ監視兵ヲ附スヘ
 シ飲用水ハ往々缺乏スル事アルヲ以テ多少遠隔セル水流ト雖モ其導水ノ方法ヲ
 講スヘシ。

飲用、炊事及盥嗽用ヲ合シテ一人一日ノ水量ハ約六升(約一二リットル)トス故ニ各

中隊毎ニ少ナクモ適量ノ井一個ヲ配當スルヲ良シトス。
 其一 現存スル流水淨水ノ利用

水流ヲ利用セシムルトキハ各種ノ目的ニ供スル用水區域ヲ嚴重ニ定ムヘシ、淨水ニ在リテハ殊ニ其區域ヲシテ遠ク隔離セシムルヲ要ス又流水ヲ使用スル時ハ務メテ村落及製造所ノ下流ヲ避ケ飲用ノ汲水場ハ飲馬場ノ上流ニ設ケ洗濯場、水浴場ハ之ヲ最下流ニ設クヘシ。

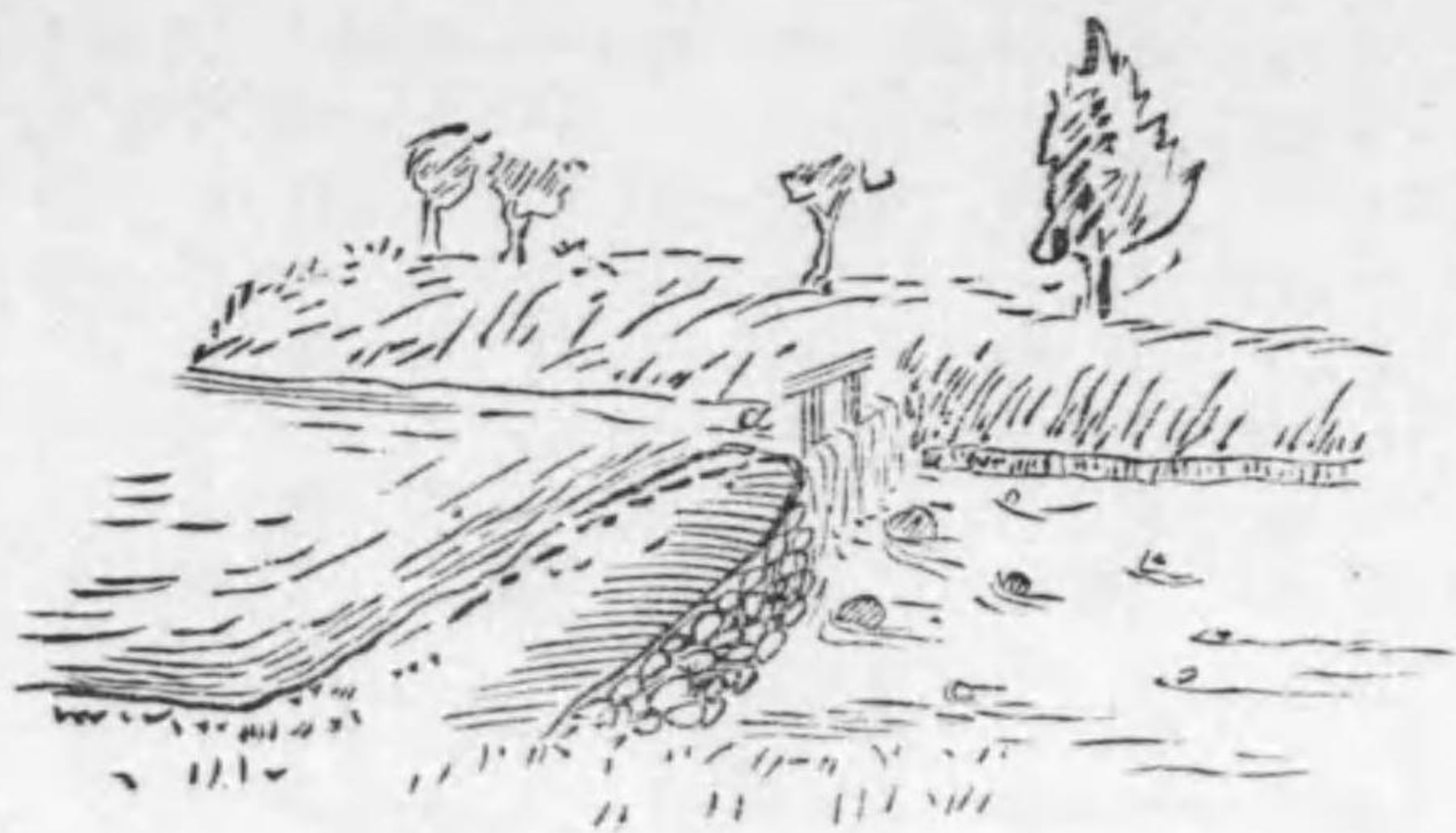
一 水溜ノ設置

狭キ水流ニ在リテハ小堤ヲ築キ水溜ヲ設クヘシ第一圖ニナル閘扉ハ過量ノ水ヲ流去セシムルニ便ス若シ其開閉ヲシテ自在ナラシムル時ハ水ノ汚濁セルトキ之ヲ開放シテ汚水ヲ流去セシムルヲ得ヘシ。

二 飲用ノ汲水場

飲用ノ汲水場ハ常ニ水ノ清淨ナル事ニ注意スヘシ之カ爲メ踏石、編束物等ヲ水中ニ置キ岸邊ハ石、樹枝或ハ板ヲ以テ被覆シ若クハ小橋ノ如キ汲水臺ヲ構造スヘシ。

第一圖



此ノ如キ處置ハ特ニ洗濯場ニ應用スルコトアリ。

三 飲馬場

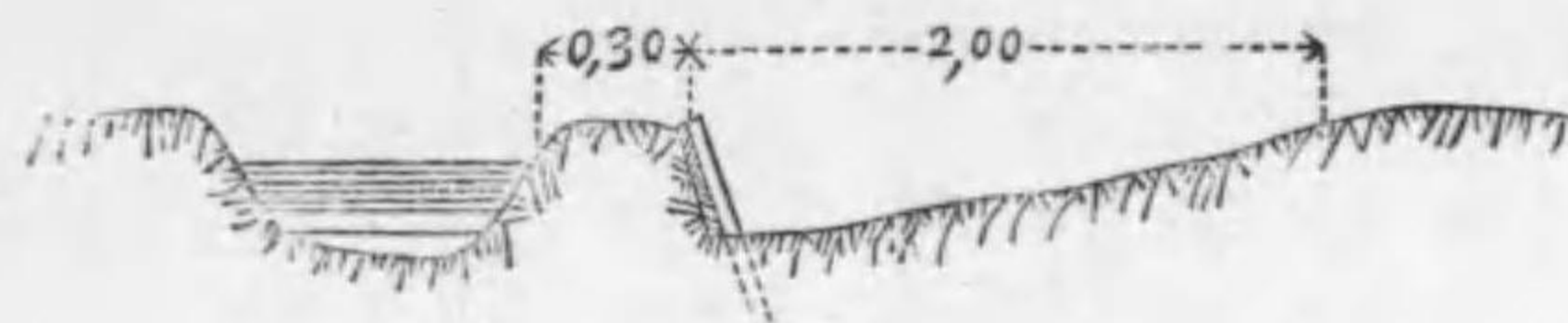
飲馬場ハ出入ノ道路良好ニシテ廣濶平坦ナルヘク又水底堅實ニシテ水深〇米五〇乃至一米〇〇ナルヲ要ス。

飲馬場ハ通常岸側ニ於テ少ナクモ幅一米〇〇ノ通路ヲ設クルヲ要ス之カ爲メ掘開シタル除土ハ水中ニ投スヘカラス。

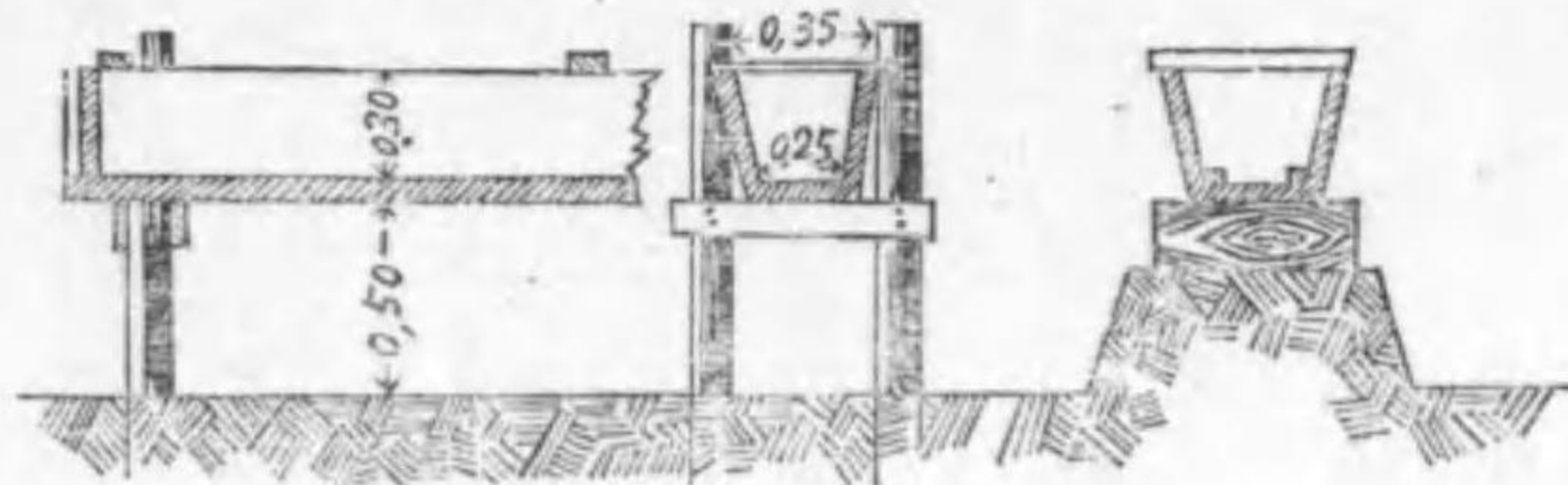
水流ノ状態ニ依リ礫石或ハ石片等ヲ投シ一時河底ヲ強固ナラシムルコトヲ得。

危険ナル位置(孔穴、急流)及飲用ノ汲水場ハ馬匹ノ近接ヲ豫防スル爲メ飲馬場ヨリ認識シ易キ限界ヲ設クヘシ。

第二圖



第三圖



馬蹄水面ヨリ高キ位置ニ在リテハ飲水困難ナルヲ以テ水ノ滲透セサル土地

ノ小流ニハ第二圖ノ如キ設備ヲナスベシ。

水流或ハ桶ニ依リテ馬匹ニ飲水セシメ難キトキ或ハ馬匹ヲ水中ニ入ルレハ汚濁スル憂アル時ハ水槽ヲ設ク水槽ハ厚板ヲ以テ第三圖ノ如ク構造ス。

水槽ノ側板ヲ維持スルカ爲メ所々ニ横材ヲ釘着シ短時間ノ漏水ヲ防クニハ各板ノ結合部殊ニ其繼目ニ粘土ヲ塗抹スレハ足ル然レトモ長時日保存セシムルニハ槓茹若クハ瀝青或ハ脂ヲ施シタル麻屑ヲ填實

四

シ或ハ布片、絲條等ヲ纏ヒタル棧ヲ釘着スルヲ可トス又水槽ノ漏水ヲ防ク爲メ常ニ水ヲ滿タシ置クヲ要ス。

水槽ニ依ル飲馬場
水槽ニ依ル飲馬場
水槽ニ依ル飲馬場ハ左ノ標準ニ依ル。馬匹一回ノ飲量ハ平均六升(約一リットル)トス但シ一日二回給水スルモノトス。

水槽ハ容積ノ四分ノ三ヲ有效量ト算スヘシ。長サ一米〇〇毎ニ馬匹二頭(兩側ニ一頭宛)ヲ配當シ得。馬匹一群ノ飲水時間ハ約五分時トス但シ水槽ヲ直ニ地上ニ置クトキハ飲水ノ爲メニ尙ホ多クノ時間ヲ要スルモノトス。

此ノ標準ニ基キ第三圖ノ如ク水槽ノ長サヲ二十五米〇〇トスレハ一回ノ滿水ニテ馬匹百五十頭ニ十五分時間ニテ飲水シ終ルモノトス。

其二 井ノ急造

現在セル井或ハ水流ニ依リテ所要ノ水量ヲ供給スル能ハサル時ハ臨時ニ井ヲ急

造スル事アリ之カ爲メ水層ノ過深ナラサル位置ヲ撰フヘシ。
 一 水層ノ探知法。

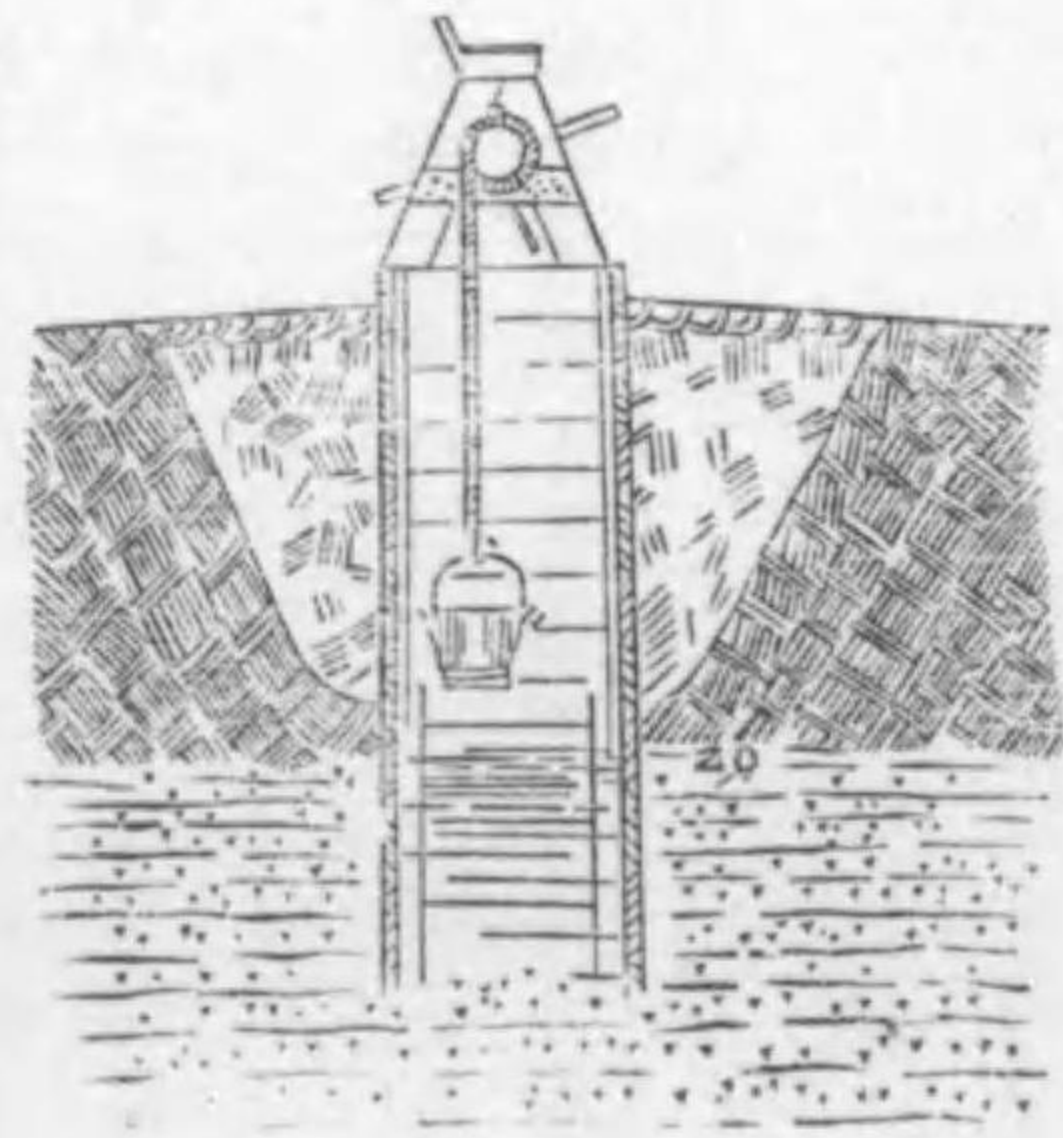
地面下水層ノ遠近ヲ知ランニハ豫定セル土地ニ於テ先ツ深サ約一米五〇ノ坑ヲ穿チ素焼ノ陶器或ハ内部ニ油ヲ塗リタル銅器類ヲ日出前坑底ニ伏セ其上ニ土ヲ蔽ヒ翌日ニ至リ其内面ニ濕氣ノ有無ヲ檢スヘシ若シ僅少ノ深サニ水層アル時ハ器ノ内面ニ水滴若クハ濕氣ヲ帶フルモノナリ。
 又一握ノ炭酸ポッタシウムヲ紙上ニ載セ日没前ヨリ坑底ニ置キ其坑ヲ藎又ハ板ヲ以テ叮嚀ニ塞キ翌日ニ至リ濕氣ノ有無ヲ檢シ之ヲ知り得ヘシ。
 水層ノ地面下ニ於ケル深サヲ尙ホ確實ニ知ランニハ現存セル井戸若クハ土民ニ依ルヘシ其他土地ノ状態或ハ肥瘠モ亦水層ノ深サヲ察知スルニ足ルモノナリ。
 平坦地及砂地ハ一般ニ水層平準ナルモノトス又卑低ナル位置ニ在ル牧草地及沼澤ハ必ス飲用水ヲ得ヘカラサルモノトス。
 粘土質ニ富メル高地ハ地面下若干米ニシテ良水ヲ有スル砂礫層ニ會スルコ

トアリ。
 山地ニ在リテハ除土地及谷底ニ於テ良好ナル水層ヲ發見スル事ヲ得ヘシ。
 二 井ノ急造法。

第一圖

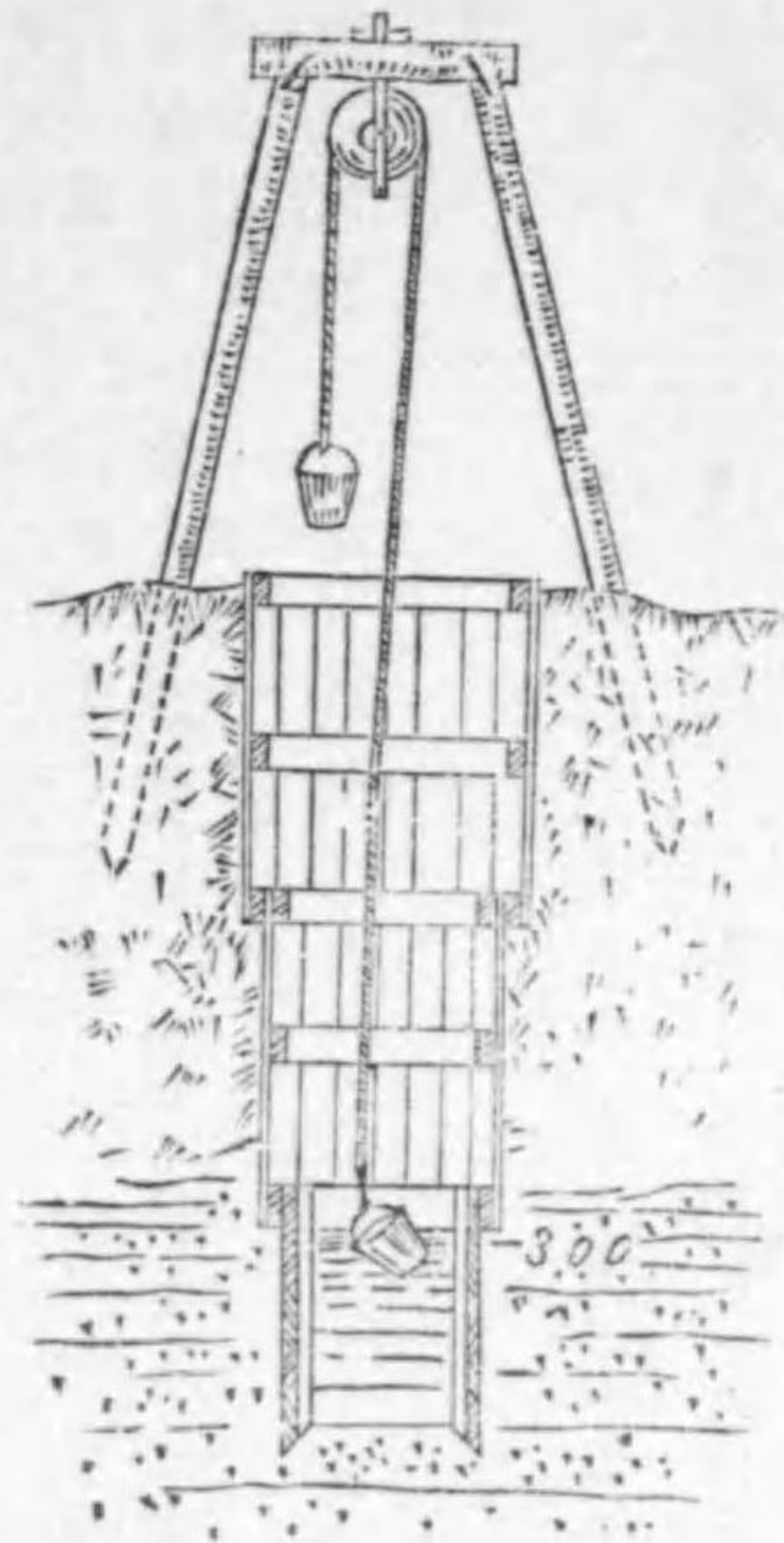


第二圖



井ヲ急造スルニハ土地ニ依リ垂坑路ヲ設ケテ水層ニ達セシメ其底ニ井戸側
 (下方ヲ狹窄セル桶箱或ハ堡籃等ヲ應用ス)ヲ裝置ス之ヲ裝スルニハ浚渫シツ
 、之ヲ上方ヨリ壓下シ或ハ打入スルモノトス。
 細砂地ニ在リテハ此ノ井戸側内ニ粗礫ヲ〇米二〇填實スヘシ。
 井戸側ハ水層ノ淺深及土質ニ應シ第一圖乃至第三圖ニ示ス如ク構造ス。
 第一圖ノ如ク井ヲ漏斗狀ニ掘開シ井戸側ヲ裝スル事ナク使用スルハ砂地ニ
 シテ且ツ排水不良ナルモ水ノ無害ナル場合ニ限ル。

第三圖



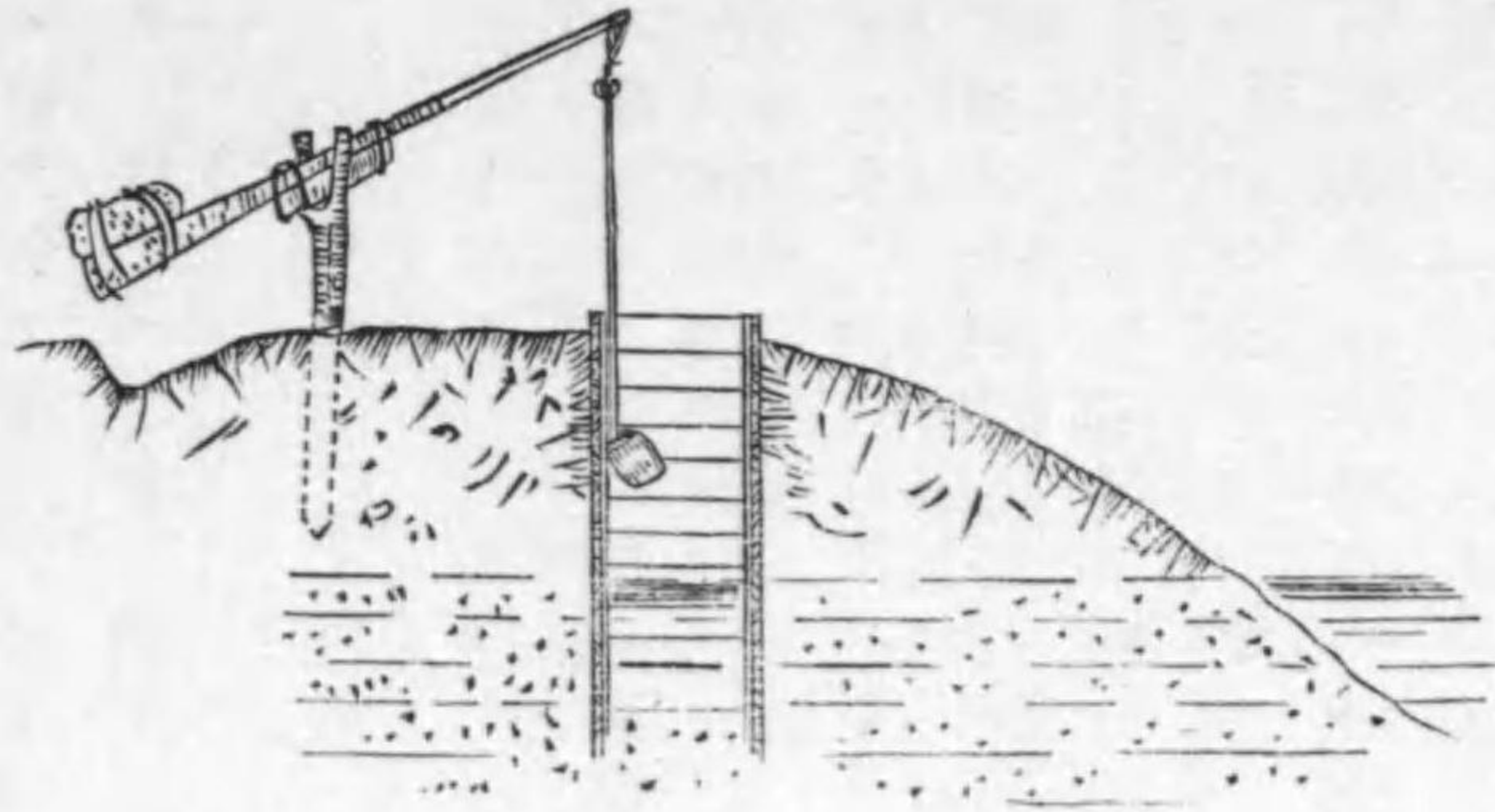
其他ノ場合ニ於テハ第
 二圖ノ如ク井戸側ヲ地
 面ノ上方マテ延伸シ周
 縁ノ排水ニ便ナラシム。
 第三圖ハ逐次狹小ナル
 厚板製木箱長サ二米〇
 〇以下ヲ用ヒタルモノ

ニシテ水深至大ナラサル時ニ之ヲ應用ス。
 寒地ニ於テ井ノ附近ニ排水凍結スル時ハ汲水困難ニシテ失脚ノ虞レアリ之
 ヲ避クル爲メニハ井戸側上ニ井桁ヲ裝シ成シ得レハ掩蓋及障蔽ヲ設ク。

悪水ヲ清良ナラシムル方法

悪水ヲシテ清良ナラシムル爲メニハ其根原ヲ除クニアリ例ヘハ泥濘ナル井底ヲ
 浚渫シ或ハ腐朽セル井戸側ヲ交換スル等是レナリ。
 其一 物理的淨水法(濾過法)。
 其他汚濁セル水ノ附近ニ井ヲ穿テ容易ニ清澄ナラシムルヲ得ルコトアリ、降雨ノ
 爲メ一時不淨ナル河川ニシテ河床砂質ナル時ハ次圖ノ如ク河岸ニ沿ヒ井ヲ設ケ
 河水ノ井ニ注入スル途中ニ於テ之ヲ濾過セシム。
 野外ニ於テ人工ニ依リ水ノ性質ヲ改良スルハ甚タ繁雜ナレハ單簡ナル淨水法ヲ
 以テ足レリトセサルヘカラス其最モ單簡ナル方法ハ「フランネル」毛布、麻布、鐵網等
 ヲ以テ濾過スルニアリ又最モ有效ナルモノハ細砂、木炭末殊ニ骨炭ニ依リテ濾過

第一圖



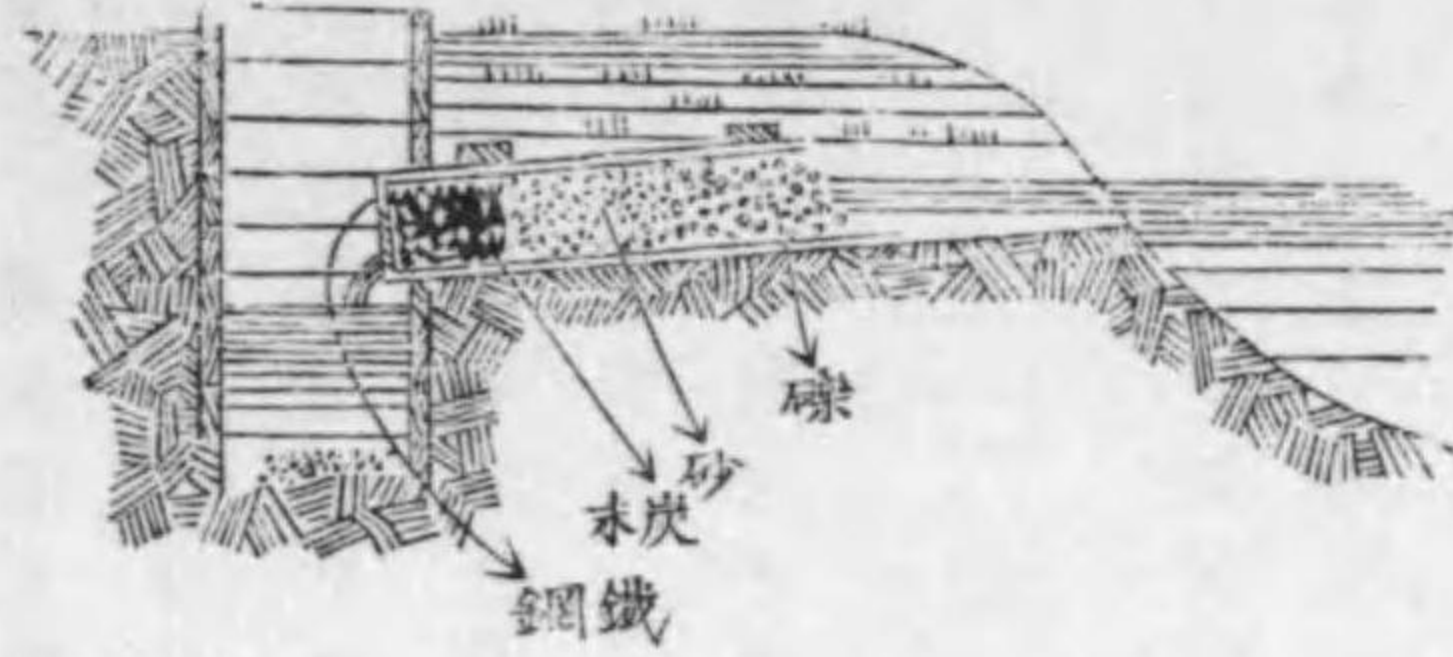
スルモノトス、砂ハ唯々水中ニ有スル固
形物ヲ除クノミナリト雖モ炭ハ瓦斯ヲ
吸收シテ有機物ト惡臭トヲ消滅スルノ
效アリ。

水中ニ在ル病原菌ヲ排除スル事ハ容易
ニ望ムヘカラス故ニ斯ノ如キ淨水法ニ
依リテ得タル水ト雖モ沸煮スルニ非サ
レハ之ヲ飲用スヘカラス。

其二 化學的淨水法。

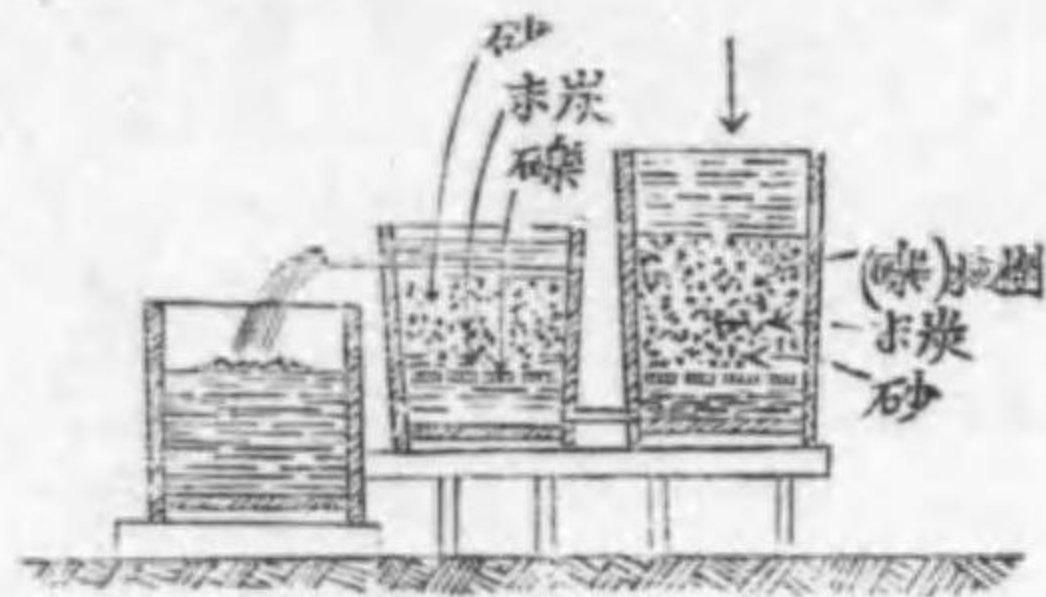
藥劑ヲ用ユル化學的淨水法ハ種々アリ
ト雖モ其最モ單簡ナルモノハ五合五勺
(二リットル)ノ水ニ約一匁餘四瓦ノ割合
ヲ以テ明礬ヲ加ヘ八分乃至十七分間強
ク攪拌スル時ハ不溶解物ハ沈降シ數時間ノ後、全ク清澄スヘシ若シ過剩ノ明礬ア

第一圖

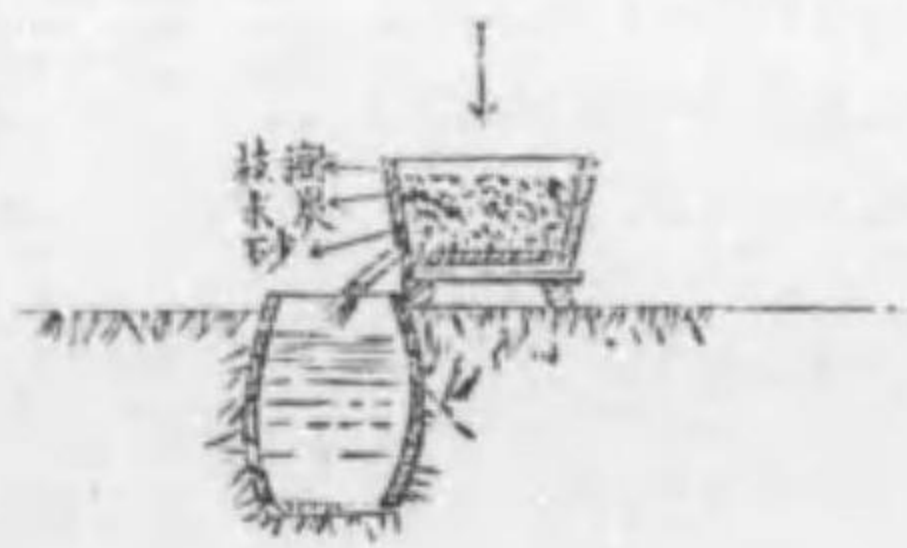


第六篇 宿 營

第二圖



第三圖



リテ水ニ嗅味アルトキハ重炭酸曹達ヲ加ヘ明礬ヲ沈澱セシムヘシ。
其三 淨水裝置。
淨水裝置ヲ設クルニハ桶内ニ厚サ〇米二五乃至一米〇〇ノ淨水層砂若クハ炭或

ハ此兩者ヲ敷キ水ノ出入孔ハ保護層ヲ以テ閉塞ス而シテ此ノ保護層ニハ粗砂、礫石、交叉セル蓆、編條、穿孔板、鐵網等ヲ應用スヘシ。

第一圖ハ汚濁セル水ノ淨水裝置ニシテ第二圖ハ二重裝置ノ淨水法ヲ示シ第三圖ハ水ノ滲透シ難キ土質ニ於ケル池水ノ淨水裝置ノ一例ヲ示シモノナリ。

此ノ如キ淨水裝置ハ通常若干時間ノ後、清水ヲ得ヘシト雖モ長ク使用シタル後、濾水汚濁スルニ至レハ其填實物ヲ交換セサルヘカラス。

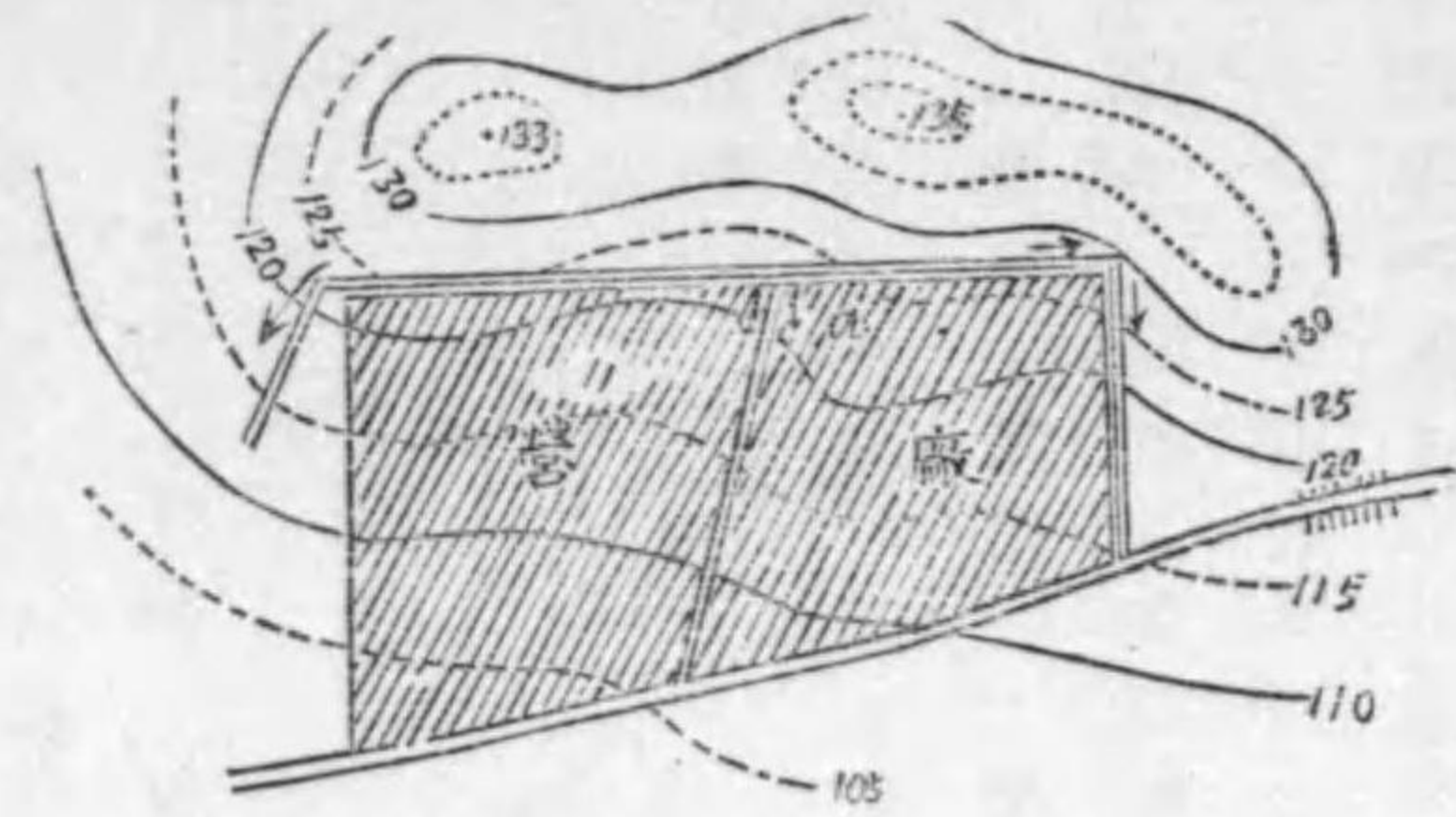
排水法

附近ノ高地ヨリ廠營地ニ浸水スルトキハ外部ノ排水ヲ必要トス之カ爲メ其周圍ニ排水溝ヲ造リ其除土ヲ廠營地側ニ投シテ土堤ト爲シ爾後雨天等ニ際シ要スレハ之ヲ掘擴ス。

第一圖ハ其一例ヲ示セシモノナリ若シ如ク廠營地間ヲ通シテ排水スルノ必要アルトキハ特ニ内部ノ排水ヲ顧慮スヘシ。

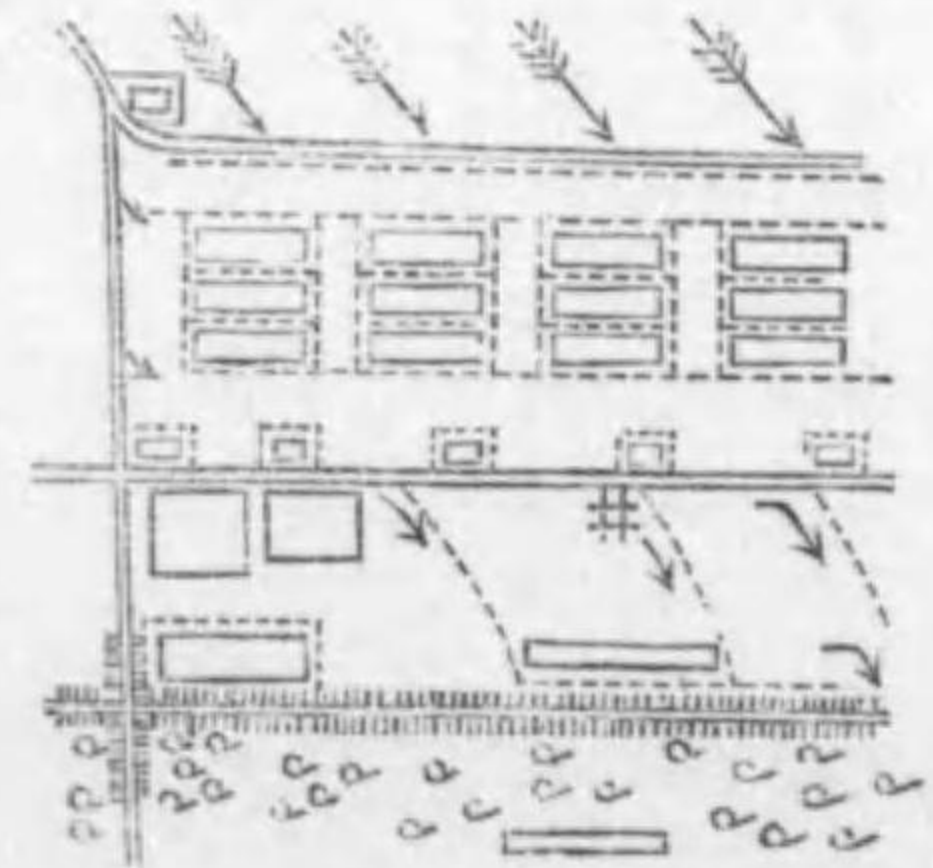
廠營地ノ内部ノ排水ノ爲メニハ建築物ノ周圍ニ小ナル排水溝ヲ設ケ且ツ集合場

第一圖



第二圖

(向方ノ斜傾然自)



其他交通路ハ務メテ乾燥セシムル爲メ是ニ沿フテ淺溝ヲ穿ツヘシ第二圖ハ廠營地ニ施セル排水裝置ノ一例ヲ示セシモノナリ。

排水溝ニシテ道路ト交叉スルトキハ綠石或ハ綠木ヲ有スル露天溝トナシ或ハ暗

渠、木樋、土管等ヲ以テス、時間及材料十分ナル時ハ軟地ノ路面ニハ凸形ヲ附シ且ツ砂礫、割栗石、樹枝、木片等ヲ敷キ泥濘トナルヲ防クヘシ。
窪地或ハ道路ノ下水溝等ニシテ第一圖ノ如ク排水スルコト能ハサルトキハ粗石ヲ以テ溝内ニ水拔井(土地ノ吸水性ニ應シ其數ヲ増減ス)ヲ開設スヘシ若シ崩潰シ易キ土地ニシテ泥土ノ沈澱ニ依リ水拔井ノ吸水ヲ妨クルニ至レハ更ニ其側方ニ之ヲ新設スルヲ要ス。

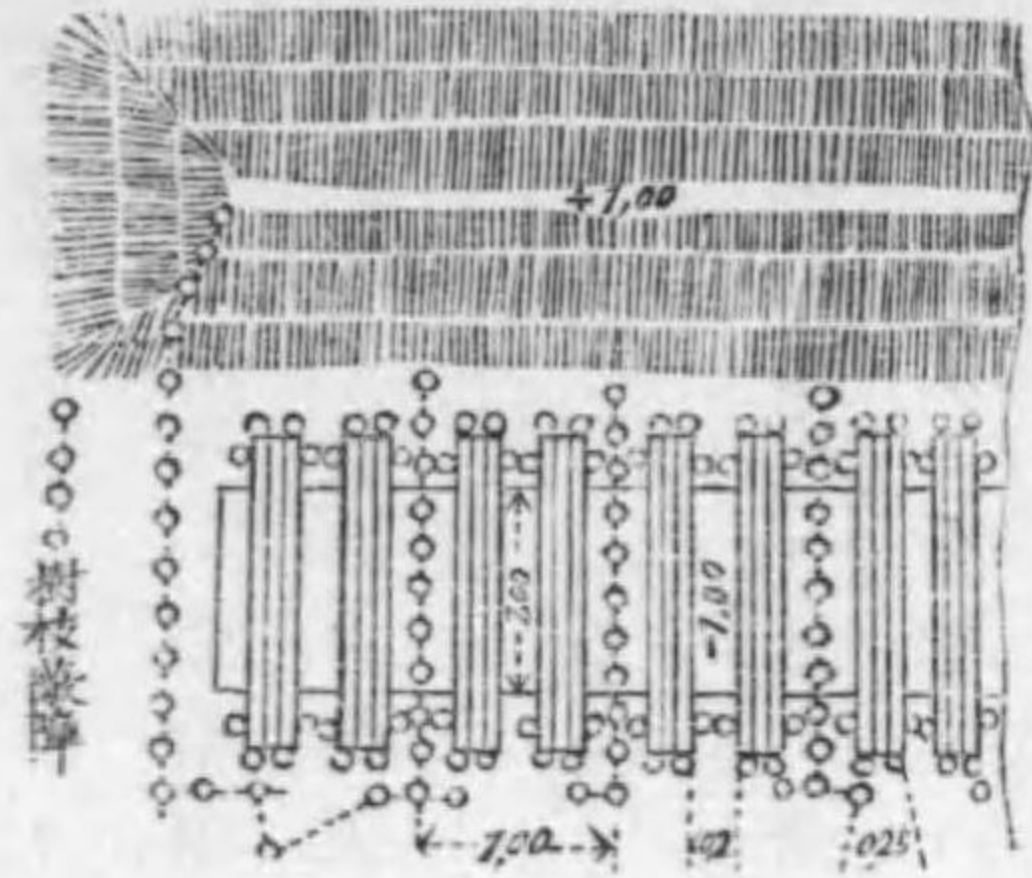
廁ノ構造

其一 短時間用廁

短時間ノ用ニ供スル廁ハ深サ約〇米五〇、幅〇米三〇ノ塹溝トシ其長サハ三十人乃至四十人ニ就キ一米〇〇ノ比トナスヲ以テ足レリトス、廁ハ炎暑ノ候ハ毎日、其他ノ氣候ニ於テハ隔日ニ灰、炭粉若クハ厚サ約〇米一〇ノ土砂ヲ以テ掩フヘシ又成シ得レハ「クロール」石灰ヲ以テ消毒スヘシ。
露天ノ廁ニ目隠ヲ施スニハ最モ單簡ナル障蔽ヲ以テ足レリトス。

其二 長時間用廁

長時間ノ用ニ供スル廁ハ上幅一米〇〇、深サ一米〇〇以上ノ塹溝トナシ其長サハ概ネ歩兵一大隊ニ四十米〇〇ノ比トス而シテ之ヲ若干區ニ等分シ圍牆、障蔽及單簡ナル扉ヲ設ケ且ツ踏板ヲ備フルモノトス但シ踏板ノ間隔ハ〇米二〇トシ板、木材、又ハ束柴等ヲ應用スヘシ。



廁ハ通常露天ニシテ圍牆ノ高サヲ地上一米〇〇トス然レトモ時間ト材料トヲ得ルトキハ之ヲ一米八〇トシ單簡ナル屋根ヲ設クルヲ可トス、廁ノ使用長キニ亘リ掩覆土ノ爲メ埋没シタルトキハ更ニ之ヲ他所ニ掘設スルヲ要ス。

第四章 村落露營

情況ト村落露營

村落露營ヲナス場合ニ就テ既ニ述ヘタル如ク村落露營ハ其一部露營ヲナスヲ以テ非常ノ場合ニハ先ツ此ノ部隊ヲ敵ニ當ラシメ此ノ間ニ舍營部隊ノ戦闘準備ヲ完結セシムルモノナルガ故ニ敵軍ニ接近セルカ爲メ警戒ヲ嚴ナラシムルヲ要シ又ハ全隊ノ舍營ヲ許サ、ル場合ニ於テ村落露營ヲ行フ。

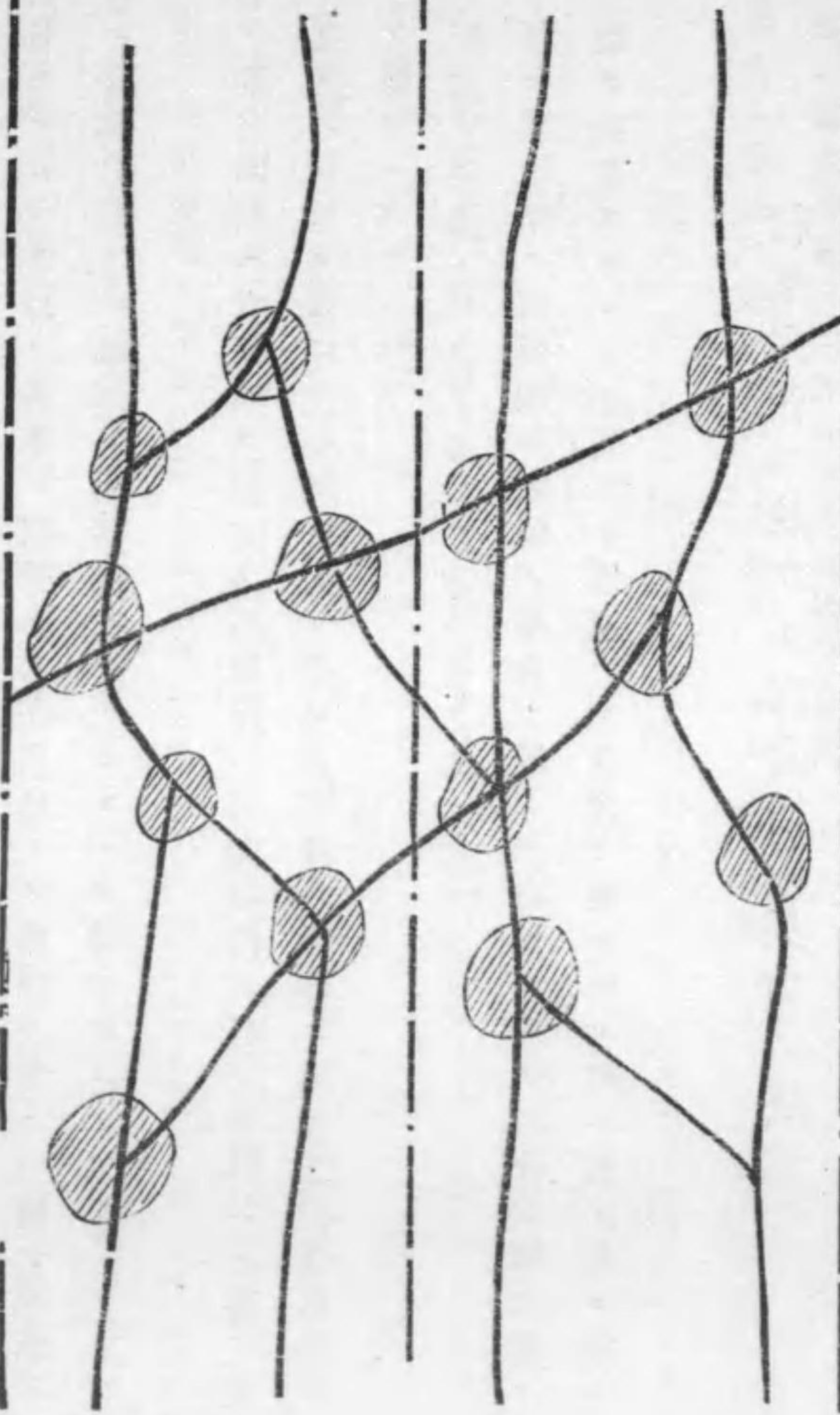
此ノ場合ニ於テハ假令其宿營スヘキ住民地廣大若クハ多數ニシテ舍營セント欲セハ優ニ之ヲ許スモ情況上茲ニ舍營スルヲ不利トスルモノナリ。

兵力ト村落露營

大兵團敵ノ近傍ニ於テ全部舍營シ得ルカ如キ場合ハ極メテ少ナシ蓋シ軍ノ全部ヲ擧ケテ分散シ舍營セシメンカ其區域極メテ廣大トナリ各部隊ハ集合或ハ就宿ノ爲メニ時間ヲ要スルニ至リ其前進行程ハ著シク縮少セサルヲ得サルニ至ル從テ某程度以上行軍路ヨリ離隔スルヲ許サ、ルニ至ル、斯ノ如クシテ勢ヒ狹縮ナル地域ニ宿營スルニ至リ其兵力ト住民地トノ關係ハ全部ノ舍營ヲ許サ、ルニ至ルヘシ。

況ンヤ敵ト著シク接近シ一層其兵力ヲ狹小ナル地域ニ集ムルヲ必要トスル場合

第一師團 第二師團



ニ於テオヤ。

大兵團ニ於テハ高等司令部ヨリ各團隊ニ宿營地ヲ指定シ團隊ハ其區域内ニ於テ各隊ヲ宿營セシムルヲ以テ各隊ノ宿營ハ其住民地トノ關係上常ニ一樣ナル能ハス、一部隊ハ全部合營シ一部隊ハ村落露營ヲナサ、ルヲ得サルコトアリ。

例ヘハ。

前圖ノ如ク軍ハ師團ニ宿營地ヲ指定ス各師團ハ其區域内ニ於テ各隊ニ村落ヲ配當ス、從テ某隊ハ村落ノ關係上全部合營シ得ルモ某隊ハ村落ノ關係上、村落露營ヲ爲サ、ルヲ得サル事アルヘシ。

斯ノ如キ配當ヲ迅速ニ行フノ必要アルニ於テ殊ニ然リトス。

大兵團ト雖モ集中間ノ宿營或ハ駐留ノ場合ニ於ケル宿營ニ於テハ全兵團合營ヲ成シ得ル如ク計畫スルコト必要ナリ、迅速ナル設營ヲ要セサル時ニ於テ殊ニ然リトス。

村落露營ニ於ケル露營、宿營兵力ノ決定

及配宿法

村落露營ノ兵力ヲ決定スルニハ左ノ二方法アリ。

- 一 必要ノ露營部隊ヲ控除シタル殘餘ヲ舍營セシム。
- 二 舍營力ニ應スル建制部隊ヲ舍營セシメ殘餘ヲ露營セシム。

露營スヘキ部隊ヲ控除シタルモノヲ舍營

セシムル方法

此ノ配宿法ハ戰術上戰備ノ度ノ許ス範圍ニ於テ成ル可ク大兵力ヲ舍營セシメンカ爲メヨリ露營ヲ要スル部隊ノ外ハ舍營セシメントスルニアリ而シテ此ノ際ニ於ケル露營部隊ハ時ノ情況之ヲ決定スルヲ以テ自ラ標準ヲ得ヘシ、休養ヲ主トスル場合ニ於テハ宿舍ノ許ス丈ケ多ク合營セシムルヲ可トスルモ戰備上ノ要求ハ常ニ斯ノ如ク舍營過剩ノ部隊ヲ以テ露營セシムルハ足ルカ如キ事ナカルヘシ從テ先ツ恰適スル兵力ヲ露營セシメ殘餘ヲ舍營セシムルモノトス、此ノ際殘餘部隊ノ舍營スルニ適スル宿舍ナキ場合ニ於テハ止ムヲ得ス必要以上ノ兵力ヲ露營セシメサルヲ得サルナリ。

舍營兵力
露營兵力(情況之ヲ要求スルニ依リテ決ス)
全一 力

舍營スヘキ部隊ヲ控除シタル殘餘ヲ露

營セシムル方法

此ノ場合ハ休養本位ニシテ成ル可ク多クヲ舍營セシメテ給養セントスルモ宿舍不足ニシテ全部ヲ舍營セシムル能ハス故ニ過剩部隊ヲ露營セシム從テ舍營部隊ヲ大ナラシメ露營部隊ヲ少ナラシメントスルノ要求ヲ生スヘキモ宿舍ノ收容力自ラ決定スルヲ以テ其露營兵力モ亦自ラ決スルニ至ルヘシ。

露營兵力
舍營兵力(宿舍ノ收容力ニ依リテ決ス)
全一 力

此ノ際戰備上ヲ顧慮スレハ宿舍ハ假令大ナル收容力ヲ有スルモ舍營部隊ハ某程度ノ兵力ニ止メ必要ノ兵力ヲ露營セシメサル可ラサルヘシ。

村落露營ノ配當法

村落露營ノ配當法ニ左ノ二方法アリ。

- 一 建制部隊ヲ舍營セシメ他ヲ露營セシム。
 - 二 部落ヲ平等ニ各隊ニ配當ス。
- 第一ノ方法ハ某部隊ヲ建制ヲ以テ舍營セシメ其他ノ部隊ヲ露營セシムルニアリ即チ。

建制ノ部隊露營ス。

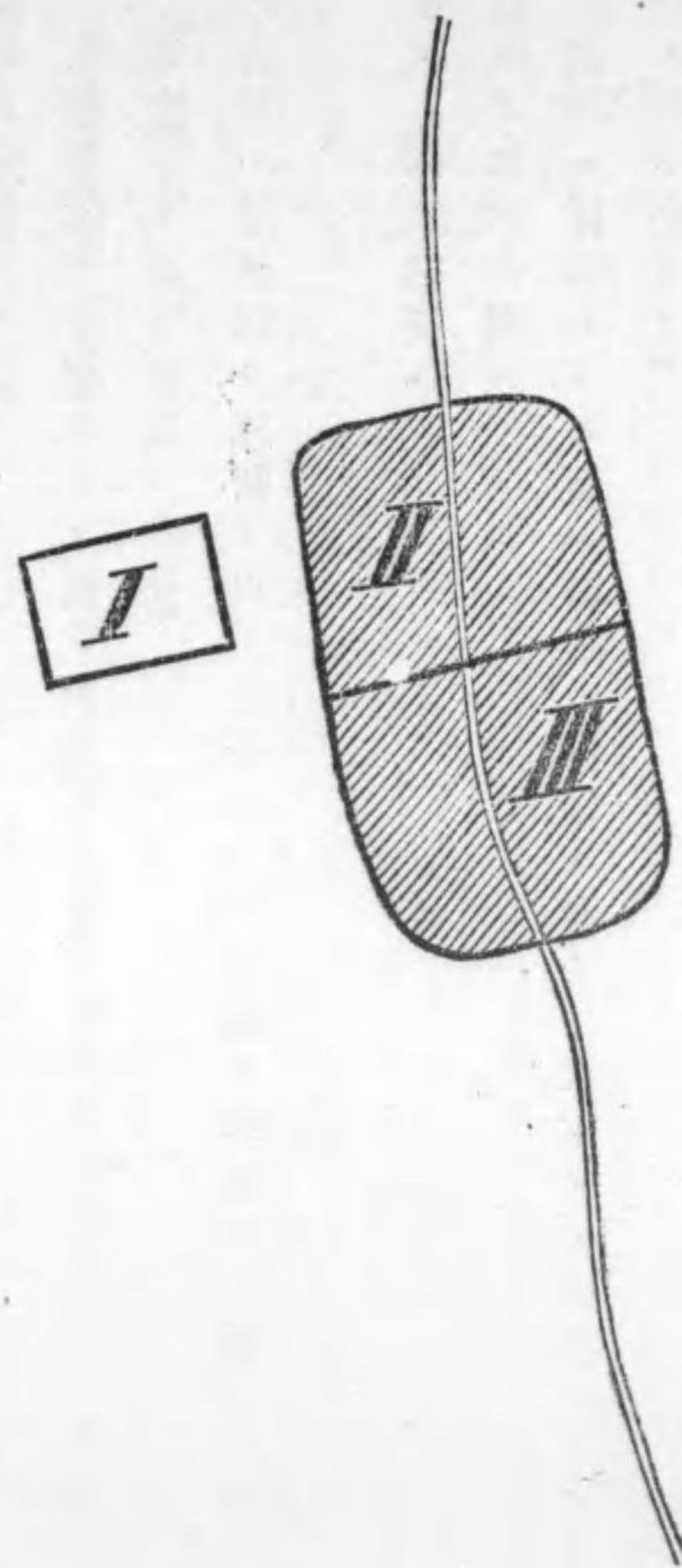
建制ノ部隊舍營ス。

例ヘハ茲ニ一村落アリ歩兵一聯隊ノ宿營ニ當リ二大隊ヲ舍營セシメ一大隊ヲ宿營セシムルカ如シ。

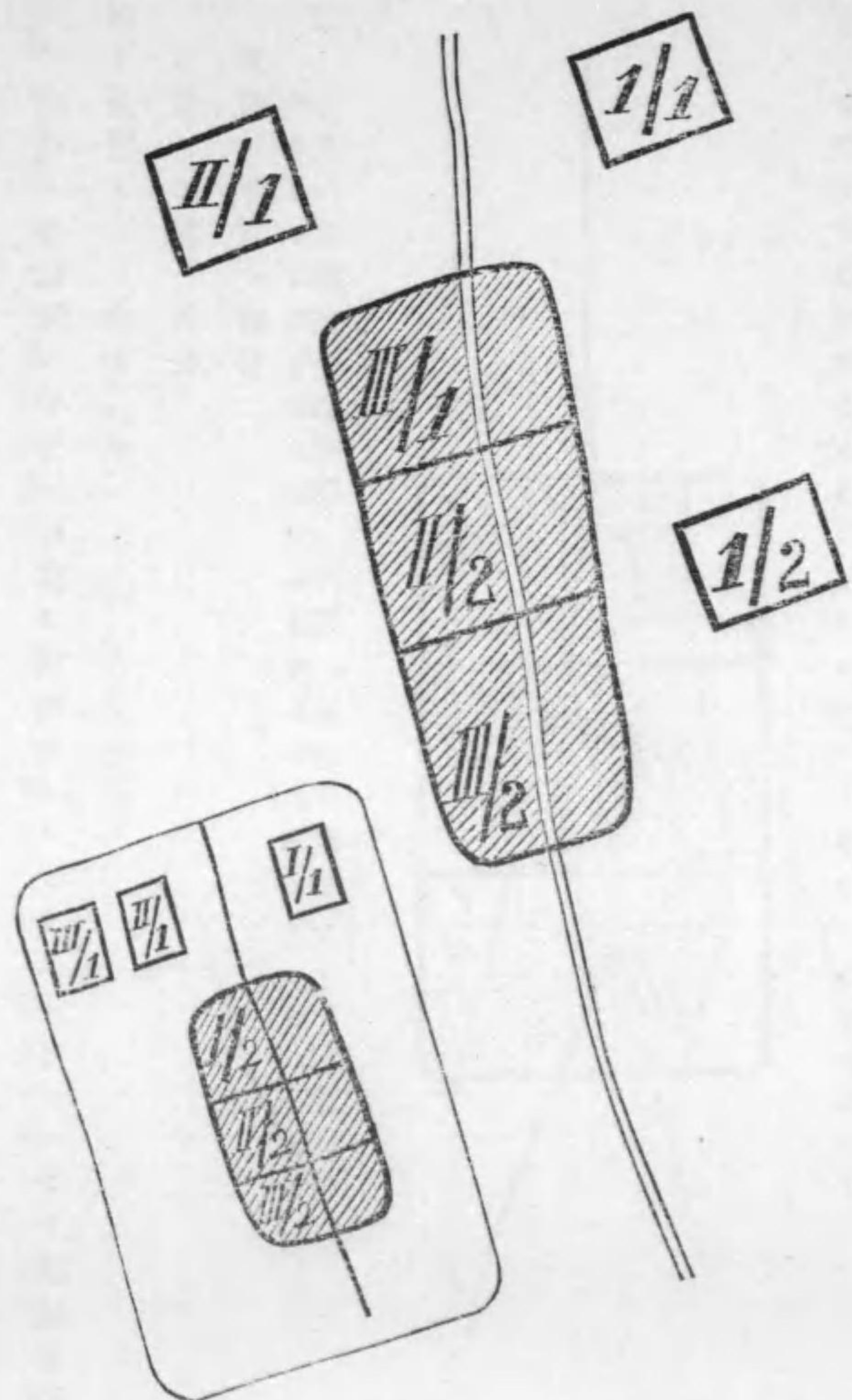
其一 歩兵一聯隊ノ村落露營。

其二 歩兵一旅團ノ村落露營

三大隊ヲ收容シ得ル村落ヲ利用スルニ一聯隊ヲ露營セシメ、一聯隊ヲ舍營セシムル方法ト、成ルヘク戰術單位ヲ缺カサル如ク兩聯隊ニ村落ノ利ヲ享受セシムルモノトノ二方法アリ、給養上ヨリスレハ後者ヲ利トスルコト勿論ナリ故ニ情



第六篇 宿營

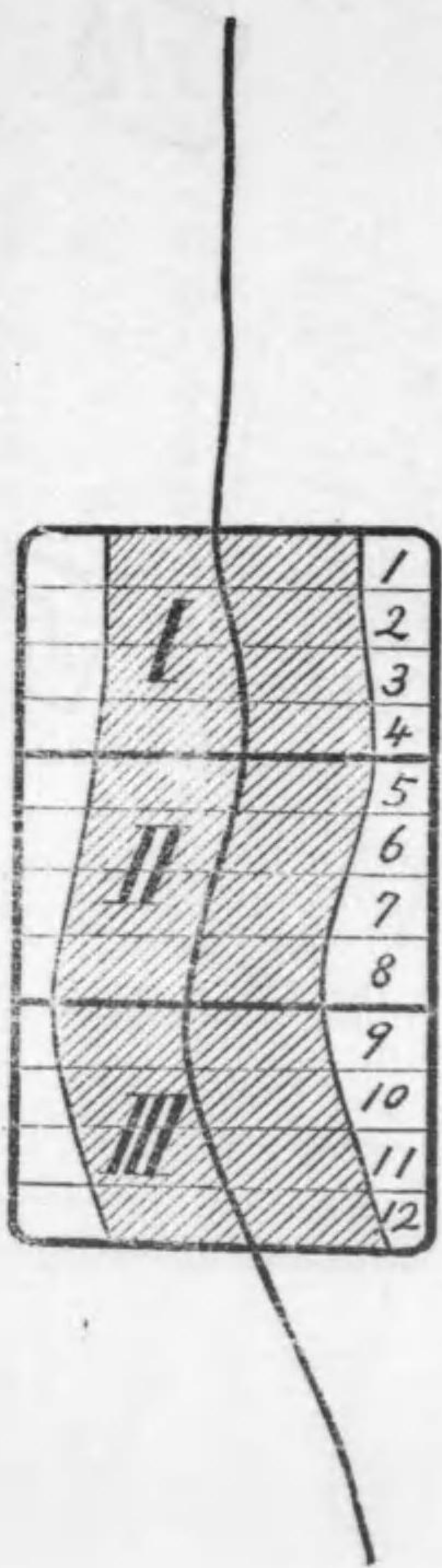


況之ヲ許セハ等シク村落ノ利ヲ享ケシムル如ク爲スヘシ。
 第二ノ方法ハ各部隊ニ平等ニ村落ヲ利用セシメントスルモノニシテ其結果建制
 部隊ヲ分割スルニ至ルヘシ。

單位ノ半數ハ舍營

單位ノ半數ハ露營

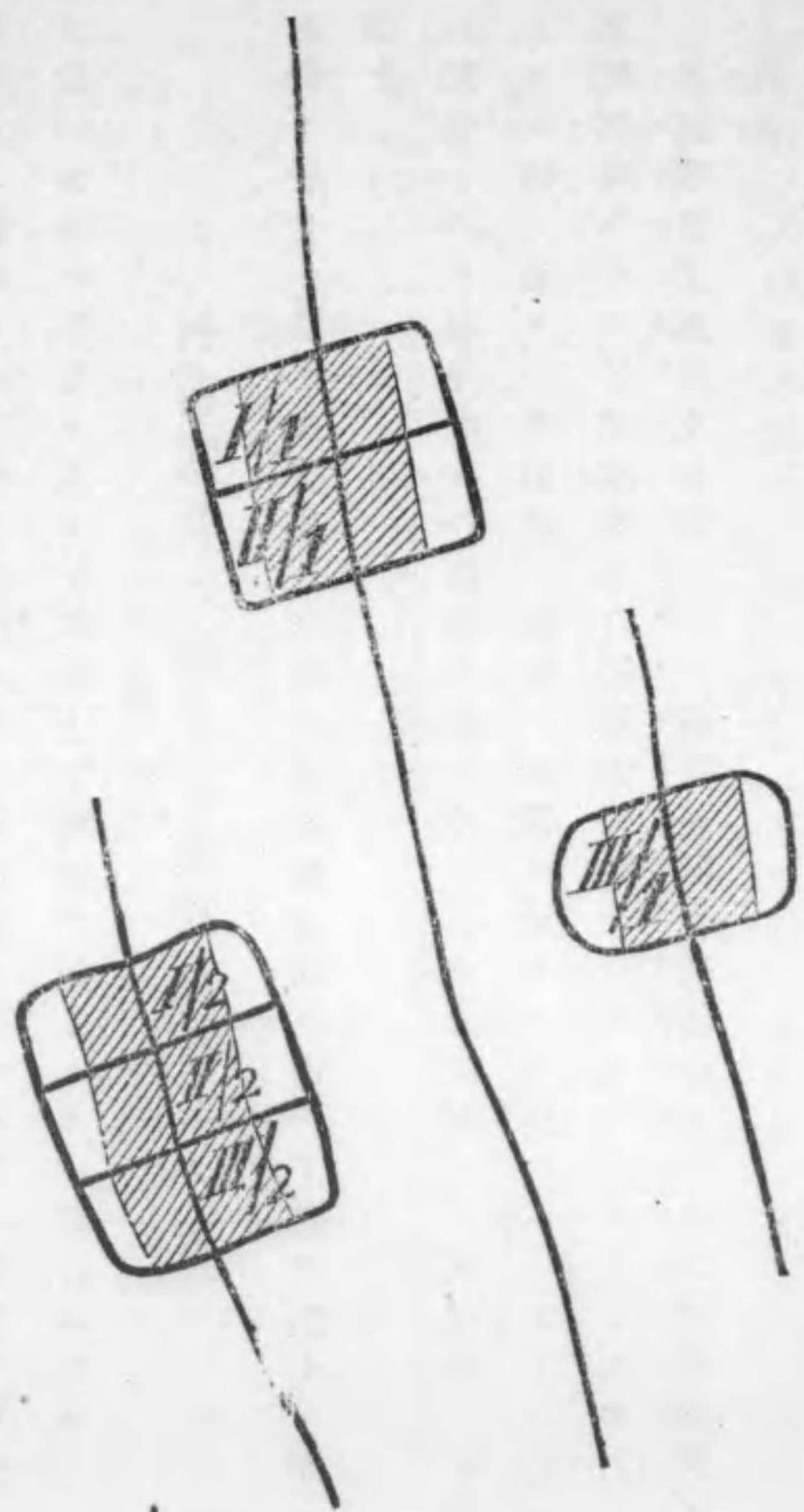
其三 歩兵一聯隊内ノ各部隊ニ平等ニ宿舍ヲ配當シタル村落露營



其四 歩兵一旅團ノ各部隊ニ平等ニ宿舍ヲ配當シタル村落露營

各露營法ノ利害及用所

建制毎ニ分配スルノ方法ハ戰鬥力ヲ有スル部隊ヲ速ニ使用シ得ルノ利アリ故ニ
 戰術上ノ使用ノ爲メニハ此ノ方法ヲ有利トスルモ露營部隊ハ少シモ村落ノ利益



ヲ享受スルコトナシ從テ此ノ方法ヲ用ユル場合ハ戰術上ノ顧慮大ニシテ休養ノ顧慮ヲ第二トシタル場合ナリトス。

平等ニ宿舍ヲ配當スルトキハ建制部隊ハ別レテ舍營部隊ト露營部隊トニナルヲ以テ戰術上ノ使用ニハ不利ナリ然レトモ各部隊平等ニ村落ノ利益ヲ享受スルヲ得從テ此ノ方法ハ休養ヲ主トシ戰術上ノ顧慮ヲ第二トスル場合ニ用ユ。

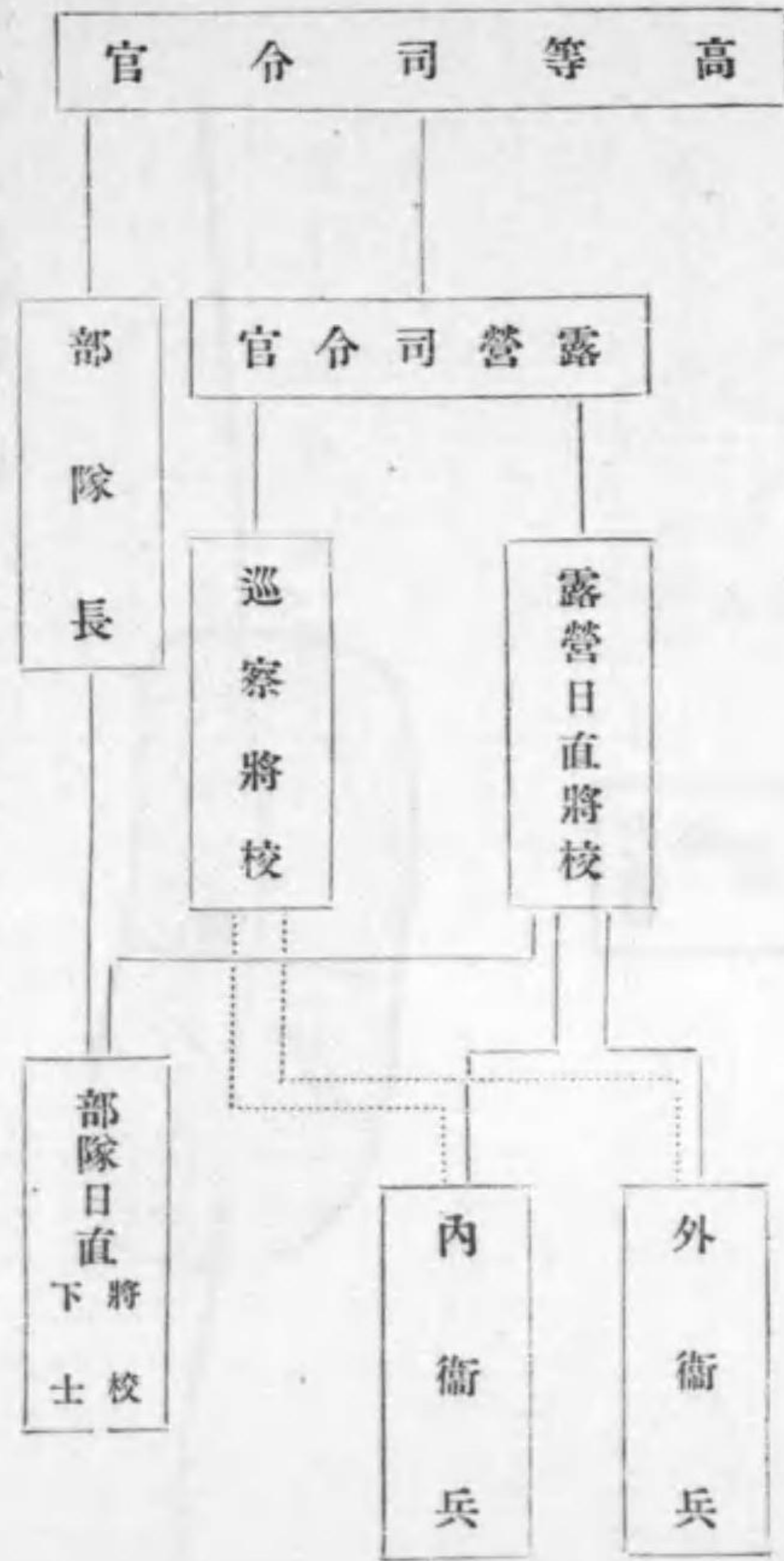
村落露營ニ於ケル勤務及警戒ノ方法

村落露營ニ於ケル勤務及警戒ノ方法ハ前記配當法ニ依リテ若干異ナル所ナキ能ハス即チ。

平等ニ配當シタル場合或ハ各部隊ヲ成ル可ク多ク舍營セシメ其殘餘ノ一部ヲ露營セシムル時ノ如キハ其勤務ノ關係ハ舍營ニ於ケルト異ナルコトナシ是レ舍營部隊、露營部隊トナリ、各部隊悉ク舍營及露營ヲナシタルヲ以テナリ即チ。

一 各部隊悉ク露營及舍營ヲナシ露營部隊、舍營部隊ナキ時ノ村落露營ノ勤務ノ關係。

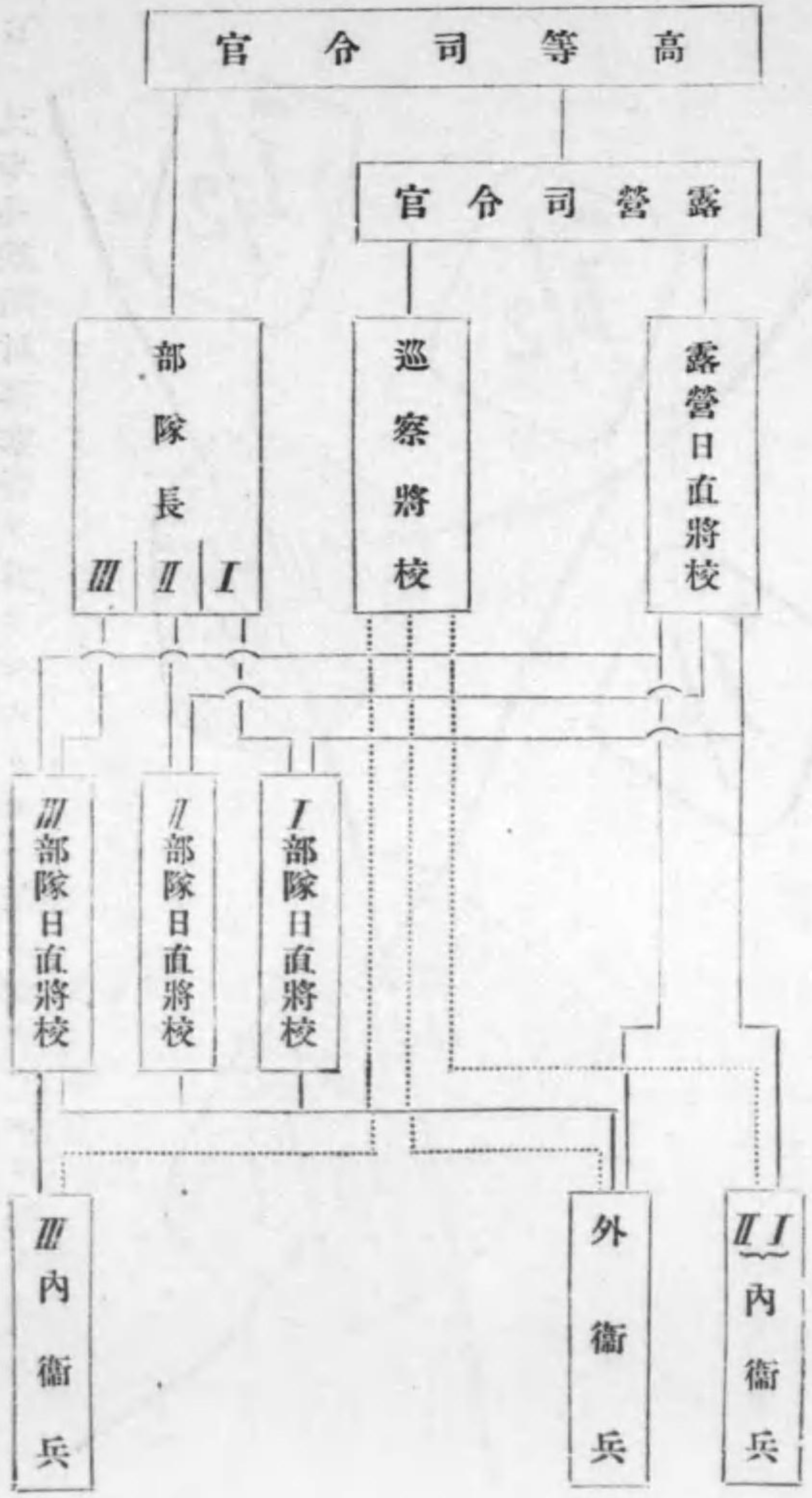
此ノ場合ノ勤務ノ關係ハ全ク舍營ニ同シ唯タ其名稱ニ若干異ナル所アルノミ。



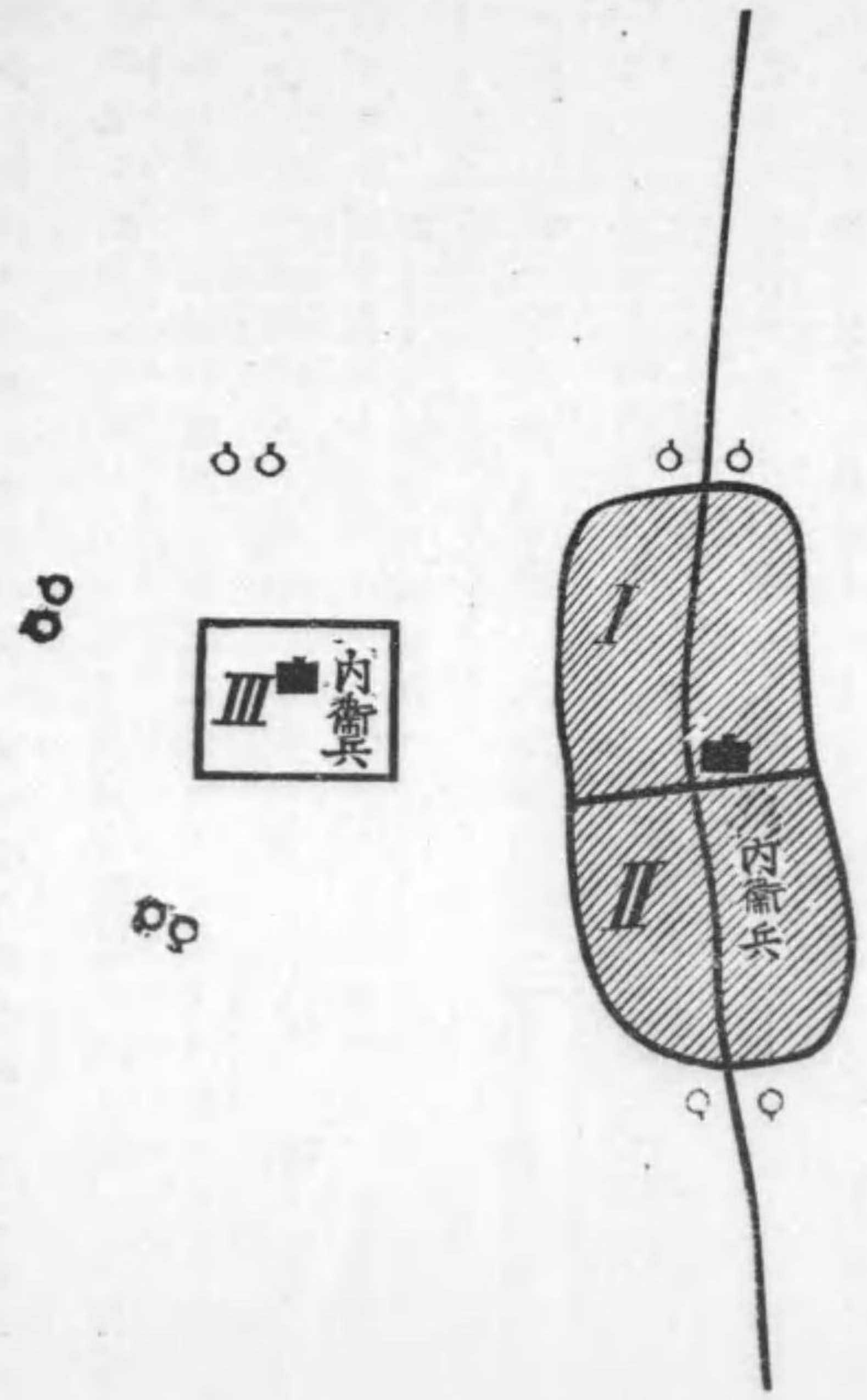
(全ク舍營ノ勤務ニ同シ但シ舍營ニ於テハ舍營司令官、舍營日直將校ト云フ)。
 ヒ、村落露營ニ於テハ露營司令官、露營日直將校ト云フ。

外衛兵ハ直營ノ露營ニ於テハ村落露營ノ勤務及警戒ノ
 將校本ノ然モ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 部スル部隊ハ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 全トシテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 カ部スル部隊ハ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 ニルニテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 設メテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 ハメテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 隊日直將校ニテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 校日直將校ニテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 スルニテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 ハリテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 合テ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 アテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 ナリテ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍

第六篇 宿營



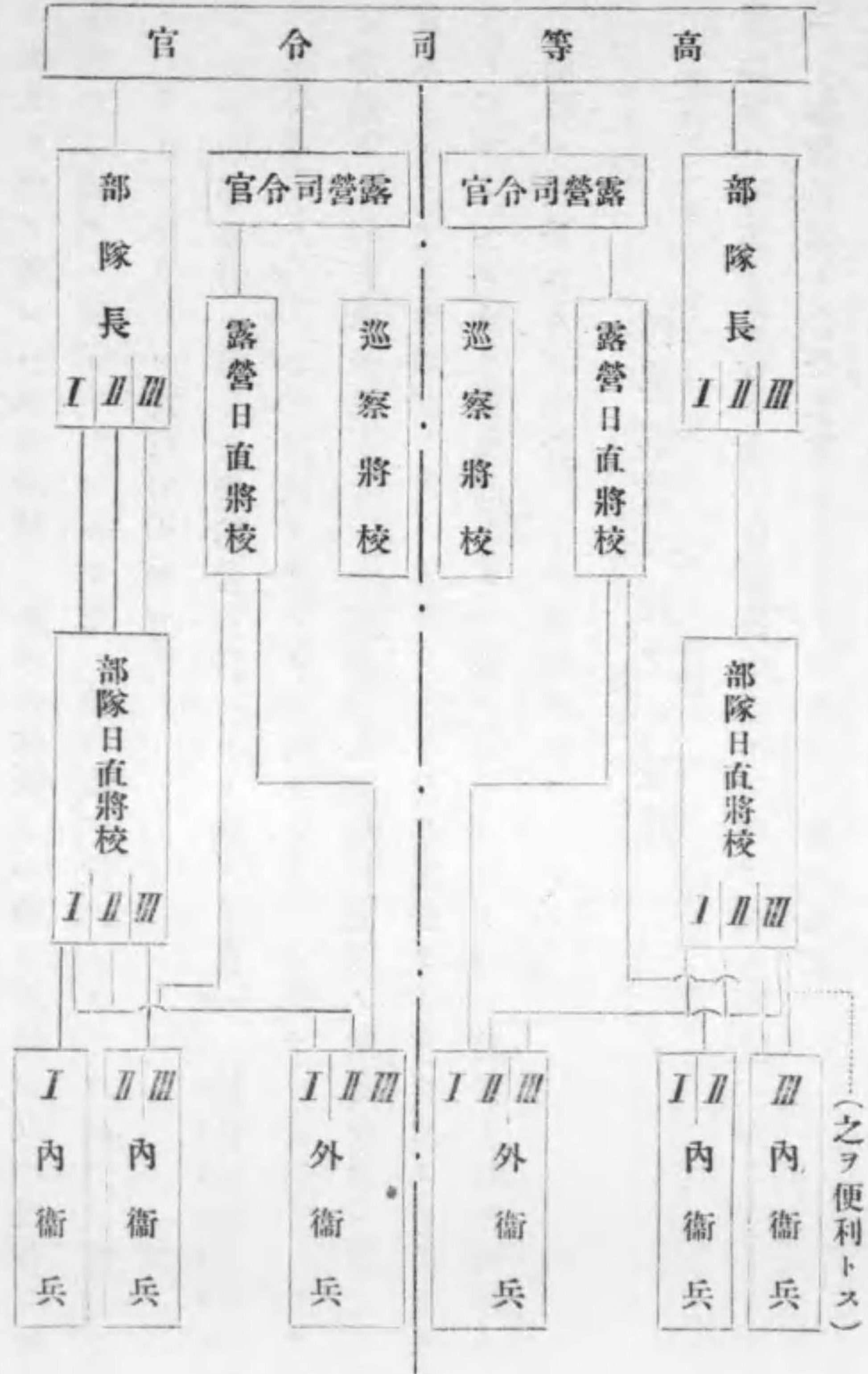
A 今右圖ノ如ク村落露營ナスモノトセハ其勤務ノ關係ハ左ノ如クナルヲ便
 トス



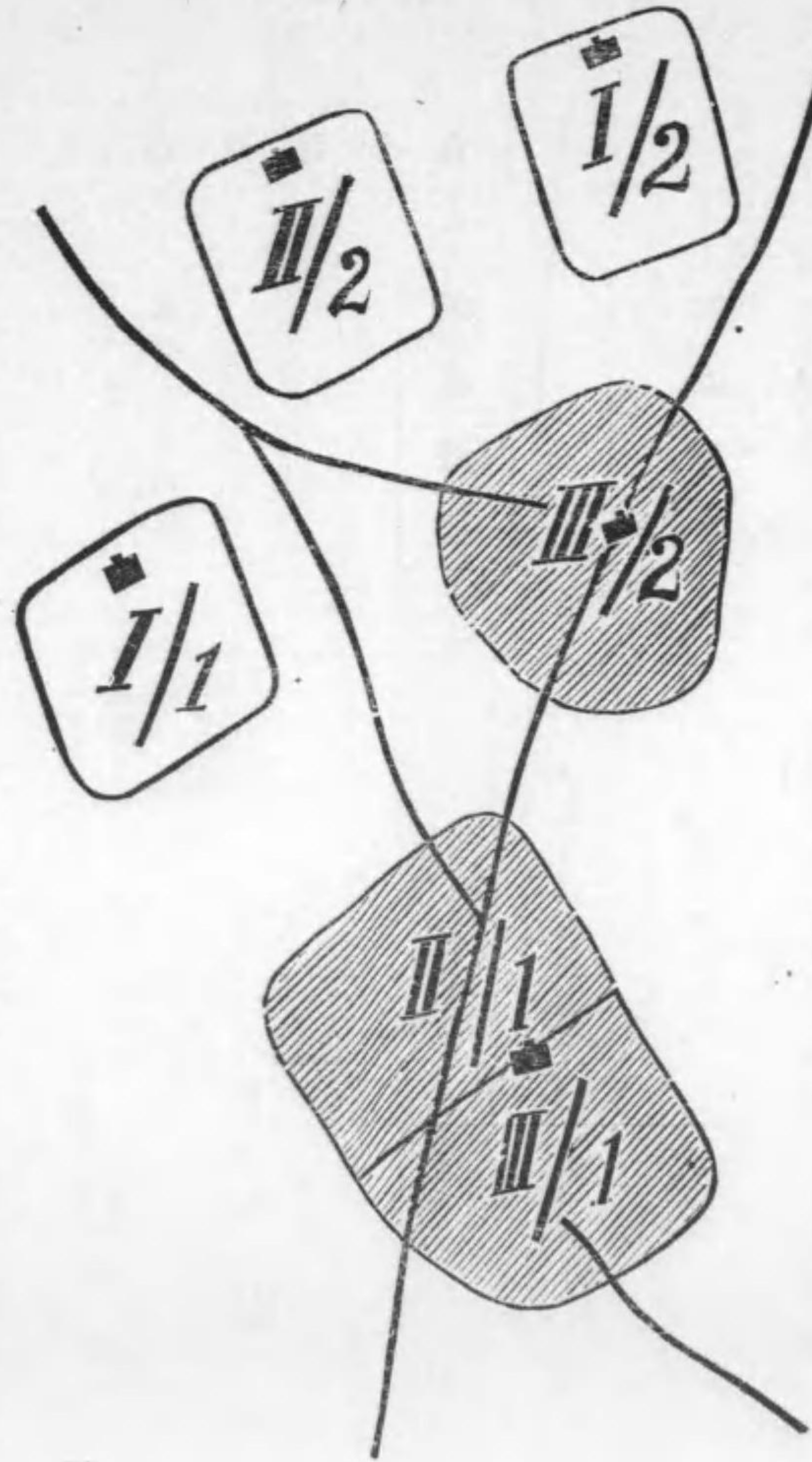
二 露營部隊ト合營部隊トアル村落露營ノ勤務及警戒
 此ノ場合ニ於テハ露營スル部隊ハ露營ノ警戒法及勤務ニ合營スルモノハ舍
 營ノ警戒及勤務ニ準シテ之ヲ定ムルモノトス

外衛兵ノ前合注ニ
關スルハ露營ノ
營具トナシテ
トコトナシ

第六篇 宿營



即チ此ノ際各聯隊毎ニ勤務員ヲ設クルカ或ハ之ヲ通シテ勤務員ヲ設ク、左圖ハ二露營司令官ヲ設ケタルモノナリ。



B 又歩兵旅團村落露營ヲ爲スモノトセハ左ノ如クナルヲ便トス。

是ニ依リテ之ヲ見レハ步兵旅團ノ如キ大部隊カ一地ニ宿營シタル場合ノ如キハ宿營地ヲ二若クハ數個トナシ各々是ニ勤務員ヲ設クルヲ以テ内外ノ警戒設備容易ニシテ且ツ恐ラクハ實際的ナルヘシ。

然レトモ村落露營ハ假令舍營露營ニ別ル、ト雖モ畢竟一ノ村落露營地ナリ故ニ此ノ露營地ニハ一ノ日直將校ヲ置クヲ至當トス果シテ然ラハ前宿營ニ於テ旅團ノ宿營地ヲ一村露營地トセハ一露營日直將校ハ旅團ノ露營舍營ニ關スル勤務ヲ執掌スルニ至リ其勤務ハ頗ル困難ニシテ村落露營ヲナスカ如キ情況ニ適セサルコト多カルヘク故ニ實際的ナリト謂ヒ得サルナリ從テ前者ノ如キ場合ニ於テハ二地區ニ區分スルヲ至當ニシテ實際的ナリトス。

村落露營ニ於ケル注意

- 村落露營ハ大兵ノ集合ニ費ス時間僅少ナルノ利アルモ亦之ニ伴フ害アリ即チ、
- 一 露營部隊ト舍營部隊トニ於ケル兵卒ノ雜踏、混亂。
 - 二 村落内ニ密集シ舍營スル部隊ノ混亂。

- 三 兵卒擅ニ人民ノ所有品ヲ使用ス。
 - 四 各部隊混淆シテ井水ヲ亂用ス。
 - 五 其他大兵ノ輻輳ヨリスル混雜。
- 是等ノ混雜ヲ防止セント欲セハ左ノ準備ト實行トヲ必要トス。

- 一 宿營地ニ入ル前ニ周到嚴密ナル規定ヲ設クルコト。
- 1 各部隊ノ區域ヲ明示スルコト。
- 2 行動ノ區域、通路等ヲ制限スルコト。
- 3 井泉ヲ配當スルコト。
- 4 要スレハ炊事場、馬繫場、砲廠ノ位置ヲ制限スルコト。
- 二 各部隊ノ將校ヲ率ヒ先ツ宿營地ニ急行シ所要ノ規定ヲ與ヘ之ヲ明示ス。
- 三 要スレハ之ト同時ニ兵卒ヲ先行セシメ必要ノ個所ニ步哨ヲ設置ス。

各宿營法ノ利害

宿營法

利

害

用ユル時機

營	舍
<ul style="list-style-type: none"> 一 軍隊集團シ在ルカ故ニ指揮、監視、容易且ツ命令報告ノ傳達ニ便ニシテ集合迅速ナルヲ以テ戰鬪準備容易ナリ。 二 舍營ニ比シ比較的の多クノ警戒兵ヲ要セス。 三 露營ハ概テ行軍路ノ側方或ハ戰鬪陣地ノ附近ニ於テスルヲ以テ宿營ニ就クニ便利ナリトス。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 雨風ヲ障蔽シテ人馬ヲ休養シ體力ノ恢復ニ最モ適當ナリ。 二 需用品ノ補充、調理簡易ナリ。 三 被服裝具ノ補修ニ便ナリ。 四 燈火自由ニシテ命令、報告ノ筆記其他執務容易ナリ。
<ul style="list-style-type: none"> 一 軍隊ハ各家屋ニ分宿スルヲ以テ命令、報告ノ傳達不便ニシテ且ツ集合ノ爲メ時間ヲ費スコト比較的の多ク戰鬪準備困難ナリ。 二 警戒ノ爲メ比較的の多クノ兵力ヲ要ス。 三 指揮官部下ヲ掌握監視スルニ便ナラス。 四 部隊宿舎ニ就クニ當リ其勞大ナルニ從ヒ時間ト勞力トヲ費ス。 五 兵卒ト人民トノ觸接ハ軍紀、風紀ヲ紊シ易ク且ツ間諜ニ便宜ヲ與フル虞レアリ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 敵ニ接觸シ夜間尙ホ戰術上ノ顧慮ヨリ一定ノ地域ニ位置セサルヲ得サルトキ例ハ戰鬪ノ前後其占領セル地點ニ駐止スルトキ或ハ戰鬪局ヲ結ハスシテ日没ニ至リ戰ヲ中止セシ時。 二 前線ニ在リテ警戒ニ任スル前哨部隊。 三 決戰ノ前後ニ於テ大兵團ヲ一地ニ集合スルトキ。 四 舍營スヘキ村落ニ乏シク他ニ方法ナキトキ。 五 住民地ニ傳染病アルカ爲メ之ヲ避クルトキ。

營	露
<ul style="list-style-type: none"> 一 軍隊集團シ在ルカ故ニ指揮、監視、容易且ツ命令報告ノ傳達ニ便ニシテ集合迅速ナルヲ以テ戰鬪準備容易ナリ。 二 舍營ニ比シ比較的の多クノ警戒兵ヲ要セス。 三 露營ハ概テ行軍路ノ側方或ハ戰鬪陣地ノ附近ニ於テスルヲ以テ宿營ニ就クニ便利ナリトス。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 軍隊集團シ在ルカ故ニ指揮、監視、容易且ツ命令報告ノ傳達ニ便ニシテ集合迅速ナルヲ以テ戰鬪準備容易ナリ。 二 舍營ニ比シ比較的の多クノ警戒兵ヲ要セス。 三 露營ハ概テ行軍路ノ側方或ハ戰鬪陣地ノ附近ニ於テスルヲ以テ宿營ニ就クニ便利ナリトス。
<ul style="list-style-type: none"> 一 敵ニ接觸シ夜間尙ホ戰術上ノ顧慮ヨリ一定ノ地域ニ位置セサルヲ得サルトキ例ハ戰鬪ノ前後其占領セル地點ニ駐止スルトキ或ハ戰鬪局ヲ結ハスシテ日没ニ至リ戰ヲ中止セシ時。 二 前線ニ在リテ警戒ニ任スル前哨部隊。 三 決戰ノ前後ニ於テ大兵團ヲ一地ニ集合スルトキ。 四 舍營スヘキ村落ニ乏シク他ニ方法ナキトキ。 五 住民地ニ傳染病アルカ爲メ之ヲ避クルトキ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 軍隊ハ各家屋ニ分宿スルヲ以テ命令、報告ノ傳達不便ニシテ且ツ集合ノ爲メ時間ヲ費スコト比較的の多ク戰鬪準備困難ナリ。 二 警戒ノ爲メ比較的の多クノ兵力ヲ要ス。 三 指揮官部下ヲ掌握監視スルニ便ナラス。 四 部隊宿舎ニ就クニ當リ其勞大ナルニ從ヒ時間ト勞力トヲ費ス。 五 兵卒ト人民トノ觸接ハ軍紀、風紀ヲ紊シ易ク且ツ間諜ニ便宜ヲ與フル虞レアリ。

考 備	營 露 落 村
<p>舍營モ亦其狹縮ナルカ廣舍營ナルカニ從テ利害一様ナラス村落露營モ亦其宿營スル所ニ依リテ異ナルト雖モ相對的ニシテ舍營ハ給養本位ニ有利ニ露營ハ戰術本位ニ有利ニ村落露營ハ其中間ニシテ宿營當時ノ據ル所ニ從ヒ何レカ一方ニ傾クモノトス。</p>	<p>本宿營法ハ兩者ヲ折衷シタルモノナルカ故ニ其利害モ亦折衷シタルモノナリ而シテ其利害ハ宿營ノ戰術上ニ從ヒタルカ或ハ給養上ニ從ヒタルカニ依リテ差ヲ生ス。</p> <p>一 敵ニ接近セルカ爲メ警戒上全部ノ舍營ヲ許サ、ルトキ。</p> <p>二 數團隊ヲ稠密シテ集合セシメンカ爲メ其集合區域内ノ部落ニ全隊ノ舍營ヲ許サ、ルトキ。</p> <p>三 地方ニ住民家乏シキカ爲メ全隊舍營ヲ爲ス能ハサルトキ。</p>

第五章 獨立セル騎兵ノ宿營

獨立シテ宿營スル騎兵ノ宿營地

敵ノ近傍ニ獨立シテ宿營スル騎兵ハ自ラ前哨ヲ設ケテ警戒シ且ツ搜索スルハ勿論敵ノ急襲ニ對シ速ニ之ヲ發見シテ自己ノ行動ヲ容易ニシ火器ヲ利用シテ抵抗ヲナスヲ主眼トス、之カ爲メニハ搜索ヲ必要トス從テ宿營地ヲ撰定スルニハ左ノコトヲ顧慮スルヲ必要トス。

- 一 宿營地ハ獨立シテ防禦スル爲メ火器ノ使用ニ適當ナルコト、外圍ニ壁ヲ有シ射界廣潤ナル如キ是レナリ。
- 二 敵ノ近接困難ナルコト即チ障礙物ノ後方ニシテ良射界ヲ有スルコト。
- 三 我カ行動容易ナルコト。
- 四 我カ行動ヲ掩蔽シ得ルコト。

此ノ如キ地ニ宿營スルト雖モ情況ニ依リテハ直接警戒ノ爲メ徒歩ノ外衛兵ヲ配置スルヲ要スル事アリ然ルトキハ其衛兵ノ馬匹ハ相合シテ宿セシメ、又道路ヲ閉塞スル等ノ處置ヲ必要トス。

獨立セル騎兵ノ宿營地警戒法

獨立シテ宿營スル騎兵ハ其宿營地ノ撰定ニ依リ天然又ハ人工ノ障礙ニ據リテ敵ヨリ掩護セラレ、ヲ緊要トスルコトハ前述ノ如シ。

然レトモ騎兵ハ左ノ長所及短所アルヲ以テ敵ノ近傍ニ宿營スルニ當リテハ之ニ對シ適當ノ處置ヲ講スルヲ要ス。

一 騎兵ノ長所。

1 搜索力大ナリ。

2 行動迅速ナリ。

二 騎兵ノ短所。

1 宿營ヨリ出發若クハ他ノ行動ヲ取ルニ步兵ヨリ時間ヲ費スコト大ナリ

2 歩兵ノ如ク抵抗力大ナラズ。

從テ騎兵獨立シテ宿營スルニ當リテハ其取ルヘキ處置左ノ如シ。

一 常ニ搜索ヲ以テ敵ノ行動ヲ速ニ發見シ之ニ應スルノ處置ニ於テ機先ヲ制スルコト。

二 宿營地防禦ヲ怠ラサルコト殊ニ火器ノ利用ヲ圖ルコト從テ徒歩ノ外衛兵

ヲ配置スルコトアリ。

此ノ如クシテ宿營地ヲ掩護シ且ツ警戒スルモノトス而シテ一度警報アルニ方リテハ速ニ左ノ如ク行動ヲ決スヘシ。

一 直ニ馬匹ヲ整頓スヘキカ。

二 徒歩ニテ集合スヘキカ。

三 豫メ定メタル區分ニ從ヒ一部ハ徒歩ニテ集合シ他ハ馬繋場ニ到ルヘキカ。是等ノ處置ヲ情況ニ適應セシムルハ實ニ隊長ノ責任ナルヲ以テ豫メ研究シ所要ノ指示ヲナシ置クモノトス。

騎兵ト露營

騎兵ノ露營ハ必シモ戰備ノ嚴ナルモノニアラス是レ蓋シ其馬匹ノ處理、兵卒ノ準備等ニ於テ歩兵ノ露營ニ於ケルカ如ク簡單ニシテ其整備迅速容易ナラサルヲ以テナリ殊ニ其馬匹ノ多數ナルニ於テ夜間ノ暗黒ナルニ從ヒ其混亂ノ度ハ愈々増加スルヲ以テ成ルヘク敵ニ近ク露營スルヲ避ケ村落ヲ利用シテ宿營スルヲ可ト

ス。
若シ已ムヲ得スシテ露營スルトキハ情況ニ從ヒ戰備ノ度ヲ規定スルコト殊ニ緊要ナリ即チ。

- 一 鞍及勒ヲ裝スヘキカ。
- 二 飲秣ハ如何ニスヘキカ。
- 三 馬匹ヲ安全ナル地ニ退避セシメ置クヘキカ。
- 一 兵卒ノ一部ハ絶エズ銃ヲ手ニシ在ルヘキカ。
- 二 如何ナル割合ニ假眠スヘキカ。
- 三 如何ナル警戒法ヲ採ルヘキカ。

等ニ就キ考慮シテ遺算ナキヲ期セサルヘカラス殊ニ敵ノ騎兵ニ對シテハ單ニ正面ノ警戒ヲ以テ足レリトセス我ガ側面並ニ背後ヲモ警戒スルヲ要ス是レ敵ハ行動自在ナル騎兵ナルコトヲ通常トスルヲ以テナリ。

大正野外要務詳解卷之七終

大正三年九月廿一日印刷
大正三年九月廿五日發行

改正陣中要務詳解第七卷附
定價 金八十五錢
郵稅金八錢



發行者 伊藤芳松
著者 松澤 三
印刷者 東京市麴町區下六番町十七番地 松澤 三

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
電話新橋二六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番
兵事雜誌社

御待兼の訂正大増補第十一版發行



體裁四六判半裁。頁數一千餘頁
製本本製金文字入。附圖並箱附
全一冊 金壹圓 小包料金八錢

好評噴々版を重ねること第士版に及びし本書が如何に上元帥より下下士に至るまで階級と兵科とを論ぜず指揮官たり幹部たる者に必須至便の書なるかを紹介せん爲め左に編者の自序を掲げ以て廣告に換ふ。

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
(電話新橋二六〇五番)

兵事雜誌社

余ヤ不敏固ヨリ人ノ師長ヲ以テ自任スル者ニアラサレトモ徳伴ニシテ陸軍大學ノ門ヲ出テタルノ光榮ニ浴セルヲ往々青年將校諸子ノ推獎ヲ受ケ學術上ノ研鑽實業ニ賛同應答スルノ任ニ當ラン事ヲ懇請セラレ之ヲ二三同學ノ僚友ニ問クニ亦同僚ナリトイフ是ニ於テ吾人相圖リテ一個ノ打合セ研究会ヲ組織シ方今最先ノ急務トシテ屢々依頼ヲ受ケタル陣中必携ノ材料ヲ蒐集セリ其ノ範圍ハ固ヨリ軍事全般ニ亘リ原則ノ研究ニ應用作業ニ野外ノ實施ニ計畫施設ニ必須事項ハ悉皆之ヲ網羅シテ遺徳ナカラシメントトナ期セリ此ノ如キ事業ハ一人ノ力ヲ以テシテハ容易ニ功ヲ舉ヘ難キ虞アレトモ幸ニシテ數人ノ戮力ヲ得タル結果偏重偏傾ノ失ヲ免ルルヲ得タルハ余ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ。而シテ當初ノ所期ハ勿論之ヲ世ニ公ニセントスルニアラス以テ篤學ナル知己ノ懇請ニ酬イントスルヨリ他意ナカリシガ兵事雜誌社主編マ之ヲ耳ニシ來リテ余ヲ訪ヒ之ヲ秘シテ僅ニ二三子ノ便ヲ圖ルニ止ムルノ理由ナキナリ且ツ熱心ナル研究者ガ千金ノ時間ヲ費シテ傳寫ヲ爲スノ徒勞ヲ吝ミ切ニ之ヲ鉛筆ニ附シテ以テ廣ク同好者ヲ益セン事ヲ請フ余等其ノ事ノ意外ナル思フト雖モ事公益ニ存ストセハ又強ヒテ之ヲ拒ムノ辭ナラセズ即チ更ニ嚴重ナル選擇ヲ施シテ終ニ之ヲ公刊スルニ至レリ。終ニ臨ンテ余ハ表紙ニ刻セル徒歩計ヲ紹介セサルヘカラス是ハ千々和中尉ノ新案ニ成リ陸軍戸山學校ノ之ヲ採納セルモノ頃者噴々タル好評ヲ有ス本書ニ其ノ使用法ヲ附録セルカ故ニ讀者熟讀シテ之ヲ實驗セハ考案者ノ功績ノ偉大ナルヲ認ムルヲ得ヘシ即チ之ニヨリテ距離ノ測定ト距離ニ適應スル運動ノ計畫トヲ正確ニスルヲ得ヘシ余ハ陸軍戸山學校並ニ考案者ガ之ガ版權ヲ寄與サレ本書ノ價價ニ一段ノ重キヲ加フルヲ得シメラレタル好意ヲ感謝スル者ナリ。

五月吉日 著者ノ一人 謹

見よ 戦役の教訓

歐人の日露戦役實驗に基く

奥國工兵大尉フオンタルナワ氏著 兵事雜誌社編輯局翻譯
陸軍工兵大佐木全多見殿 陸軍工兵少佐有川鷹一殿 校正

日露戦役の實野戦築城
驗上に基ける

體裁四六判用紙舶來上等洋紙
製本クロイス本製金文字入り
附圖八枚附
全一冊 金三十五錢 郵稅六錢

本書は奥國工兵大尉フオン、タルナワ氏の著千九百五年出版)に基きたるものなり、而して原書の内容は日露戦争の實驗に基きたる各種の野戦築城論、歐洲列強國の軍事著述大家の諸説並に典令教範の對照より成りたるものなり。日露戦役の結果は野戦築城界に如何なる變動を來せし乎、果た歐人の目に映じたる該戦役の效果如何等は本書によりて其の梗概を知るに足らん。

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社

● 廣 告
陸軍武兵大尉 奥田昇殿著

基本戰術の應用 卷の一

命令篇
行軍篇
前哨篇

林裁四六版頁數二百五十餘頁附錄二萬分一地圖菊版全紙一一般圖一
郵價 一冊 金五十錢
稅 六錢

本書は數多の單簡なる想定を設け是に由りて各種の戰況を顯し之が答解には一々典令を引照例示し各字句に至るまで巨細漏さず反覆懇篤に詳解を施せる近來無比の好著にして之に加ふるに愛讀者の何時も購求に難する所用地圖は一般圖は勿論詳細なる二萬分一の大地圖を附録として附しあれば他の戰術書の如く地圖購入の煩を要せず實に初學者の寶庫と謂つべき珍書なり。著者の本書を著したる所以は初學者にして往々未だ諸原則を十分に理解せずして徒らに應用を囁くするの弊を救はんとするにあり、戰術學の堂奥に上らんとする者は本書に於て必ず最良なる階梯を發見するを得ん。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

● 發 行 所

兵 事 雜 誌 社

電話新橋二六〇五番

東 洋 隱 士 譯

千九百二十年英國步兵操典摘要

一名、佛、獨、伊、露埃國步兵操典對照せる英國步兵操典の研究

定價 全 一 冊
正 價 金 十 八 錢
郵 稅 金 四 錢

吾人が爰に英國步兵操典を紹介するの理由は彼の獨佛操典の如きは我に於て既に其の英華を採り盡したりと雖も我が同盟國たる英國の操典に至りては未だ之に及ばざるものあるが故なり思ふに南阿の戰爭は世界最近史上の一大奇觀にして實に眇たる彈丸黒子の地を以て堂々たる世界の最強國を苦むるに三年に及びたる結果英國が此の苦戰より得たる教訓は各國軍隊に取りて實に大なる價值を有するものたるや論なし是に於てか名譽ある元帥ロバート將軍は役終るや直に操典の改正に着手し本書は實にその結果に出づるものなり加ふるに本書は特に佛獨伊露埃諸國の步兵操典を對照して具に研究を遂げたるを以て其の讀者を益すること蓋し尠少に非ざるべし

● 發 行 所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵 事 雜 誌 社

陸軍少將 野口坤之閣下校閱
陸軍歩兵大尉 三澤活水殿著

中隊の家庭教育

體裁四六判紙數約百八
拾頁製本本製金文字入
全一册 金四十錢
郵一册 金六十錢

大好評初版賣切れ第二版發行

軍隊生活を以て一種の家庭生活たらしむる事は是れ内務書の命ずる所にして我が國軍をして一層の元氣を湧出せしむる所以の源泉なり但し言ふは易く行ふは難し日常生活をして如何にして此新理想に適はしめんか其の方法手段に至りては卓越なる見識と緻密なる實驗とに須たざるべからざるものにして一朝一夕に案出し得らるべきに非ざるなり本書は著者の熱心なる考察と多年の經驗とを基とし其の蘊蓄を傾倒して記述せられたるものにして一言一句實際の必要に觸れざるものなく微に入り細を穿ち悉く人を首肯せしむ實に軍隊家庭の慈父慈母たり又嚴師畏友たる良書といふべし將校下士諸君は坐右必ず一本を備へらるべし平生の疑團漠然として氷釋せらるる者あらん

●發行所

電話新橋二六〇五
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

研究會員某著

實驗に因る夜間演習教育全

體裁 菊判
全一册 金五十錢
郵稅六錢

火器の進歩と日露戰爭の實驗は吾人に夜間行動の必要を大に感せしむるに至れり然るに夜間の行動たるや晝間の行動と異なり心理的の制肘妨害を受くること實に多大なれば夜間行動の教育は常に此心理的方面の研究を基礎として教育せざるべからず。

本書は即ち此方面より多年實驗攷究したる其成稿にして實に此種教育書の泰斗と云ふも過言にあらずとは世評なり弊社は本書の價値に就き嗚々するを止め左に著者の緒言を掲げ以て廣告に換ゆ

緒言

日露戰役後夜間演習教育ノ必要ヲ唱フル聲年々ニ喧シ之レ其自然ノ要求是ヲ然ラシムルモノニアラスシテ何ソヤ。予亦夜間演習教育ニ多大ノ趣味ヲ有シ戰役後之ガ研究ニ焦心シツハアリ而シテ今ヤ數年ノ經驗ト先輩諸官ノ甚大ナル助言ト指導トニ依リテ其經驗ヲ緝録シテ冊子ヲ作セリ本書ヲシテ更ニ良好ナルモノタラシムルハ實ニ大方諸賢ノ貴重ナル實驗ノ發表ト其懇篤ナル助言トニアリ敢テ軍國ノ爲メニ忠實ナル研究ヲ望ミ同時ニ本書ヲ編スルニ當リ甚大ノ助言ヲ與ヘラレタル某校教官諸賢ノ厚意ニ對シ深厚ナル敬意ヲ表ス。

明治四十四年八月

著者誌

初版忽ち賣切れ再版發行

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話新橋二六〇五番
振替貯金二〇九八七番

兵事雜誌社

軍隊教育者は本書を見を失念する勿れ

大好評書

陸軍歩兵大佐
陸軍歩兵少佐
陸軍歩兵中尉

堀内文次郎殿序
佐久間五郎殿校正
曾根田謙次殿著

射撃教練の私解全

體裁菊判二百五十餘頁
全一冊 金五十錢
郵税 金六錢

軍隊に於ける各種教育中、射撃教育の最も至重にして最も至難なることは、敢て喩々するに足らざるなり。故に苟くも教育の任に當る者は、匪勉努力日夜學を講じ、且つ其の技に精熟して、先づ兵卒に活模範を示すの要あり。二年歸休制度の歩兵教育に於いて特に然りとす。中尉曾根田氏は篤學熱誠の士なり。乃ち任官後に於ける時日の大部分を上述の研究に用ひ、其の得たる所を以つて改正草案中、第廿九項乃至第六十八項に至る迄に詳解を加へ、稿成るや第五十八聯隊長堀内大佐、及戸山學校教官佐久間少佐兩氏の綿密なる校閲を経たるもの、本書即ち是れなり。堀内大佐本書に序して曰はく、「(前略)之を閲するに、注意周到にして研究旨に適ひ、教育實施の計畫も亦可なるに依り、射撃學術研究者の利する所尠からざらん。こゝ以つて内容の如何を推知し得べし。該教育に熱誠なる人士の、決して見遁し能はざる好著なり。」

◎發行所

電話新橋二六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

有志專攻會著

日獨佛射撃教範比較研究

體裁菊判
紙數約二百頁

弊社は本書の内容及特長に就き喋々するを止め著者の緒言の一部を左に記し廣告に換ふ

全一冊 金四十錢
郵税六錢

緒言

步兵戰鬥ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ銃劍ヲ以テ之ヲ破碎スルニアリ若シ夫レ射撃ノ效力ヲ無視シ徒ラニ白兵ヲ以テ敵ヲ破碎セントスル如キハ樹上魚ヲ求ムルニ如カズトナサズ故ニ苟モ戰勝ヲ欲セバ須ク物質精神兩方面ニ於テ對者ヲ制壓シ兩々相俟チテ以テ絶對的優勝者タルコトヲ努メザルベカラズ茲ニ於テカ吾人同輩些カ斯道ニ經驗アルノ故ヲ以テ茲ニ研究ノ緒ヲ開キ將ニ沈衰セントスル射撃界ノ爲メ覺醒劑ヲ呈供セントス是ニヨリ些少ト雖モ軍事界ヲ益スルコトアレバ同人ノ望ハ乃チ足レリトナス

著者 同人

◎發行所

振替貯金東京二〇九八七
電話新橋二六〇五

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社出版略目

Table of military books with columns for author (著譯者), title (書名), volume (全八册), price (正價), and publisher (兵事雜誌社). Includes titles like '大正野外要務詳解' and '戰術原則の應用'.

Table of military books with columns for author (著譯者), title (書名), volume (全一册), price (正價), and publisher (兵事雜誌社). Includes titles like '步兵操典改正草案評釋' and '戰術原則の應用'.

丸山 著	本社編輯	若林 少佐著	木村中佐講述	橫井先生校閱	武田少將校閱	宇野 教授著	石村 教授著	廣山氏 著	井上博士講演	瀧美 大尉著	某氏の著	某氏の著	I M 氏著	吉野中佐校正	東條 中將著	A B 氏著	奥田 大尉著	B M 氏譯	大原 少佐著	井上 大尉著
鳴呼武田中尉	軍隊生活	海軍生活	漕艇案	内外百傑	軍人格言例證	軍法誓文衍義	朝鮮半島の天然人	武隊服務要覽	新式火砲	兵器學試驗問題解答全	戰爭と外交	獨逸機關銃射擊教範	新獨逸步兵操典對照私解	基本戰術の研究	基本戰術の應用卷の一	於ける步兵の隊形及運動	步兵の攻撃卷の一	上等兵學科教育應用問答	下等兵學科教育應用問答	步兵の攻
全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	卷の上	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册
〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・六	〇・三	〇・三	〇・三	〇・六	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三
〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三
那須合著	無名氏著	本社編輯	教育總監部	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
帝國國難の夢	東洋の大波瀾	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史	清國動亂史
上下	全二册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册	全一册
〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三
〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三	〇・三

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社

電話新橋二六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

319
319

終